

大同大学紀要

第 61 卷

2 0 2 5

建学の精神

**産業と社会の要請に応える
人材の養成**

大学の理念

実学主義

**大同大学は
実学の教育と研究を通じて
産業と社会に貢献します**

目 次

ミリガウス磁場処理水がバジルの生育に及ぼす影響

橋本雄一 1

要員合理化に対する労使協議の規制力

—鉄鋼業A社の職場決定型労使協議の事例研究—

藤井浩明 西尾功 9

Salは逃亡者かハンターか: *On the Road*の巡礼の旅

松井豊次 23

ミリガウス磁場処理水がバジルの生育に及ぼす影響

Effect of Milli-gauss Magnetic Field Treated Water on the Growth of Basil in Hydroponic Culture

橋本 雄一*

Yuichi Hashimoto

Summary

We examined the electric characteristics of milligauss magnetic field treated water using impedance and oxidation potential measurements. The charge transfer resistance for the treated water gradually decreased after application of a milligauss magnetic field in a short time. On the other hand, the oxidation potential of the treated water increased by about 10 mV as compared to that of pure water. The decrease in charge transfer resistance is considered to be due to a stable hydro-molecular cluster formation, i.e. $\text{H}_3\text{O}^+(\text{H}_2\text{O})_{20}$. The basil growth in hydroponic culture was carried out using both pure and milligauss magnetic field treated waters. From the experimental results, we note that: (I) the growing values in stem and leaf of basil using the treated water are smaller than those of pure water, (II) the dry weight of basil using the treated water decreases as compared to that of pure water. The experimental findings have suggested that there are some correlative relationships between the growth of basil and the oxidation potential of the treated water. The water treated using low magnetic field, i.e., a milligauss.

キーワード：ミリガウス、インピーダンス、酸化電位、水耕栽培、水分子クラスター

Keywords : milligauss、 impedance、 oxidation potential、 hydroponic culture、 hydro-molecular cluster

1. はじめに

水は、生命の存在と維持に基本的な役割を果たしている重要な材料の一つである。また、4℃で密度が最大になることや熱容量・表面張力が他の液体に比べて大きいことなど特異な性質を持っている。これらの物理化学的な性質は、最先端の分光実験やコンピュータシミュレーションを用いて多くの研究が進められており、特に水を分子レベルで制御し、その構造を明らかにすることが水の特異性の解明につながるものと期待されている。これまで水の構造を明らかにした研究例は非常に少なく、例えば液相クラスター質量分析装置による研究⁽¹⁾、放射光を用いた水の電子状態の観測研究⁽²⁾、

ヘテロダイン検出振動和周波発生分光法と分子動力学シミュレーションを用いた水の表面分子構造の解析⁽³⁾、低温高圧下における水構造の直接観察⁽⁴⁾など数例に過ぎない。また、水分子の構造をコントロールし、その水を用いた生物・工学応用に関する研究事例は殆ど発表されていないのが現状である。

本研究では、水分子クラスターを制御する手段としてミリガウス磁場を用いる方法を利用し⁽⁵⁾、水のインピーダンス特性と酸化電位の測定からミリガウス磁場処理水の電氣的性質の変化について調べ、この水を用いたバジルの水耕栽培を通じて、生物学的応用の可能性について報告するものである。

* 大同大学工学部電気電子工学科

2. 実験方法

2-1 超純水のミリガウス磁場処理

本研究では、水分子クラスターを制御する手段としてミリガウス磁場による処理方法⁽⁵⁾を用いた。印可磁場波形は、処理後の電気抵抗の減少が著しい矩形波で実施した。

超純水は、超純水製造装置 (Direct-Q UV3、Merck Millipore Corp.) により作製した (水温 22~25°C)。磁場処理水は、図 1(a)に示す自作のヘルムヘルツコイル (Φ0.8 [mm]のニクロム線、巻き数は 90 回、全抵抗は 2.6 [Ω]) と波形発生器 (WF1956、NF 回路設計) を用いて 300 [mℓ]のビーカーに採水した超純水を低周波、低磁場条件下 (矩形波、50 [mG]、2 [Hz]、処理時間 10 分) で処理した。

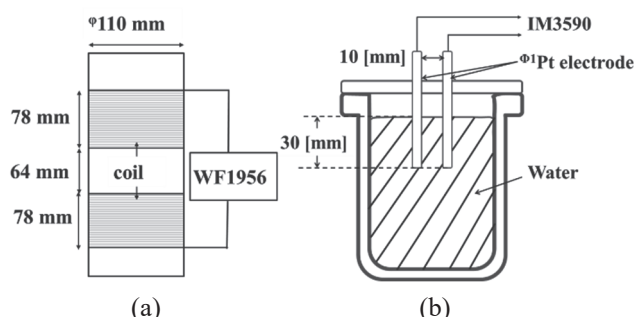


Fig.1. Schematic diagrams of (a) milligauss magnetic field treatment using a Helmholtz coil, (b) impedance measurement.

2-2 インピーダンス測定及び酸化電位測定

磁場処理水及び超純水のインピーダンス測定は、図 1(b)に示すケミカルインピーダンスアナライザ (IM3590、HIOKI) の 2 端子プローブを測定容器に取り付けた 2 つの白金電極 (純度 99.95 [%]、φ 1 [mm]、電極間距離は 10 [mm]、浸漬長は 30 [mm]) に接続し、印加電圧 1.0 [V]、掃引周波数 0.1 [Hz]~200 [kHz]の範囲で行った。

超純水の等価回路は図 2 のように表され、電極と水分子界面の電荷の授受に基づく界面インピーダンスは容量性半円 (コール・コールプロット) となる⁽⁶⁾。

並列部の抵抗は電荷移動抵抗 (charge transfer resistance) R_{ct} である。電荷移動抵抗は電極と液間の電荷の移動性を表し、一般にこの値が小さいと電荷の移動速度が速く、逆に大きいと電荷の移動速度は遅い。容量部分は、電気二重層容量 (electric double-layer capacitance) C_{dl} である。コール・コールプロットは半径 ($R_{ct}/2$)の半円を描き、半円の軌跡は低周波極限で R_{ct} は実数軸と交わる。また半円の頂点の周波数 f_{max} は、

$R_{ct} C_{dl} = 1/2\pi f_{max}$ の関係があり、 C_{dl} を求めることができる。

一方、酸化電位測定は、電気伝導率計 (WM-32EP、東亜ディーケーケー) に接続した ORP 電極 (PST-27390、東亜ディーケーケー) を磁場処理水及び超純水の入ったビーカーに浸漬して測定した。

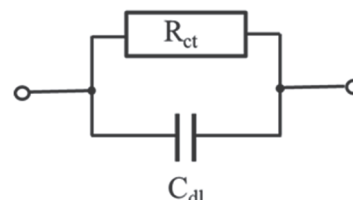


Fig.2. Schematic diagrams of equivalent circuit of ultrapure water.

2-3 バジルの水耕栽培

バジルの水耕栽培は、水耕栽培キット (主婦の友社) を使用した。バジルの発芽はバジル (サカタの種) をスポンジに播種し (1 培地に 3 粒×5 培地)、それらを入れたトレイ (超純水と磁場処理水を各 2 個) を日当たりの良い場所に 20 日間静置した。発芽率は、発芽数/播種数×100 [%]より算出した。発芽・発根後の水耕栽培は、2 種類の水 (超純水と磁場処理水) に窒素系液体肥料 (ハイポニカ液体肥料 A、B、協和) を 600 倍で希釈し、発芽したスポンジに赤・青混合 LED ランプ (R/B 比 5:1) を照度 10000 ルックスの条件で 1 日 12 時間照射し、25 日間栽培した。

バジルの生長過程は、液体肥料水を交換するタイミングで行い、葉の大きさ、茎長を 2 日おきに計測した。栽培開始から 25 日後に最終的な葉の大きさ、茎長、茎径 (図 3) 及び乾燥重量を測定した。また、葉緑素量は葉緑素計 (SPAD-502Plus、KONIKAMINOLTA) を用いて SPAD 値 (Soil and Plant Analyzer Development) で代用した。

以上の水耕栽培は、2022 年から 2024 年の 3 年間に年 3 回ずつ実施し、各測定値を平均化した。

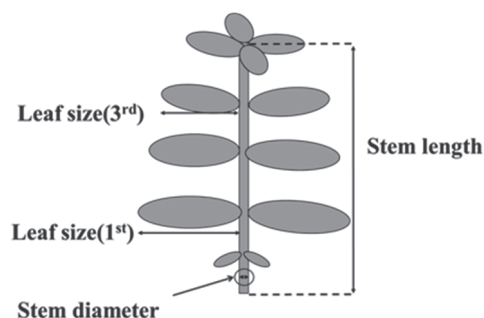


Fig.3. Shape of basil.

3. 実験結果

3.1 インピーダンス測定

本実験に用いた印加交流磁場の周波数は 2 Hz であり、(1) 式より n の値が 20 の水分子クラスター ($\text{H}_3\text{O}^+(\text{H}_2\text{O})_n$) が生成しているものと考えられる⁽⁵⁾。

$$f_c(n) = \frac{qB}{2\pi m(n)} [\text{Hz}] \cdots \cdots (1)$$

ここで各パラメータは、水分子クラスターのサイクロトロン周波数 $f_c(n)$ 、プロトンの電荷 ($q \div 1.602 \times 10^{-19} [\text{C}]$)、水分子クラスター $\text{H}_3\text{O}^+(\text{H}_2\text{O})_n$ の質量 $m(n) [\text{kg}]$ 、地磁気(直流磁界、 $B \div 5 \times 10^{-5} [\text{T}]$)である。

特に n の値が 20 の水分子クラスターは、 $(\text{H}_2\text{O})_{20}$ の 12 面体構造に H_3O^+ が取り込まれた籠状構造で比較的安定であることが報告されている^{(7)~(10)}。

図 4 は、超純水と磁場処理水のコール・コールプロットである。採水直後から 10 分間は超純水の半円の大きさが殆ど変化していないのに対し、磁場処理水の場合は処理直後から半円の大きさが放置時間と共に小さくなっていくことがわかる。

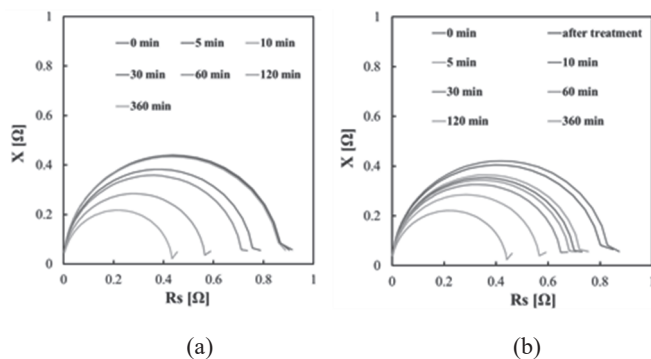


Fig.4. Cole-Cole plots of (a) ultrapure water、(b) milli gauss magnetic field treated water.

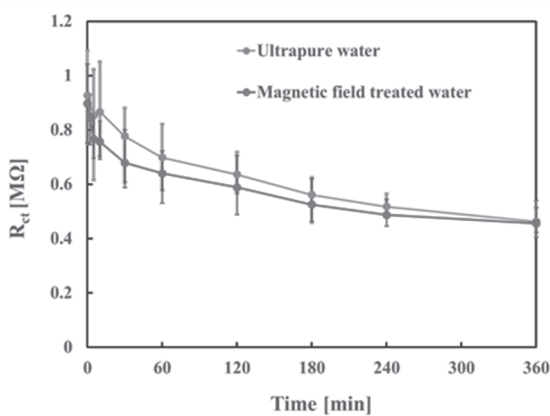


Fig.5. The charge transfer resistance (R_{ct}) vs. time characteristics of ultrapure water and milligauss magnetic field treated water.

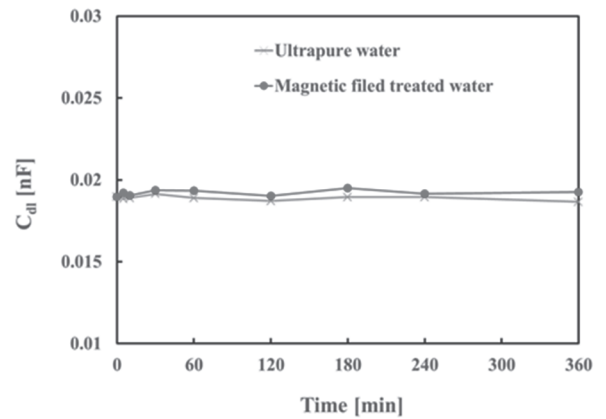


Fig.6. The capacitance (C_{dl}) vs. time characteristics of ultrapure water and milligauss magnetic field treated water.

図 5 と図 6 は、超純水と磁場処理水のインピーダンス測定を基に算出した電荷移動抵抗 R_{ct} 及び電気二重層容量 C_{dl} の時間変化である。

図 5 より、採水直後から 120 分間で超純水と磁場処理水の R_{ct} に大きな差異が認められる。しかしながら、放置時間の経過と共にその差は小さくなり、360 分後にはほぼ同じ値となった。磁場処理直後に R_{ct} は約 4% 減少し、放置時間 30 分後における減少率は 24.3% と非常に大きな値を示した。

一方、超純水では放置時間に伴い減少率は大きくなるものの、放置時間 30 分後の減少率は約 16% と磁場処理水に比べて減少の割合は小さい。

磁場処理水の電荷移動抵抗 R_{ct} の顕著な減少の原因は、電極と液間の電荷授受の関与、即ち電荷の移動速度及び移動電荷数の増加が考えられる。

また、超純水のエラーバーに着目してみると、磁場処理水に比べてバラツキが大きい傾向にある。

採水直後から放置時間 60 分の標準偏差値は、超純水が 0.7~0.12 であるに対し、磁場処理水では 0.04~0.06 と小さな値を示した。2 [Hz] の磁場処理においては、(1) 式より水分子クラスター $\text{H}_3\text{O}^+(\text{H}_2\text{O})_{20}$ が生成しているものと考えられる。この水分子クラスターは、水分子 20 個で形成された正十二面体構造で、各頂点の位置に配された水分子同士は水素結合で結ばれ、かごの中心に H_3O^+ が入った安定構造を取ることが報告されている^{(7)~(10)}。したがって、この標準偏差値の違いは、超純水では様々な水の分子構造を含んでいるのに対し、磁場処理後は安定した水分子クラスター構造 ($\text{H}_3\text{O}^+(\text{H}_2\text{O})_{20}$) に変化している可能性を示唆しているものと推測される。

一方、図 6 より、超純水と磁場処理水の C_{dl} は時間変化が殆ど無く、その値は約 0.02 [nF] であった。また、 C_{dl}

においては、超純水と磁場処理水の R_{ct} で見られたバラツキが殆ど無く、超純水及び磁場処理水における C_{dl} の標準偏差値は、それぞれ 0.0011~0.018、0.0011~0.0015 であった。

以上の結果より、超純水に対する磁場処理は、水の電荷移動抵抗 R_{ct} の顕著な低下を引き起こすが、電気二重層容量 C_{dl} には影響を与えないことが明らかとなった。

超純水及び磁場処理水における長時間放置（360 分）に伴う R_{ct} の減少は、大気中のガスの溶解が原因と考えられる。花井等⁽¹¹⁾によると、空気中の二酸化炭素は水の -OH 基と安定した結合をとるため水に溶解する。この二酸化炭素の溶解量の増加に伴い液中の水素イオン量が増加し、水素イオンが伝導キャリアとなって電気抵抗率を減少させていると推測される。したがって磁場処理水は放置時間が長くなるほど二酸化炭素の溶解による水素イオンの増加によって電気抵抗率が減少する影響を大きく受け、超純水と同じ R_{ct} 値を示したものと考えられる。

次節では電氣的性質が変化した磁化処理水を用いてバジルの水耕栽培を行った結果と磁場処理水の酸化電位が及ぼす影響について述べる。

3.2 バジルの水耕栽培

超純水及び磁場処理水におけるバジルの発芽率は、それぞれ 78%、73% であった。一般的なバジルの発芽率は 60% 以上であり、磁場処理水はバジルの発芽には影響を及ぼしていないものと考えられる。

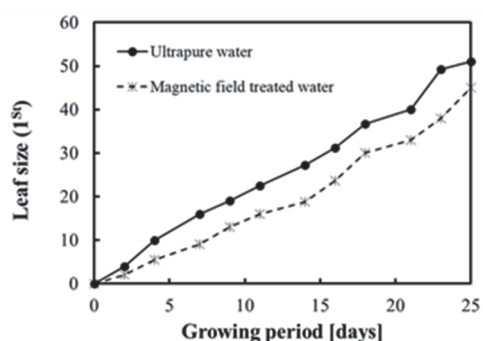
図 7 は、2024 年に行ったバジルの水耕栽培日数に対する生育データの一例である。本葉 1、本葉 3 及び茎長はいずれの場合も磁場処理水を用いた栽培では生長が劣っている結果となった。磁場処理水を使用したバジルの生長悪化の傾向は、2022 年、2023 年の栽培実験においても同様であった。

表 1 は、各水耕栽培水における最終的なバジル生長の各平均測定値と括弧内に標準偏差値を記載したものである。各測定値の標準偏差値に栽培水の違いによる明確な傾向は認められない。一方で栽培年度による個体差があるため年度間での数値の比較は困難であるが、各栽培水の平均値を比較すると磁場処理水で栽培したバジルは、2023 年の茎長を除いて本葉 1 及び本葉 3 の大きさと茎径が超純水に比べて小さく、生長が悪い結果となった。

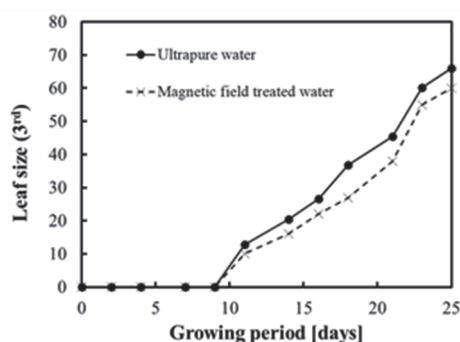
一方、超純水及び磁場処理水におけるバジルの葉緑素量（SPAD 値）は、それぞれ 34.5、34.7 であった。市販されているバジルの葉で 34.1 という値が得られたことから、磁場処理水が葉緑素量へ与える影響は殆ど無いものと考えられる。

表 2 は各栽培水を用いたバジル一株当たりの乾燥重量の平均値である。乾燥重量はバジルの生体成分量に相当するもので、植物の生長を表す重要な数値である。磁場処理水は、超純水に比べて茎・葉部、根部ともに小さな値を示し、バジルの生体成分量が減少する傾向が認められた。表 2 より、超純水に比べて磁場処理水の茎・葉部は約 38%、根部でも約 23% 減少しているおり、図 7 や表 1 で得られたバジルの生長が悪い結果を裏付けるものである。

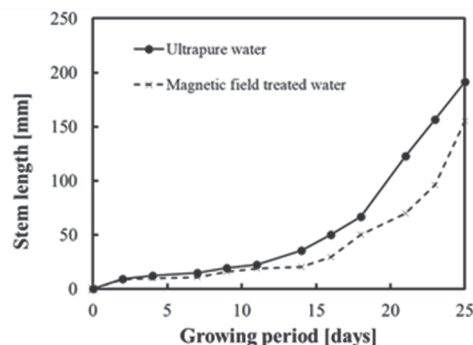
植物の生長に及ぼす電磁界やプラズマの応用技術については数多く報告されている^{(12)~(19)}。これらの応用技術を用いた場合はその多くが改善効果を示しているのに対し、本実験のように逆の結果となるものは殆ど見受けられない。



(a) Leaf size of 1st



(b) Leaf size of 3rd



(c) Stem length

Fig.7. Typical examples ((a) leaf size of 1st, (b) leaf size of 3rd, and (c) stem length) of basil growth in hydroponic culture.

Table 1. Mean growth values of basil based on (I) ultrapure water and (II) milligauss magnetic field treated water.

Year		2022		2023		2024	
		(I)	(II)	(I)	(II)	(I)	(II)
Leaf size [mm]	1 st	58.6 (11.2)	43.5 (12.6)	55.1 (8.9)	51.4 (13.7)	34.9 (7.7)	35.2 (7.8)
	3 rd	61.7 (22.7)	53.0 (13.5)	75.7 (25.3)	53.3 (13.6)	57.5 (13.6)	36.3 (18.4)
Stem length [mm]		99.0 (37.5)	66.0 (19.6)	138.6 (24.6)	148.3 (37.6)	144.7 (45.8)	110.3 (31.1)
Stem diameter [mm]		2.52 (0.92)	1.85 (1.20)	4.25 (0.67)	3.07 (1.83)	3.63 (1.07)	3.30 (0.89)
SPAD [a.u.]		36.4 (3.32)	35.9 (2.96)	34.5 (2.95)	34.7 (2.98)	38.7 (2.29)	37.5 (2.38)

Table 2. Dry weights of leaf and stem, and root for basil based on (I) ultrapure water and (II) milligauss magnetic field treated water.

Year		2022		2023		2024	
		(I)	(II)	(I)	(II)	(I)	(II)
Leaf and stem [g]		0.89	0.51	1.33	0.78	0.64	0.46
Root [g]		0.20	0.13	0.52	0.42	0.20	0.17

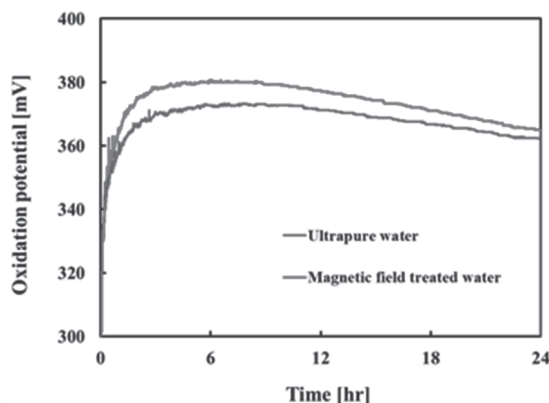


Fig.8. Comparison of the oxidation potential measured for waters of ultrapure and milligauss magnetic field treatment.

図 8 は、超純水と磁場処理水の酸化電位の時間変化である。24 時間にわたり、長時間持続して酸化電位に差が生じていることがわかる。超純水と磁場処理水の酸化電位の最大値は、それぞれ 372 [mV]、382 [mV]であり、磁場処理水が超純水に比べて約 10 [mV]大きい値を示した。

電磁場などで処理した水では酸化還元電位が増加し

た機能水が報告されている⁽²⁰⁾。また松尾等の研究では、酸化電位の大きな水は酸化力が強いいため、植物の細胞を傷つけて生長に支障をきたす可能性があることが述べられている⁽²¹⁾。従って、本研究における低周波、低磁場を用いた磁場処理水においても同様のメカニズムがバジルの生長に影響を与えているものと考えられる。更に 3-1 節の磁場処理水の電荷移動抵抗 R_{ct} の顕著な減少の原因である電荷移動速度及び電荷数の増加も磁場処理水-バジル細胞間で相乗的に関与していることが推測される。

4. むすび

水分子クラスターを制御する手段としてミリガウス磁場を用い、インピーダンス特性と酸化電位の測定からミリガウス磁場処理水の電氣的性質について調べた。その結果、未処理水（超純水）に比べて磁場処理水の電荷移動抵抗 R_{ct} と酸化電位に顕著な差異が認められた。

一方、磁場処理水を用いたバジルの水耕栽培は、超純水に比べて生長が悪い結果となり、酸化電位の関与が示唆された。特に生体成分量を表す乾燥重量は、超純水に比べて磁場処理水の茎・葉部が約 38%、根部では約 23%減少した。

以上の結果から低周波、低磁場によるミリガウス磁場処理水が植物の生長に影響を与えており、有害な植物や雑草の駆除に対しても応用可能な技術であることが期待される。

参考文献

- 1) A. Wakisaka, S. Komatsu, and Y. Usui : "Solute-solvent and solvent-solvent interactions evaluated through clusters isolated from solutions: Preferential solvation in water-alcohol mixtures" , *J. Mol. Liq.*, Vol. 90, Issues 1-3, pp175 ~184 (2001).
- 2) C. Huang, K. T. Wikfeldt, T. Tokushima, D. Nordlund, Y. Harada, U. Bergmann, M. Niebuhr, T. M. Weiss, Y. Horikawa, M. Leetmaa, M. P. Ljungberg, O. Takahashi, A. Lenz, L. Ojamae, A. P. Lyubartsev, S. Shin, L. G. M. Pettersson, and A. Nilsson : "The inhomogeneous structure of water at ambient conditions", *PNAS*, Vol.106, No.36, pp15214~15218 (2009).
- 3) S. Nihonyanagi, T. Ishiyama, T-k Lee, S. Yamaguchi, M. Bonn, A. Morita, and T. Tahara : "Unified Molecular View of the Air/Water Interface Based on Experimental and Theoretical $\chi(2)$ Spectra of an Isotopically Diluted Water Surface", *J. Am. Chem. Soc.*, Vol.133, No.42, pp.16875~16880 (2011).

- 4) H. Niinomi, Y. Hiroki, H. Nada, T. Hama, A. Kouchi, J. T. Okada, J. Nozawa, S. Uda, and Y. Kimura : "High-Density Liquid Water at a Water-Ice Interface", *J. Phys. Chem. Lett.*, Vol. 11, Issues 16, pp.6779~6784 (2020).
- 5) K. Mohri and M. Fukushima: "Proliferative Activation of Hydro-molecular Clusters due to Terrestrial Field Cyclotron Resonance and its Biological Effects", *IEEJ Trans. FM*, Vol.122, No.5, pp.433 ~ 439 (2002) (in Japanese).
毛利、福島:「地磁気サイクロトン共振による水分子クラスターの増殖的活性化と生体効果」電気学会論文誌 A, Vol.122, No.5, pp.433~439 (2002).
- 6) 藤島、相澤、井上: "電気化学測定法 (上)", 技法堂出版, ISBN : 4-7655-0356-9 (1984).
- 7) J. Sadlej, V. Buch, J. K. Kazimirski, and U. Buck : "Theoretical study of Structural and Spectra of Cage Clusters $(\text{H}_2\text{O})_n$, $n=7-10$ ", *J. Phys. Chem. A*, Vol. 103, pp.4933~4947 (1999).
- 8) S. Wei, Z. Shi, and A. W. Castleman. Jr. : "Mixed cluster ions as a structure probe: Experimental evidence for clathrate structure of $(\text{H}_2\text{O})_{20}\text{H}^+$ and $(\text{H}_2\text{O})_{21}\text{H}^+$ ", *J. Chem. Phys.*, Vol. 94, No. 4, pp.3268~3270 (1991).
- 9) D. J. Wales and I. Ohmine : "Structure dynamics and thermodynamics of model $(\text{H}_2\text{O})_8$ and $(\text{H}_2\text{O})_{20}$ clusters", *J. Chem. Phys.*, Vol. 98, No. 9, pp.7245~7268 (1993).
- 10) J. K. Laasonen and M. L. Klein : "Structural Study of $(\text{H}_2\text{O})_{20}$ and $(\text{H}_2\text{O})_{21}\text{H}^+$ Using Density Functional Methods", *J. Phys. Chem.*, Vol. 98, pp.10079~10083 (1994).
- 11) M. Hanai, N. Takamura and N. Araoka: "Effects of Carbon Dioxide on Relative Dielectric Constant and Conductivity of Pure Water in Frequency Region under 200 kHz", *IEEJ Trans. FM*, Vol.144, No.6, pp.228~234 (2024) (in Japanese).
花井、高村、荒岡:「200kHz 以下の周波数域における水の比誘電率と導電率に及ぼす二酸化炭素の影響」電気学会論文誌 A, Vol.144, No.6, pp.228~234 (2024).
- 12) S. Hazama, K. Tsuchiya, Y. Nakagawa, and M. Masugi: "Study on Effect of Transient Electromagnetic Field on Germination of Seed Plants", *IEEJ Trans. FM*, Vol.143, No.8, pp.280~281 (2023) (in Japanese).
狭間、土屋、中川、馬杉:「過渡電磁界による種子植物の発芽促進に関する研究」, 電学論 A, Vol.143, No.8, pp.280~281 (2023).
- 13) Y. Haji, Y. Otsuki, and M. Masugi : "Study on Effect of Transient Electromagnetic field on the Growth of Radish", *IEEJ Trans. FM*, Vol.142, No.10, pp.406~412 (2022).
- 14) N. Koga: "Agricultural Application of Low-Temperature Plasmas; Toward a Novel Environmentally Friendly Technology of Plant Response Control with Low Cost", *J. IEEJ*, Vol.140, No.9, pp.605~608 (2020) (in Japanese).
古関:「低温プラズマの農業応用展開」, 電学誌, Vol.140, No.9, pp.605~608 (2020).
- 15) S. Katsuki and T. Sato: "Biological Phenomena Induced by Pulsed Electrical Stimulation", *J. IEEJ*, Vol.141, No.3, pp.139~142 (2021) (in Japanese).
勝木、佐藤:「パルス電気刺激で誘導される生体現象」, 電学誌, Vol.141, No.3, pp.139~142 (2021).
- 16) K. Takaki: "SPECIAL ISSUE on Biological Phenomena of High Electric Fields and Plasmas and Their Applications in Agriculture, Fishery and Food Processing-1 Introduction", *J. IEEJ*, Vol.141, No.3, pp.137~138 (2020) (in Japanese).
高木:「高電界・プラズマのバイオ現象とその農水食分野利用-1 総説」, 電学誌, Vol.141, No.3, pp.137~138 (2021).
- 17) K. Takaki and D. Wang: "Applications of Charging and Coulomb Force for Agriculture, Fishery and Food", *J. IEEJ*, Vol.141, No.3, pp.147~150 (2020) (in Japanese).
高木、王:「帯電とクーロン力の農業食利用」, 電学誌, Vol.141, No.3, pp.147~150 (2021).
- 18) S. Yamaguchi-Sekino, M. Sekino, and S. Ueno : "Biological Effect of Electromagnetic Fields and Recently Updated Safety Guidelines for Strong Static Magnetic Fields", *Magn. Reson. Med. Sci.*, Vol.10, No.1, pp.1~10 (2011).
- 19) D. Wang and F. Mitsugi: "Applications of Plant Growth Promoting using Pulse Electric Field and Plasma; from Aspects of Direct Stimulation and Environmental Control", *J. IEEJ*, Vol.136, No.12, pp.802~805 (2016) (in Japanese).
王、光木:「植物生育促進への高電圧・プラズマ応用」, 電学誌, Vol.136, No.12, pp.802~805 (2016).
- 20) N. Nadahara: "Application of Functional Water to Semiconductor Cleaning Process", *J. Inst. Electrostat. Jpn.*, vol.47, No.6, pp.227~230 (2023) (in Japanese).
灘原:「機能水の半導体洗浄プロセスへの応用」静電気学会誌, Vol.47, No.6, pp.227~230 (2023).
- 21) M. Matsuo and A. Shima: "Effects of Electrolytic Water on the Growth of Soilless Culture Plant (3) - Effects of the Oxidation Reduction Potential of Electrolytic Water on the Growth of Soilless Culture-", *J. SHITA*, vol.6, No.2, pp.30~34 (1994) (in Japanese).
松尾、島:「電気分解水が水耕植物の生育におよぼし

影響（第 3 報）-電気分解水の酸化還元電位が水耕コ
マツナの生育におよぼす影響」，植物工場学会誌，
Vol.6, No.2, pp.30～34 (1994).

要員合理化に対する労使協議の規制力 —鉄鋼業 A 社の職場決定型労使協議の事例研究—

Regulatory Influence of Labor–Management Consultation on Workforce Allocation —Case Study of Steel Company on Workplace Decision-Making Consultations—

藤井 浩明* 西尾 功**

Hiroaki Fujii Isao Nishio

Summary

Steel company A is a subsidiary of a large-scale iron and steel enterprise. In this company, changes in workforce allocation are made through consultations between the company and the union’s executive board. Subsequently, managers and workers engage in consultations to determine the workforce allocation. This study aims to clarify the regulatory influence of this process on workforce reduction. We hypothesized that workforce reduction has been regulated by workers’ participation in consultations and decision making. To test this hypothesis, we interview current and former union officers and analyze union documents. We examine the regulatory influence of consultations on workforce reduction using two methods. First, we compare the workforce allocation proposed by the company in its medium-term plans spanning 1996 to 2002 with the actual workforce allocation. Second, we assess the extent to which the allocations were changed because of union’s and workers’ voices. The results of the analysis show that the regulatory power of consultation is not strong, but has been kept at a minimum.

キーワード : 要員合理化、労使協議、鉄鋼業

Keywords : Rationalization of workforce allocation, labor–management consultation, steel industry

1. はじめに

本稿が対象とする A 社⁽¹⁾は高炉・電炉を所有せず、圧延や加工を専ら行う鉄鋼会社であり、鉄鋼業のなかでは中規模の会社である。A 社では生産職場の要員の変更に際して、労組執行部が会社と協議を行い、その後、当該職場の労働者（一般組合員）と管理職とが労使協議を行う。要員を変更するためには、当該職場の労働者の同意が必要となる。本稿の課題は、A 社の事例から要員合理化に対する職場レベルの労使協議の規制力を明らかにすることである。

要員の定義について、青木 [2022] は「要員とは、作業に必要な人員に休日・休暇などのための欠員補充人

員を加えたものであり、ある種の理論値である。実際の職場には、要員を超える人員が配置されていることも多い。要員合理化をめぐる労使交渉では、その余剰人員の処理も争点の一つとなる。なお、日本企業では、それを解消せずに配置転換したり、あるいは余剰人員のまま据え置き、減耗不補充を通じて徐々に解消することが多い²⁾と述べている。要員が削減された場合、すぐに実在人員の削減が行われる訳ではないが、いずれは定められた要員で生産運営を行うことになり、生産職場の運営方法、担当業務の範囲、労働者の作業負荷に影響を及ぼす。

鉄鋼業の要員合理化に関する研究は多く存在する。その主な関心は要員合理化に対する労組の発言力と規

* 大同大学情報学部総合情報学科

** 大同大学非常勤講師

制力についてである。石田〔1986〕は「要員削減をめぐる組合の対応で目につく点は、提案それ自体に対する対抗的な主張は皆無であること」²⁾と述べている。仁田〔1988〕は「要員問題をめぐる労使協議の充実が、要員合理化に対して強い阻止的作用を及ぼしたとは言えない」³⁾と述べている。また、こうした労働組合の対応について、石田〔1989〕は「雇用が確保されれば提案を認めていかざるを得ないという形式で組合の『譲歩』が減量経営下で進行」⁴⁾としていたことを指摘している。これらの研究は1970年代の減量経営下の要員合理化をめぐる労組の対応について調査されたものであるが、木村〔2008〕は2000年代初めの要員合理化について調査し、要員合理化に対して労使協議は「弱い阻止的作用」さえ果たしていない。また要員削減のマイナスを排除する修正も行われていないと述べ⁵⁾、1970年代の減量経営下よりも、さらに労働組合の規制力が弱まっていることを指摘している。これらの先行研究は鉄鋼業の要員合理化に対する労組の発言力・規制力が脆弱であることを示している。

これまでの研究で明らかになっている要員合理化をめぐる労使協議の事例は、労働者側主体が労組執行部あるいは支部役員であり、職場の一般組合員は要員合理化の決定に関与できない、もしくは関与できたとしても同意権がない。仁田〔1988〕は、事前協議の段階で当該職場の組合員の出席する非公式、ないし準公式の話し合いの機会が設定されることを明らかにしている。こうした事前協議は支部レベルで行われ、合理化対象職場の労働者の意見を汲み上げるような措置を講じているが、要員合理化の最終的な同意権は単組にある⁶⁾。中小製鉄メーカーB社を対象とした山本〔1984〕は、B社では慣行的に要員に関する交渉が行われてきたが、職場レベルでの経営参加と発言は機能不全になっていると指摘している⁷⁾。上井〔1994〕は自動車メーカーA社にて協調的職場規制が確立して以降、月次人員体制・勤務体制の決定において組合の職場組織、とくに職場長の意思が尊重される仕組みとなっているが、決定過程から一般組合員が完全に排除されていることを指摘している⁸⁾。飯嶋〔2016〕は私鉄中国労働組合広電支部の現場協議制の実態を明らかにしている⁹⁾。私鉄中国労働組合広電支部の現場協議制も労組の部会と分会によって行われており、職場の一般組合員が労使協議の主体ではない。これら事例と比較して、本稿が対象とするA社の職場レベルの労使協議は職場で選出された代表者もしくは職場の全労働者が出席し、より職場末端に近いレベルで行われており、職場労働者・一般組合員が労使協議の主体となっている。

職場ではなく、上層のレベル（労組支部と工場）での

協議によって要員が決められるようになった要因について、森〔2003〕は、1946年から1960年代初頭までの八幡製鉄の協約改訂交渉を分析し、労働組合の同意のみをもって要員合理化を進めたいという会社側の意図があることを指摘している¹⁰⁾。こうした協議制度では、会社は各組合員の同意を得る必要がなく、個々の組合員の反対は組合統制の問題として扱われ、会社が関与する問題でなくなる。つまり、組合本部が職場を統制し、要員合理化に対する一般組合員の反抗を抑止することを期待し、労組と交渉・協議を重ねていく方法を会社が選択したのである。また、鈴木〔2009〕は石川島播磨重工における公式・非公式の労使協議を分析し、要員問題について組合本部・幹部と一般組合員との認識の間には齟齬があることや、組合本部による一般組合員の異論の封じ込めが行われることもあったと述べている¹¹⁾。

森〔2003〕や鈴木〔2009〕は職場の異論を封じ込めるために、労組執行部レベルの労使協議で要員合理化が決められてきたと述べている。一方、A社では、当該職場の労働者の意見が重視されており、職場レベルの労使協議で要員を決めてきた。当該職場の労働者は作業負担の増大など要員合理化の影響を直接的に受けるため、職場労働者が労使協議に関与することは、要員合理化をより強く規制することにつながると考えられる。本稿では、この点について次の2つの視点から検証を行う。会社の提案どおりに要員削減は進んだのかという視点、当該職場の労働者が納得できない場合、職場レベルの労使協議でその内容をどこまで変えられるのかという視点である。

本稿の作成にあたって、A労組の委員長、副支部長、元組合長へ聴き取り調査を実施した¹²⁾。またA労組の定期大会資料や要員協定、会議録を閲覧させていただいた。こうした聴き取り調査や組合資料等をもとに考察する。

2. A社の労使協議

2.1 要員に関する労使の協定

A社では、生産職場の要員について労使で協定を締結している。協定で定められた要員を「協定要員」と呼んでいる。本稿で要員とは、この「協定要員」を指す。要員は表1のように係もしくは職場ごとに設定されている。1976年までは、より細かく設備ごとに要員を定めていた。しかし多能工化が進み、1人で複数の作業を担うようになり、設備ごとに要員を定めることができなくなり、職場ごとに要員を設定するようになった〔A労組元組合長への聴き取り〕。

A社の協定要員は、その職場の作業・運営に最低限必要な人員数という考え方であり、実在人員は原則として要員を満たすよう配置される。要員が削減された場合、すぐに実在人員が削減される訳ではないが、配置転換や出向、退職者の不補充によって、要員に合うよう実在人員の削減が徐々に行われる。よって、いずれは定められた要員で生産運営を行うことになり、要員の変更は労働者の作業負荷に影響を及ぼす。

A社の生産職場の役職制度は、係長 - 主任 - 主任班長 - 班長 - 班長心得 - 一般技能職であった。このうち、係長は事技職（事務所スタッフ）が担当し、協定要員の対象ではない。また、事務所スタッフでは生産職場の労働者をまとめることが難しいので、生産職場の労働者

から「主任」を任命し、職場のまとめ役として配置していた。そのため、1997年度の要員協定までは「主任」の要員も定められていた。

この役職制度は1997年7月に改定され、係長 - 統括班長 - 班長 - 班長代理 - 一般技能職となった。主任の業務（係長の技術的補佐、操業の推進管理、作業指令の伝達、班長間の意見調整）は係長と統括班長が担うようになり[A労組第53回定期大会議案書]、主任は廃止された。この役職制度の変更によって、技能職（生産職場の作業員）から事技職へ転換し係長に昇進する者もあらわれるようになったが、係長は非組合員であり、協定要員の対象外のままとなった[A労組委員長への聴き取り]。

表1. 2024年1月1日時点のA社の協定要員（人）

係	職場	基準シフト	人/班	食交 要員	計
生産管制係		2 交替	1×3+1×2	-	5
試験係	(冶金管理)	4 直 3 交替	1×4	-	4
		常昼	9	-	9
めっき係	1 号めっき	4 直 3 交替	4×4	1×4	20
	2 号めっき	4 直 3 交替	5×4	1×4	24
ロール整備班		3 交替	2×2+1	-	5
塗装係	1 号カラー	4 直 3 交替	5×4	1×4	24
	2 号カラー	4 直 3 交替	5×4	1×4	24
	塗料班	1 直 1 交替	3×1	1×1	4
精整係	スリッター	4 直 3 交替	2×4	1×4	12
工務係		常昼	4	-	4
電気係		4 直 3 交替+昼勤	2×4+2	-	10
		常昼	1	-	1
		常昼（計測）	2	-	2
合計					148

（出所）「要員協定書」（A労組からの提供資料）より著者作成。

2.2 労使協議の構造

2002年度のA労組の組織・役職は、委員長、副委員長、書記長の三役を含めた執行委員、職場委員、一般組合員で構成されていた。役職者の人数は、執行委員が12人、職場委員が33人であり、各部署に1名以上の職場委員を配置していた。

要員について労組執行部と経営者・管理職とが協議を行う場は「運営委員会」と呼ばれている。1999年までは「工場協議会」と呼ばれていた。その運営委員会にて要員合理化の提案を労組執行部が受け、労使協議³⁾を

行い、その後労組の執行委員会にて要員変更の提案内容を審議するが、労組の執行委員会で判断するのは管理職と当該職場労働者との協議開始の可否までである。要員合理化の可否は職場レベルの労使協議で決定される（図1を参照）。職場の細部のことまで分らないと要員合理化の是非は判断できないので、管理職と当該職場労働者とで話し合い、職場労働者が納得してはじめて要員合理化が実施できるとA労組は考えている。要員合理化に際して、A労組は職場の納得・理解を最重視してきた[A労組元組合長への聴き取り]。

職場レベルの労使協議には、職場労働者のなかから

代表者を選出して行う「代表者会議」と職場の労働者が全員出席する「職場会議」がある。代表者会議を行うのか、それとも職場会議を行うのかの判断については明確なルールはない。代表者会議で一定の理解が進んだ後、職場会議を行う場合もある。反対に職場会議にて会社側から説明があり、その後、代表者会議へ移行する場合もある〔A 労組委員長への聴き取り〕。

職場レベルの労使協議の主体は当該職場の労働者であり、協議の進め方や決着は職場労働者に任せられている。職場労働者の代表者も各職場で決められる。班長

が代表者となる場合もあれば、班長が代表者とならない場合もある〔A 労組元組合長への聴き取り〕。労組の職場委員や執行委員が職場レベルの労使協議に出席することはあるが、原則として意見を表明することではなく、発言は会社側による強引な説得があった時くらいである。なお職場レベルの労使協議の会社側出席者は部長、グループ長、課長、係長、技術スタッフ等である〔A 労組委員長への聴き取り；A 労組副支部長への聴き取り〕。

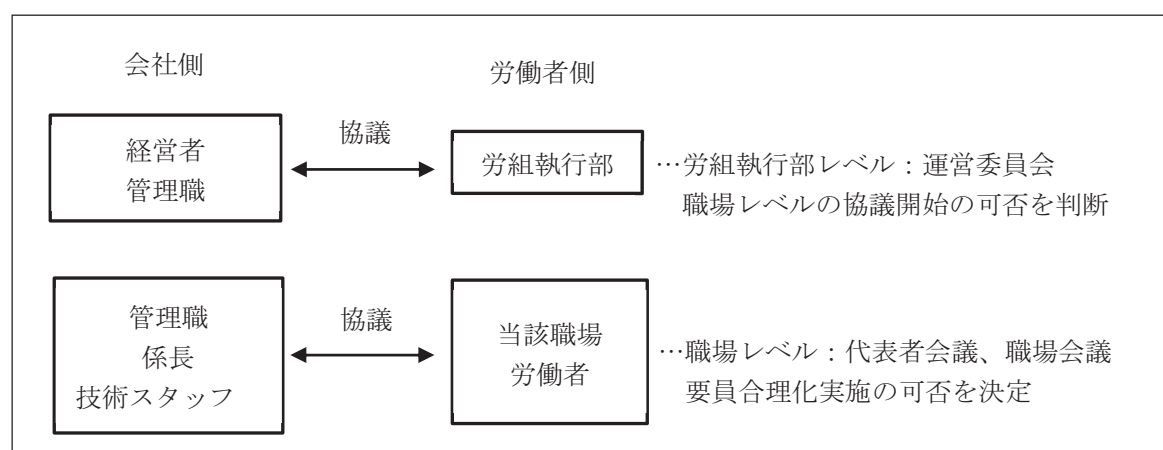


図1 要員合理化におけるA社とA労組との労使協議の構造
(出所) A 労組委員長と元組合長への聴き取り調査をもとに著者作成。

2.3 要員協議の変遷

A 社において、要員に関する労使協議の慣行がいつ成立したかは定かではないが、最も古い要員協議の記録として、1959 年 8 月から同年 9 月にかけて要員に関する労使協議が行われたことが、A 労組の『第十六回定期大会議案書』から確認できる。この時の労使協議は、A 労組から A 社へ申入れを行い、労使双方が参加して、要員問題研究会、工場協議会、要員問題小委員会が開催された。この要員問題小委員会では、部署別の要員数の会社案が提示され、それに対して、A 労組は職場代表者会議、職場委員会を経て組合要求要員案を提示した。当初の会社案は製造所全体で要員数を 441 人とするものであり、それに対して労組案は製造所全体で要員数を 460 人とするものであったが、最終的には要員数は 450 人と決まった。

要員は労組と会社とで協議し決めることになっていたが、1970 年度の『A 労組第 26 回定期大会議案書』に「労資間の交渉までの間に、職場で切り崩しにやっ

ては、その都度、厳重に抗議し、「事前協議」で交渉することを要求してきました。最近、抗議の効果が徐々にあらわれてきています」とあるように、前述の協議の事例とは異なり、職場で職制と労働者として話し合っ

て要員変更を決めてから、労組へ提案する（実質的に事後報告）という場合もあった〔A 労組元組合長への聴き取り〕。1970 年代に入ると、要員合理化に際して、まずは執行部と協議することを A 労組が求め、職場への説明の前に執行部との協議がない場合、労組としては合意できないという考えを A 労組が明確にした〔A 労組元組合長への聴き取り〕。そして、職場で協議を行う前に執行部と会社とで協議を行うことが徹底された。例えば、1975 年の機械課第一整備係の要員合理化では、1974 年 12 月 12 日に工場協議会で会社が提案を行い、翌年 5 月 17 日までに要員小委員会が 5 回、職場の代表者会議が 5 回、並行して実施されている〔A 労組第 31 回定期（代議員）大会議案書〕。また、1978 年の塗装ラインの半連操作化と増速による要員数の変更に際しては、工場協議会にて会社から労組へ提案があり、その後、会社から職場への説明会、職場の代表者会議と全体会議、労組執行部の小委員会が同時期に並行して開催された〔A 労組

第 35 回定期（代議員）大会議案書】。

1970 年代は要員合理化に際して、労組執行部による労使協議と職場レベルでの労使協議が同時期に並行して進められているが、現在では並行しておこなわれておらず、まず労組執行部が会社提案を受け、執行委員会と職場委員会です承されてから、職場レベルの労使協議が開始されている。このような労使協議のプロセスは 1980 年代後半には確立していた。例えば、1987 年 3 月に A 社が「企業体質改善計画」を A 労組へ提案し協力を求めた。「企業体質改善計画」には要員の見直しが含まれ、生産職場全体で要員を 31 人減らすことが A 労組へ提案された。提案以降、同年 10 月 29 日まで工場協議会が 9 回開催された後、執行委員会と職場委員会にて会社による職場説明が認められた〔A 労組 1988 年度（第 44 回）定期大会議案書〕。その後、各職場において会社との労使協議が行われ、合意に達した職場（めっき係、電気係、起重機係、汽缶係）は 1989 年に要員が変更された〔A 労組 1989 年度（第 45 回）定期大会議案書〕。

3. 要員の変化と中期計画との差

要員合理化に関して、A 社ではまず中期計画を A 労組へ説明し、A 社と A 労組執行部で労使協議を行い、その後職場レベルでの労使協議にて協定要員が決定されてきた。労組と職場労働者が会社の要員合理化提案

に同意しないと、要員の協定は締結されない。本節では、会社の合理化提案を労使協議によってどの程度規制してきたのかを明らかにするため、中期計画と協定要員との差を確認する。

3.1 要員数の変化

図 2 は A 社 A 製造所の技能職の要員推移を示している。1970 年代前半の要員は 650 人から 700 人くらいであったが、1978 年の合理化施策によって、要員は約 460 人となり、その後減少を続け、2023 年には 148 人となっている。要員がほとんど変化しなかった時期もあるが、1970 年代から現在まで、要員の削減が絶えず進められてきたことが分かる。大きな変化があった時期の状況について次に記す。

1978 年は要員が大きく減少している。この年は 147 人の希望退職を前提とした大規模な合理化提案があり、希望退職 147 人のうち 104 人は技能職が対象であった。この時の要員合理化施策の内容は焼鈍や電清などの設備を休止することが中心であった。この要員合理化の提案に対し、A 労組は 24 時間のストライキを実施し、退職の強要をしないこと、退職者への二口以上の就職先斡旋努力、餞別金の上乗せといった配慮・条件向上を会社から引き出したが、最終的には要員の削減と希望退職実施を受け入れた〔A 労組 1979 年度第 35 回定期（代議員）大会議案書；A 労組労働運動史〕。

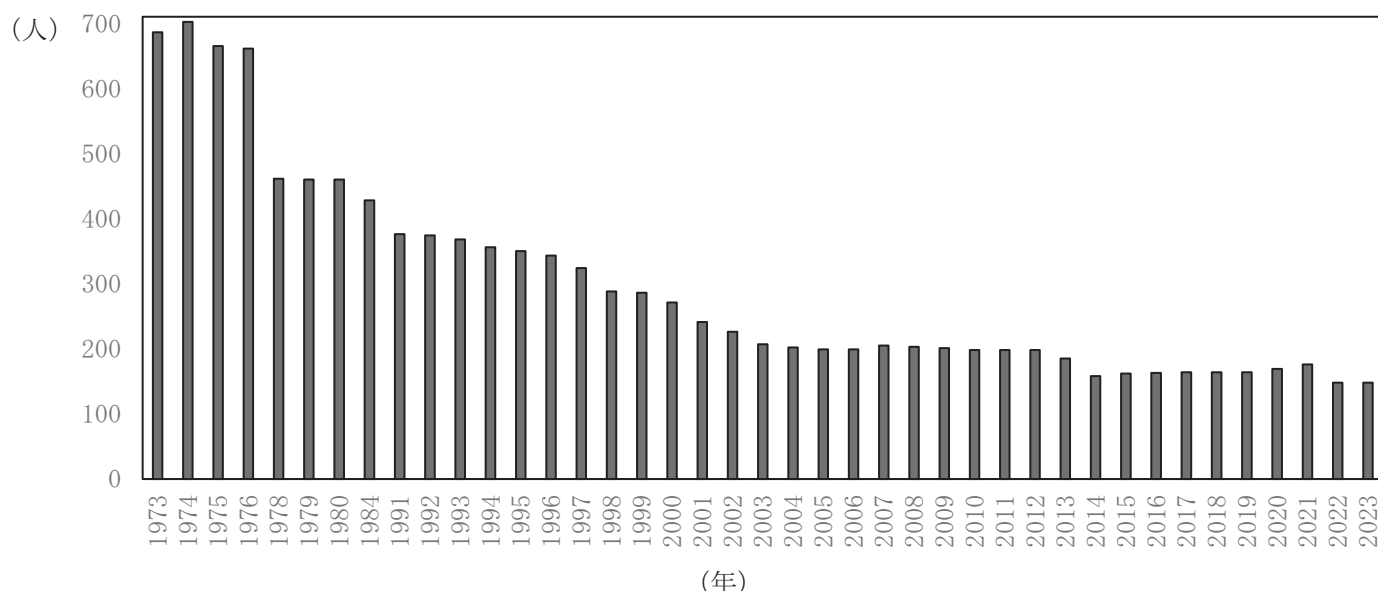


図 2 A 社 A 製造所の技能職の要員推移

（出所）「要員協定書」（A 労組からの提供資料）をもとに著者作成。

（注）1977 年、1981 年、1982 年、1983 年、1985 年、1986 年、1987 年、1988 年、1989 年、1990 年のデータが欠落している。

1990 年代後半から 2000 年代前半にかけても要員は減少している。1993 年度から 1995 年度にかけて、A 社は販売価格が下落し、生産・出荷増、原材料価格とコストの切り下げで、それを吸収し、収益を確保する状況が続いていた [A 労組第 50 回定期大会議案書；A 労組第 51 回定期大会議案書；A 労組第 52 回定期大会議案書]。このような状況を受けて、1990 年代後半から 2000 年代

前半にかけての中期計画には大規模な要員削減が含まれていた。

3.2 1996 年度から 1998 年度までの中期計画

3.2.1 中期計画の内容と労組の対応

表 2. 1996 年度から 1998 年度までの中期計画の要員案（人）

	1995 年度末	1998 年度末	変化
事技職	253	200	-53
技能職	362	297	-65
計	615	497	-118

（出所）「A 労組第 52 回定期大会議案書」より著者作成。

表 3. 1996 年度から 1998 年度の技能職の要員削減施策案（中期計画）

設備投資案件				
No.	職場	内容	省力員数	実施時期
1	塗装鋼鈑係	出側改造	6	1998 年 4 月
2	精整係	新スリッターライン設置	5	1998 年 4 月
3	精整係	二次検定作業 80%減少	6	1997 年 4 月
4	起重機係	クレーン 6 台を無線化	6	1998 年 6 月
5	汽缶係	動力ワンマン化	5	1998 年 4 月
6	製品係	製品管理システムの構築	7	1998 年 1 月
7	資材係	資材管理システムの構築	2	1997 年 7 月
8	建材製造係	出側部更新及び作業の統合	3	1998 年 10 月
計			40	
業務改善案件				
No.	職場	内容	省力員数	実施時期
1	機械係	常昼整備班の統合（業務効率化）	1	1996 年 10 月
2	電気係	点検・保守業務の効率化	1	1997 年 4 月
3	試験係	常昼勤務・試験業務の効率化	1	1996 年 10 月
計			3	
外注化案件				
No.	職場	内容	省力員数	実施時期
1	保安係	保安業務の外注化	8	1996 年 10 月
2	運転手	運転業務の外注化	1	1996 年 4 月
3	起重機係	クレーン整備業務の外注化	4	1998 年 4 月
4	機械係	工作班の業務の外注化	4	1996 年 10 月
計			17	
合計			60	

（出所）「A 労組第 52 回定期大会議案書」より著者作成。

1995 年 12 月 19 日、A 社から A 労組へ中期計画の説明が行われた。その計画の中身は、1998 年までに事技職と技能職をあわせて 20%の在籍人員を削減し、500 人体制にすることであった。さらに、1996 年 3 月 8 日に中期計画に関する 2 回目の説明会があり、販売計画、コスト改善計画、設備投資計画、要員計画等が説明された。表 2 は 1996 年度から 1998 年度の要員数の中期計画を示している。要員計画については、技能職は設備投資による省人化、業務改善、外注化により、1995 年度末 362 人から 1998 年度末 297 人へと削減される計画であった〔A 労組第 52 回定期大会議案書〕。

表 3 は、1996 年度から 1998 年度の中期計画の技能職の要員削減施策を示している。技能職全体で 60 人の要員を削減する提案であった。要員削減のための施策は

設備投資案件、業務改善案件、外注化案件に区分されており、設備投資案件が全体の三分の二を占める。これ以外に前中期計画の未実施分 15 人の要員削減と要員増計画 10 人をあわせると、要員が 65 人（＝60+15-10）減少する計画であった。

この中期計画は、1996 年 5 月 28 日の工場協議会にて A 労組へ提案され、それに対して A 労組は 34 項目の質問を提示した。34 項目の質問は、勤務体制に関するもの、作業範囲・分担に関するもの、配置転換・人選の方法など多岐にわたっているが、要員削減の可能性に疑問を呈する質問は 6 項目あった。これらの質問に対する A 社の回答は 1996 年 6 月 18 日に提示され、同日 A 労組執行部は職場委員会に諮ることを決定した〔A 労組第 52 回定期大会議案書〕。

表 4. 技能職要員の中期計画と協定要員との差（人）

部署	中期計画 1998 年度末予定	協定要員 1999 年 4 月時点	差
酸洗	12	12	0
圧延	21	20	-1
めっき	51	48	-3
塗装	60	64	4
精整	21	20	-1
起重機	29	24	-5
汽缶	7	7	0
機械	18	18	0
電気	22	22	0
工程	6	4	-2
業務	5	3	-2
試験	17	17	0
建材（K 地区）	23	22	-1
運転手	3	3	0
組合専従	2	2	0
計	297	286	-11

（出所）「A 労組第 55 回定期大会議案書」、「A 労組第 52 回定期大会議案書」より著者作成。

3.2.2 中期計画と協定要員との差

労使協議の結果、1999 年 4 月時点の技能職の協定要員は 286 人となった。1995 年度末から 3 年間で要員が 76 人減少した。表 4 は、1996 年 3 月 8 日に提案された中期計画の要員と労使協議を経て決まった協定要員との差を示している。中期計画と協定要員との差は 11 人であった。中期計画以上に要員の削減が進んだ。差の主な要因は、前述の 1997 年の役職制度改定によって 7 人

の主任の要員（内訳は圧延 1 人、めっき 3 人、塗装 2 人、精整 1 人）がなくなったこと、起重機の外注化が 5 人分拡大したこと〔A 労組第 53 回定期大会議案書〕、業務係の外注化が 2 人分拡大したことである〔A 労組第 55 回定期大会議案書〕。

3.3 2000 年度から 2002 年度までの中期計画

3.3.1 中期計画の内容と労組の対応

2000 年度から 2002 年度までの中期計画は 1999 年 10 月 26 日に A 社から A 労組へ説明された。1999 年度の決算が 16 億円の赤字となり、厳しい経営環境を踏まえたうえで、20 億円のコストダウンを含む中期計画であった〔A 労組第 56 回定期大会議案書〕。実在人員については、2002 年度末には全体の実在人員を 20%削減し、事技職と技能職をあわせて約 400 人体制にすることが提案された。技能職の要員については、1999 年度末時点の 276 人から 2002 年度末には 213 人へと 63 人削減する計画が提案された。削減策の内容は、「一般案件」と称されているもので 35 人削減、「外注化案件」と称されているもので 28 人削減となっており、前中期計画と比較して外注化施策の割合が高くなっている。「一般案件」や「外注化案件」には機器の新設、設備改善、設備の移設を伴うものもあるが、前中期計画と比較すると、作業組織の再編や作業の見直しといった合理化内容が増加している（表 5 を参照）。

中期計画の説明の後、工場協議会が開催され、A 社より中期計画の一環として、要員の改定について検討を始めたい旨の提案がされたが、労組は中期計画の提案

内容が具体的ではないこと、提案内容が労働条件の根幹をなすものであることを理由に直ちに議論を始めることはできない旨を述べ、その日の工場協議会は終了した〔A 労組第 56 回定期大会議案書〕。

その後、A 労組は 1999 年 11 月 14 日に執行部学習会と執行委員会を開催し、中期計画への対応を検討した。そこでは経営の責任問題が取り上げられ、経営側の誠意と熱意ある姿勢が示されるまで、本審議を保留することが示された。その後、同年 12 月 2 日に工場協議会が開催され、A 労組の要請に対して A 社が回答を示し、本審議に移行することを確認した。同年 12 月 23 日には、執行部学習会が再度開催され、「要員問題検討委員会」を設置することが確認された。2000 年 1 月 9 日には機関役員学習会が開催され、職場委員に執行部の方針が提示され、同年 2 月 3 日開催の職場委員会において今後の進め方が承認された〔A 労組第 56 回定期大会議案書〕。その後、運営委員会や要員問題検討委員会にて労使協議が行われ、2000 年 9 月 28 日に改めて、中期計画に基づく要員合理化案が一部変更された内容で A 社から A 労組へ提示された〔A 労組第 57 回定期大会議案書〕。

表 5. 2000 年度から 2002 年度の技能職の要員削減施策案（中期計画）

一般案件				
No.	部署	内容	省力員数	実施時期
1	酸洗・冷延	酸洗と冷延の食交要員プール化	4	2001 年度上期
2	めっき	操作盤の集約移設等による作業の合理化	3	2001 年度上期
3	精整	生産量・稼働に見合ったスリッター・剪断の減班	3	2000 年度下期
4	汽缶機械	機械係と汽缶係の統合（作業編成・システム化・設備化）	7	2001 年度上期
5	電気	作業の見直し、一部点検作業の外注化	3	2001 年度下期
6	工程業務部	作業の簡素化、業務再編	7	2001 年度上期
7	試験	管理システムの改善による塗装鋼板への移管	4	2000 年度下期
8	建材	保守業務の操業への移管	2	2002 年度上期
9	運転手	外注化	2	未定
計			35	
外注化案件				
No.	部署	内容	省力員数	実施時期
1	起重機	クレーン作業の全面業務移管	24	2001 年度上期
2	塗装鋼板	制振鋼板作業の全面業務移管	4	2001 年度上期
計			28	
合計			63	

（出所）「A 労組第 56 回定期大会議案書」より著者作成。

表 6. 技能職要員の中期計画と協定要員との差（人）

部署	中期計画 2002 年度末予定	協定要員 2003 年 4 月時点	差
酸洗・冷延	28	32	4
めっき	39	39	0
塗装	54	48	-6
精整	17	20	3
起重機	0	0	0
汽缶・機械	18	25	7
電気	19	13	-6
工程・業務	0	0	0
試験	13	13	0
建材（K 地区）	22	17	-5
運転手、他	3	0	-3
計	213	207	-6

（出所）「A 労組第 56 回定期大会議案書」、「A 労組第 59 回定期大会議案書」
より著者作成。

3.3.2 中期計画と協定要員との差

表 6 は、1999 年 10 月 26 日に提案された中期計画の要員と実際の協定要員との差を示している。1999 年 4 月時点の技能職の要員は 286 人であったが、2003 年 4 月時点の技能職の要員は 207 人となり、4 年間で要員が 79 人削減された。中期計画の提案では 2002 年度末の技能職の要員は 213 人であったので、中期計画で提案した要員と実際の協定要員との差は 6 人となった。ほぼ中期計画にて会社が提案したどおりの要員になった。

部署ごとにみると、中期計画より協定要員が削減された部署と中期計画どおりに協定要員が削減されなかった部署がある。塗装係と電気係は中期計画よりも要員が削減された。塗装係は中期計画になかった生産ラインの削減が実施され、電気係は中期計画になかった外注化が実施された[A 労組第 58 回定期大会議案書]。一方で、酸洗係・冷延係、精整係、汽缶係・機械係では、中期計画どおりに要員は削減されなかった。

酸洗係・冷延係の要員合理化は、冷延係を圧延担当と整備担当に分離し、冷延の圧延担当と酸洗係を統合し、食事交替要員を各班 1 人減らし、係全体で 4 人減らす計画であった。A 労組執行部が承認しなかったため、合理化は実施されなかった。この時、A 労組は承認できない理由を 3 つあげている。1 つ目は冷延係の操業と整備を分離させるという提案がこれまで会社が行ってきた諸施策に反するという点であった。A 労組は反対の理由を次のように述べている。「冷延の職場の歴史を紐解いて見ますと、昭和 59 年に当時の圧延係（圧延課）とロール整備（機械課）の統合が行われた訳であります。

勿論、生産ラインと保守部門との統合ということで、職場からは責任体制や安全面、更には技術の伝承を含んで大きな反対の声もありましたが、結果的に職場組合員の深いご理解を頂き、現在の冷延系の基盤が築かれたといえます。以後、16 年間にわたりラインと保守の両面の広域にわたる職場の守備範囲のなかで、昼夜を厭わぬ懸命な努力がおこなわれてきたわけであり、しかるにこの度の会社提案、冷延・設備の分離独立については、この間の職場の協力努力を水泡に帰すものであり、過去を含めてその場凌ぎの経営施策ととらざるを得ず、組合として到底納得できるものではなく、また職場の理解を望めるものではないと判断するところであります」[A 労組第 57 回定期大会議案書]。2 つ目は安全上の問題である。設備に巻き込まれる等の災害発生時の対応について、合理化提案の内容が設備停止後の対応は休憩者が行う前提となっており、組合員の精神的負担を強いるだけでなく、重大災害の場合は組合員の命すら危機にさらすものと A 労組は指摘した。3 つ目は設備トラブル時の対応が明確になっていないことである。設備トラブルによって、品質を含めて次工程に悪影響を与える可能性を A 労組は指摘した [A 労組第 57 回定期大会議案書]。

この A 労組の反対意見は 2000 年 10 月 11 日に提示され、それに対して A 社は合理化に問題点はないという見解を示したが、同年 10 月 19 日に設備改善と作業改善は行うものの要員の削減時期については別途相談したい旨、A 労組へ回答した [A 労組第 57 回定期大会議案書]。その後、2013 年 12 月の生産体制見直しによる酸洗・冷延の設備廃止まで、要員は変更されなかったの

で、これは実質的に提案の取り下げとなった。

精整係は生産量・稼働に見合うよう、6 班体制から 5 班体制へ変更する計画であったが、2003 年には間に合わず、2005 年に班を減少し、要員を 3 人削減する合理化が実現している。汽缶係と機械係は組織統合のみを行う内容に変更されたため、2003 年 4 月時点では要員の削減は行われていなかった。汽缶係と機械係の要員合理化に対して職場労働者から強い反対があったが、2004 年 4 月 1 日時点の要員は 12 人となり、要員削減は遅れて実現している。汽缶係と機械係の要員合理化をめぐる職場レベルの労使協議については第 4 節にて述べる。

3.4 中期計画と協定要員との差に関する考察

要員削減がすぐに実在人員の削減につながるとは限らず、設備投資等によって作業効率化されたうえで要員削減が進められる場合もあるが、少ない人数で生産運営を担うよう変えられていくことは労働者への負担が増すことにつながりやすい。もちろん、生産性を向上し、会社業績を改善させなければならないことは労働者も理解はするが、職場に過度な負担が掛かる施策は受け入れることができない。そのために A 労組では、職場レベルの労使協議を重視してきたが、おおむね会社の計画どおりに要員合理化が進められてきた。

要員合理化が中期計画どおりに進んできた要因として、会社提案の段階で労働者に受け入れ可能な内容となっていることも考えられる。無理な要員削減や労働者に過度な負担がかかる要員削減は、職場レベルの労使協議で合意を得ることが難しいため、経営側がこの点を配慮し、受け入れられる内容を提案しているとも考えられる。

また、合理化そのものには反対せず、合理化後の作業を行いやすくするための提案や条件面での交渉が労使協議で行われていることも考えられる。実際に職場労働者が合理化を受け入れるための条件を提示し、会社がその条件を認めることや「合理化協力金」という金銭的報酬で解決することも行われてきた [A 労組委員長への聴き取り]。なお合理化協力金に関する交渉権限は労組執行部ではなく、各職場に与えられていた⁽⁴⁾。

ただし、すべてが会社の提案どおりに要員合理化が実施されたわけではなく、前述の酸洗係・冷延係の合理化のように、労組の反対によって廃案となった施策も存在する。また合理化の内容に当該職場の労働者が納得できない場合、職場労働者の反対によって実施が遅れることや要員合理化の内容が変わることもあった。職場労働者の規制力を検証するには、要員数の変化だ

けでなく、労使協議によって合理化内容がどのように変化したのかも確認する必要がある。

4. 職場レベルの労使協議による規制：工務係（汽缶係・機械係）の事例

汽缶係と機械係については、前述の 1999 年に提案された要員合理化の後、2002 年と 2009 年にも要員合理化が提案された。しかし、業務協定書の徹底・見直しという問題が存在したため、職場の労働者が簡単に同意することはなく、会社の提案内容は変更を余儀なくされた。

4.1 2000 年から 2003 年にかけての要員合理化と労使協議

1999 年 10 月 26 日に会社が提案した中期計画には、汽缶係と機械係あわせて 7 人の要員を削減することが含まれていた。要員合理化のための施策は、組織統合による作業再編、設備改善による作業効率化であった（表 5 を参照）。合理化施策のうち、問題となったのは組織統合であった。組織統合によって要員を削減するためには、汽缶係と機械係の詰所を集約し、互いに交流して教育・技能伝承を行い、双方の多能工化を推進することが必要であった。2000 年 9 月に会社は要員を変更せずに組織統合のみ行うことを提案し、翌年、汽缶係と機械係は統合され、部署の名称は「工務係」となった [A 労組第 57 回定期大会議案書]。ただし、汽缶係はボイラーの運転と監視が業務であり、機械係は設備のメンテナンスと修理が業務であり、作業内容がまったく異なっていたため、相互の交流や教育は十分に進まなかった。そのため組織統合は実態を伴っておらず、形式的なものであった [A 労組副支部長への聴き取り]。

その後、2002 年 4 月には変更された要員合理化計画が会社から提案された。この要員合理化計画では、当初の中期計画よりさらに要員を削減する内容（13 人減）となった（表 8 を参照）。当初の中期計画での施策に加え、整備業務の外注化、常昼班の業務を設備管理に特化、交替班の業務を故障対応に特化、点検・検診作業の見直し、設備保全管理システムに関する機器補充などといった施策が提案された [A 労組第 58 回定期大会議案書]。工務係の要員合理化についての労組執行部レベルの労使協議（運営委員会）は 2002 年 7 月 18 日に実施され、そこでは、A 労組から提示された 5 つの質問・意見に対して、A 社が回答している。A 労組の質問・意見は要員削減自体への疑問や作業の再編によるトラブルの増加を懸念する内容が中心であった。

表 8. 工務係（汽缶係、機械係）の要員合理化計画（2002 年提案）

	1999 年度末 協定要員		合理化実施後	
汽缶係	交替班 1 人×4 班＝4 人 常昼班 3 人	7 人	交替班 2 人×4 班＝8 人 常昼班 4 人	12 人
機械係	交替班 2 人×4 班＝8 人 常昼班 10 人	18 人		

（出所）「A 労組第 56 回定期大会議案書」、「A 労組第 58 回定期大会議案書」をもとに著者作成。

2002 年 7 月 18 日に開催された運営委員会をもって、A 労組は管理職が職場へ説明を行うことを了承し、工務係の要員合理化の問題は職場レベルでの労使協議へと移行した。2002 年 10 月 9 日に第 1 回の代表者会議が開催され、2003 年 3 月 24 日までに 9 回の代表者会議が行われた⁽⁵⁾。第 1 回の代表者会議の出席者は、会社側はグループ長（1 人）、部長代理（2 人）、職場側は統括班長（1 人）、班長代理（3 人）、一般班員（5 人）、労組執行部書記長（1 人）であった。第 2 回以降、若干の変更はあるが、同様の出席者で協議が行われた〔代表者会議議事録（A 労組からの提供資料）；A 労組副支部長への聴き取り〕。

第 1 回の代表者会議では、労働者側から質問や意見が提示され、第 2 回以降、それに会社側が回答するかたちで代表者会議が進められた⁽⁶⁾。職場労働者からの質問や意見の内容は、要員削減が困難であるという主張、作業者の教育に関する問題点の提示、要員削減によって起こる生産運営上の問題点の提示、組織統合時の設備投資の省力化効果に対する疑問、メンテナンス・修理担当者と操業担当者の業務範囲に関する質問・意見、慣習的に工務係が担当してきた業務の範囲に関する疑問であった。

この工務係の業務範囲は要員合理化の実施において大きな問題となった。A 社では各係の業務範囲を「業務協定書」という文章で定めていた。しかし、生産ラインの合理化の進展に対して、「業務協定書」の改定が追いつかず、実際の業務範囲と「業務協定書」との間に乖離が生じていた。部品の取り換え作業や故障対応などは、「業務協定書」でラインの操業担当者の業務と定められていたが、操業職場の合理化によって操業担当者は対応ができず、実態は工務係（機械係）の担当となっている業務が多くあった。こうした業務については「業務協定書」とおりに操業担当者が行わない限り、要員合理化は不可能であるというのが工務係の考えであった〔A 労組副支部長への聴き取り〕。

「業務協定書」の徹底および見直しについては、「要望書」と「依頼書」という文章で、工務係から提示され

た。「要望書」は会社宛てで提出されており、提出日は不明だが、「要望書」に対する会社の回答は 2003 年 3 月 22 日に提示されている。「依頼書」は各操業部門へ 2003 年 4 月 8 日に提出されている。この「要望書」と「依頼書」に対して、会社と操業部門は回答を行ったが、すべてが工務係の要求通りにはならなかった。

工務係の要員合理化について、職場レベルでの労使協議が何度も行われたが、会社側の回答に労働者側が納得することはなかった。しかし、元機械係と元汽缶係との交流と教育を進めていくことと、「業務協定書」に則った業務分担にすることを A 社が約束し、さらに協定要員外に余剰人員を置くことを A 社が了承したことから〔A 労組副支部長への聴き取り〕、協定要員の変更を職場労働者と A 労組は認め、2003 年 5 月からは新しい勤務体制へと移行した〔工務係(昼班、交替班)勤務体制の変更（A 労組からの提供資料）〕。余剰人員は常昼班に置かれた。協定要員では常昼班は 4 人であるが、余剰人員を 2 人または 3 人置き、6 人または 7 人が実質的な要員となった。常昼班に余剰人員を置くことは 2024 年時点でも続いている〔A 労組副支部長への聴き取り〕。余剰人員を置くことが交渉の落としどころとなった。

4.2 2009 年から 2012 年にかけての要員合理化と労使協議

2009 年 12 月 15 日、工務係の要員体制の見直しが A 社から A 労組へ提案された。A 社の提案では、2010 年 4 月 1 日より工務係の常昼班は要員を 1 人増やし、工務係の交替班は廃止し、保全管理業務へ集中する体制へ変更する要員合理化案が示された（表 9 を参照）。工務係の交替班が行っていた故障対応等の業務は常昼班や外注業者へ移管すること、夜勤時の故障対応については、呼び出し対応とし、常昼班と設備・操業スタッフとの合同体制で行うことが示された〔要員体制見直しの件申入れ（A 労組からの提供資料）〕。

表 9. 工務係の要員合理化案（2009 年提案）

2008 年度末 協定要員		変更後	
交替班 2 人×4 班＝8 人 常昼班 4 人	12 人	交替班 0 人 常昼班 5 人	5 人

（出所）「要員体制見直しの件申入れ」（A 労組からの提供資料）をもとに著者作成。

この要員削減の提案に対して、その場で A 労組は次のような問題点を指摘している。「呼び出しによる対応でプライベートな時間が確保できない」、「ライン作業者の機械故障対応の教育が出来ていない。ほぼ 100% 工務頼りの現状。ラインでも一定の対応ができる目途がたってから提案するべき」、「2003 年の合理化時の約束事がきちんと守られていない。対策についても残件がある」、「外注化が計画とおり進んでいない」、「各ラインへ移管する約束となっている作業も、実質行われてきておらず、教育も施されていない」、「業務について、現場サイドと認識に違いがある」、「トラブル時に呼び出す人を決めておくことは、労働法上の拘束時間にあたる」〔運営委員会資料（A 労組からの提供資料）〕。

こうした A 労組の指摘に対して、A 社は次のような考えを示した。「2003 年の合理化の約束事が守られていないことは会社としても大いに反省するところである」、「会社施策については、従業員、職場が理解・納得して取り組むことが大前提である」、「守られていない点は、2003 年時に立ち返って再整理する。まずそこから始める」、「1 カ月後に労組と再協議したい」、「約束が守られていないことはどんどん言って欲しい」〔運営委員会資料（A 労組からの提供資料）〕。

2003 年合理化時の約束事とは、業務協定書の徹底と常昼班は管理業務に特化することであった。これらが守られていないこと、また外注化も進まなかったことを、A 社が認めたうえで、新たな要員合理化を労使で協議するかたちとなった。労組執行部レベルでの再協議がいつ行われたのかは定かでないが、2010 年 1 月 29 日には第 1 回職場会議が開催され、この時点で執行部レベルの労使協議から職場レベルでの労使協議へと移行している。第 1 回職場会議の出席者は、会社側はグループ長（1 人）、係長（1 人）、事務所スタッフ（1 人）であり、職場側は班長（1 人）、班長代理（4 人）、一般班員（2 人）であった。職場会議という名称であったが、職場からは代表者が出席している。第 2 回以降、若干の変更があるが、ほぼ同様の出席者で協議が行われている〔職場会議議事録（A 労組からの提供資料）〕。第 1 回職場会議では、業務協定書、外注業者の整備作業、ライ

ン停止時が休日の場合の整備作業、事前に異常個所が判明した修理作業、操業部門への依頼事項等について協議が行われた。2010 年 2 月 1 日に開催された第 2 回職場会議では、会社側から「本来あるべき姿に戻し、それを前提に新体制の申し入れを行いたく、職場の同意のもと進め、課題・問題を見直したい」と発言があった〔職場会議議事録（A 労組からの提供資料）〕。まずは 2003 年時の合理化施策での未達成案件について確認することになった。

職場レベルでの労使協議は議事録で確認できる限り 2010 年 1 月 29 日から 2012 年 4 月 18 日にかけて 12 回行われた。職場レベルの労使協議では、業務協定書に関する質問や意見が中心となった。2003 年時の要員合理化は、故障対応や整備を業務協定書どおりに工務係から操業担当者への移管を進めていくことが前提となっており、業務協定書の徹底が工務係からの要求の中心であった。さらに、2009 年提案の要員削減を進めるには、既存の業務協定書の見直しも必要であった〔職場会議議事録（A 労組からの提供資料）；代表会議討議内容（A 労組からの提供資料）〕。

工務係の業務範囲の見直しについては、操業部門へ業務を移管する部分が多く、操業部門の了解を得ることが難しかった。会社側がうまく調整できなかったことが推測される。一方、工務係にとって業務協定書と実態が乖離していることは 2003 年の要員合理化時にも問題視しており、業務協定書の内容が徹底されない限り、要員合理化は認められないという立場であった。

このような状況のなか、A 社は 2009 年に提示した工務係の要員合理化案を取り下げている。取り下げた日時は不明であるが、2012 年 4 月 26 日には外注業者の S 社に工務係の交替班の業務を全て移管し、交替班の作業 8 人は S 社へ出向することを A 社は A 労組へ提案している〔A 労組 2012 年定期大会議案書〕。そして、A 社は 2012 年 6 月 5 日には、「2009 年 12 月 15 日に申し入れた要員体制見直しの件申入れについては、申し入れを取り下げしており、何ら効力を持つものではない」ことを文章で A 労組へ提示している〔A 社「平成 21 年 12 月 15 日申し入れの「要員体制の見直しの件申入れ」の

取り扱いについて（A 労組からの提供資料）」。これは外注業者の S 社に業務移管することと 2009 年に提案された要員合理化とは異なる施策であることを意味する。

この S 社への業務移管と出向によって、工務係の交替班の要員は 0 人、常昼班の要員は 4 人となり、要員協定は 2009 年に提案した削減計画を達成したかたちになったが、工務係の交替班 8 人は全員在籍出向であり、勤務条件や待遇などは変化なく、また作業内容も同じであった。結局、A 社は工務係の交替班が行ってきた故障対応や整備作業の一部を操業部門に移管することはできず、またそれでは工務係が要員削減を受け入れないので、実質は何も変えないかたちで外注業者へ業務移管し、また出向はするが交替班作業員の雇用と処遇を維持することが交渉の落としどころとなった〔A 労組副支部長への聴き取り〕。

5. おわりに

鉄鋼業 A 社では、要員合理化実施時には労組執行部の合意だけでなく、当該職場の労働者の合意が必要となる。要員合理化においては職場労働者の意向を重視する A 労組の姿勢が職場決定型労使協定を成立・維持させてきた。要員合理化における職場レベルの労使協定の労働者側出席者には労組の執行委員や職場委員も含まれることがあるが、あくまでも協定の主体となるのは当該職場の班長以下の労働者である。この A 社の事例から、職場レベルの労使協定の規制力、一般組合員である職場労働者の要員合理化に対する発言力を明らかにすることが本稿の課題であった。

2 つの視点から、要員合理化に対する労使協定の規制力を考察した。第 1 の視点は中期計画と実際の協定要員との差である。1996 年度から 1998 年度までの中期計画に対する協定要員、2000 年度から 2002 年度までの中期計画に対する協定要員をみると、廃案・変更となった合理化もあるが、おおよそ A 社の中期計画とおりに要員が減少してきた。第 2 の視点では、2000 年から 2012 年までの工務係の要員合理化とそれをめぐる職場レベルの労使協定の内容を確認しながら、合理化施策に対する職場労働者の関与と規制力について考察した。2003 年の要員合理化によって、工務係の常昼班の協定要員は 4 人となったが、協定外で余剰人員を置くことを職場労働者は要求し、A 社は認めた。また 2009 年に提案された合理化については、職場レベルの労使協定の結果、交替班の作業員が全員外注業者へ出向する内容へ変更された。協定要員は計画どおりに削減されたが、その実態は会社が当初提案した内容とは異なり、費用削減効果を弱めるかたちでの決着となった。

中期計画と協定要員とを比較する限り、会社提案のおりに要員合理化が進められてきたといえるが、要員合理化に対して、A 労組や職場労働者に規制力がなかったわけではなく、A 社の計画通りに要員が削減されなかった案件もあった。酸洗係・圧延係のように、労組執行部の反対によって廃案となった合理化もあった。また、工務係のように、職場レベルの労使協定によって、施策内容が変更された合理化もあった。これらの要員合理化に対して、A 労組および職場労働者が強く抵抗を示した主な理由は、それらが理屈の通らない施策であったことである。廃案となった酸洗係・圧延係の要員合理化は、それまでの会社施策と整合しない内容であり、工務係の要員合理化は、それまでの約束が守られていない状況で提案された。A 労組や職場労働者は会社の合理化提案のすべてに反対してきたわけではないが、杜撰な合理化計画に対しては規制をかけてきたといえる。

謝辞

本稿の作成にご協力いただいた A 労組の役員と元役員の方々に感謝を申し上げます。

注

(1) A 社は 2002 年以降会社合併により名称を幾度か変更している。また A 社の企業別労組である A 労組も会社合併にあわせて組織統合を行い、名称を変更している。ただし、合併前の要員協定を主な研究対象とすること、また A 社の要員協定の方法が会社合併後も引き継がれていることから、本稿では一貫して A 社、A 労組と記述する。

(2) 2023 年 7 月 10 日に A 労組委員長へ聴き取り調査を実施した。2023 年 11 月 18 日に A 労組元組合長へ聴き取り調査を実施した。2024 年 3 月 29 日に A 労組副支部長へ聴き取り調査を実施した。なお、聴き取り調査の対象者には、調査依頼文章にて研究の目的と公開について説明をし、投稿の前には原稿を確認していただいた。

(3) 氏原〔1989〕が指摘するように、日本では団体交渉と労使協定とは、機能的に見て不可分の一体をなしており、明確に区別はされていない。労使協定機関で取り扱われる場合でも、従業員または組合員代表の同意がなければ、執行できない事項があり、事実上団体交渉と異ならない¹²⁾。同様に A 社の要員改定に関する労使協定も労組と従業員の同意がなければ、執行はできない。要員に関する労使協定は事実上の団体交渉であると認識しているが、A 社と A 労組とが協定と表現していることから、本稿では「労使協定」または「協定」と記す。

(4)職場によって合理化協力金の有無や金額に差が生じ、労組へ苦情がくるようになったため、2006年1月からは合理化協力金が制度化され、職場での協議ではなく定められた基準に従って協力金が支払われるようになった〔A 労組委員長への聴き取り〕。

(5)代表者会議は10回以上行われたようであるが、正確な回数は不明である。

(6)第6回以降の代表者会議については議事録を確認できなかったため、第5回までの内容を記述している。

参考文献

- 1)青木宏之、2022、『日本の経営・労働システム 鉄鋼業における歴史的展開』ナカニシヤ出版、p.29。
- 2)石田光男、1986、「日本鉄鋼業の労使関係―B 製鉄所の事例調査―」『社会科学研究』東京大学社会科学研究所 38 (2)、p.161。
- 3)仁田道夫、1988、『日本の労働者参加』東京大学出版会、p.161。
- 4)石田光男、1989、「日本鉄鋼業の労使関係(二)―B 製鉄所の事例調査―」『評論・社会科学』同志社大学人文学会 (38)、p.32。
- 5)木村保茂、2008、「鉄鋼業の合理化と労使関係」木村保茂・藤澤建二・永田萬享・上原慎一『鉄鋼業の労働編成と能力開発』御茶の水書房。
- 6)仁田道夫、1988、『日本の労働者参加』東京大学出版会。
- 7)山本郁郎、1984、「「経営参加」と労働組合の発言―中小製鉄 B 労働組合―」日本労働協会編『80年代の労使関係』。
- 8)上井喜彦、1994、『労働組合の職場規制―日本自動車産業の事例研究―』東京大学出版会。
- 9)飯嶋和紀、2016、『労働組合職場組織の交渉力―私鉄中国広電支部を事例として』平原社。
- 10)森建資、2003、「職場労使関係の構造―1950年代の八幡製鉄所―」佐口和郎・橋元秀一編著『人事労務管理の歴史分析』ミネルヴァ書房。
- 11)鈴木博、2009、「労働組合の交渉機能の実相―『造船不況』時における石川島播磨重工労働組合の労使協議の実態―」『経済論叢』183 (1)。
- 12)氏原正治郎、1989、『日本の労使関係と労働政策』東京大学出版会、pp.151-180。

Sal は逃亡者かハンターか: *On the Road* の巡礼の旅

Is Sal the Fugitive or the Hunter?: His Pilgrimage in *On the Road*

松井豊次*

Toyotsugu Matsui

Summary

On the Road (1957) is the novel written by Jack Kerouac (1922-69) who belongs to the group of Beat Generation authors. The plot of the novel is wholly nebulous, but it consists of five parts. In the first three parts, the protagonists Sal Paradise and Dean Moriarty make three round trips between New York and San Francisco with other various companions by hitchhiking, bus, or worn-out old cars. In part four they visit Mexico. In the travels Sal's illusions about San Francisco are first scattered, but he grows spiritually through repeated visits to San Francisco and Mexico. An Easterner Sal gradually becomes able to take a farsighted view of San Francisco and the West Coast. He is not a fugitive from his native place or the West Coast but a hunter who looks for freedom and chases his American dream.

キーワード: ビート・ジェネレーション 巡礼の旅 逃亡者 ハンター アダプテーション (翻案)
個人の自由 アメリカン・ドリーム

Keywords : the Beat Generation pilgrimage fugitive hunter adaptation personal freedom the American Dream

1. はじめに

On the Road (『路上』1957) は、Jack Kerouac (ジャック・ケルアック 1922-69) によって書かれた半自伝的小説である。Kerouac は、アメリカ Massachusetts 州 Lowell の田舎町 Jean-Louis Lebris de Kerouac に生まれ、のちに New York へ家族とともに移住している。大学は New York 州 New York にある Columbia 大学に進学し、そこで Allen Ginsberg や William Burroughs などのいわゆるビート・ジェネレーションと呼ばれることになるボヘミアン的な詩人や作家たちと交流するようになった。

On the Road の主人公で語り手である Sal Paradise も将来脚本家を目指しながら、アメリカ東部の New Jersey

州 Paterson でおぼと暮らしていた。彼は“Kerouac's autobiographical alter ego”¹⁾ とみなされ、作者自身の分身とも言える存在である。本作のもう一人の主人公 Dean Moriarty は 1926 年、Los Angeles へ行くために Salt Lake City を通過中の両親の車の中で生まれた。彼は Sal の兄貴分であり、自分の衝動や欲望の赴くままに行動する面があるが、Sal は Dean に一種憧れの気持ちを抱きつつ行動を共にする。

本作は、これら二人の主人公が他の種々雑多の登場人物と絡みながら北米大陸を横断する旅を描いている。彼らの旅は、行き当たりばったりの印象を受けるが、自由を求めながら、未知の世界へ挑戦しているようにもとれる。この奇想天外な旅を通して、彼らは何かを学ん

*教養部外国語教室特任教員

だのだろうか。本論では特に、主人公 Sal の内面の変化に焦点を当てながら、登場人物の成長の兆しを探っていきたい。

2. *On the Road* の章立てと旅

On the Road は「プロットも構成もおかまいなし」²⁾と言われる長編小説であるが、5つの部に分かれている。Part One で Sal 一行のアメリカ東部 New Jersey 州 Paterson から西海岸 San Francisco への初めての横断旅行、Part Two では Sal 一行のアメリカ東部から西部への2回目の横断旅行、Part Three では、Sal が New York から移り住んだ Denver を起点とする San Francisco への3回目の横断旅行、Part Four では、New York から Mexico への Sal 一行の旅が、それぞれ描かれている。なお、Part Five は、後日談的な結びとなっている。

旅の手段は、ヒッチハイクやバスの利用、またレンタルやなけなしの金をはたいて調達したおんぼろ自動車である。アメリカ大陸を横断する旅の場合、往復で最長8,000マイルにも及ぶ長旅である。Dean が主として自動車の運転を担当し、旅の牽引役を務めている。車による旅の途中では、次々と正体不明のヒッチハイカーを乗せることになり、面識のない同乗者がいる状態である場合が多い。

Sal は、自分たちのこのような旅を“our pilgrimage (我々の巡礼の旅)”³⁾と称している。Pilgrimage という言葉は、1620年に Mayflower 号でアメリカ大陸に渡り、Massachusetts 州に Plymouth Colony を建設した英国清教徒の一団 The Pilgrim Fathers を連想させ、Sal たちの旅も、宗教的とまでは言えないにしても、一種精神性を伴ったものである可能性が窺える。

Sal たちによる北米大陸横断の pilgrimage は3回とも、起点が東部の New York であり（3回目は New York からいったん Denver を経由）、到着地は西海岸の San Francisco である。1回目の大陸横断旅行を例に挙げると、まず New York からバスで Chicago まで移動し、そこからヒッチハイクで Nebraska 州を経由、Wyoming 州 Cheyenne に到着。そこからバスで Colorado 州 Denver へ。さらに San Francisco 行きのバスに乗り換えるといった具合である。Denver から San Francisco へのバス旅は、Utah 州 Salt Lake City、Nevada 州 Reno を経て California 州 Sacramento に到着。そこから最終目的地 San Francisco へ、となる。結局、Sal のおぼが住む New Jersey 州 Paterson からは、片道 “three thousand two hundred miles” (p. 60) の旅となっている。

3. *On the Road* とテレビドラマ *The Fugitive*

前節で見た Sal 一行の1回目の旅で、Wyoming 州から西へ向かうバス旅の経路は、1960年代に一世を風靡したアメリカのテレビドラマ *The Fugitive* (「逃亡者」1963-67) の場面にもなっていることに気付かされる。*The Fugitive* は、身に覚えのない妻殺しの罪で死刑判決を受けた Dr. Richard Kimble が護送の途中の列車事故に紛れて逃走し、彼を追う警部補 Philip Gerard の追跡をかわしながら、真犯人である片腕の男を捜し求めるというストーリーで、4シーズン各30話ずつ全120話制作され、主役の逃亡者は David Janssen が演じた⁴⁾。

On the Road の Sal は Wyoming 州にさしかかったとき、New York から遠く離れた場所を通過していることを誇らしげに思い、10年前に見てみたいと憧れていた Colorado 州 Denver に近づいていることに胸をときめかせるが (p. 30)、Wyoming 州は *The Fugitive* の75話 “When the Wind Blows” の舞台となっていて⁵⁾、背後にロッキー山脈を控える白黒の場面が印象的である。さらに、*On the Road* の Part 1-11 で Denver から San Francisco へのバス旅の通過点として挙がっている地名も (p. 60)、*The Fugitive* の場面になっている。Dean には縁のなさそうに思える Utah 州 Salt Lake City を越えてたどり着いたきらびやかな歓楽街 Nevada 州 Reno は *The Fugitive* の18話 “Where the Action Is”⁶⁾で、そしてついに California 州に入ったことを Sal が実感する Sacramento は *The Fugitive* の22話 “Angels Travel on Lonely Roads” Part One、23話 “Angels Travel on Lonely Roads” Part Two⁷⁾で、それぞれ同テレビドラマの舞台として取り上げられている。特に22話、23話では、時代遅れのおんぼろ車で山越えをする修道女が登場し、Sal や Dean らのぼんこつ自動車での旅を彷彿させるものがある。なお、22話、23話の続編として109話 “The Breaking of the Habit” が3年後にカラーで制作されている⁸⁾。

アメリカ大陸横断を敢行する Sal や Dean 一行と、州間逃亡者としてアメリカ各地を移動する Kimble は、それぞれ目的は異なるにしても、州を越えて移動するという類似の状況に置かれているので、ストーリーの背景が重なるのは不自然ではないが、小説の同じ頁に見られる複数の都市が、テレビドラマで複数回の舞台として登場するのは興味深い。

3回目のアメリカ横断旅行の帰途、San Francisco から東方へ向かう途中、West Kansas にさしかかった頃、旅行社で、’47 Cadillac limousine を Chicago まで運転して運んでいく者を雇いたいという願ってもない申し出が Chicago baron からあり (p. 225)、Sal 一行はその Cadillac に乗り換えて移動を始める。Dean の無謀運転にあき

ながら、一行が Iowa 州から Illinois 州へ向かう途中、Dean は Sal に、1945 年の秋、当時働いていた Los Angeles から Indiana 州 South Bend までヒッチハイクや車の窃盗を繰り返しながら、the Notre Dame -- California game を見に行った思い出話をする (p. 232)。

Indiana 州は、上で本作と比較したテレビドラマ *The Fugitive* の妻殺し事件が起こった現場 Stafford という町がある州でもある。Dean が試合を見に行った South Bend は Indiana 州最北端の州境にあり、*The Fugitive* では最終回、120 話 “The Judgment” Part Two⁹⁾ 冒頭、護送の列車内で、5 年間 Kimble を残酷なまでに執拗に追跡してきた司法の権化たる Gerard が、初めて Kimble の言い分を受け入れ、片腕の男を見つけるために、地元 Stafford で 24 時間の猶予を認めることになるというシーンで、駅名として言及される。その列車内のシーンで並んで座る Kimble と Gerard の会話を、オープニングのナレーションを含めて引用してみる。

The opening narration: Two hunters, one of whom has finally caught his elusive quarry.

Kimble: The train makes three stops before it gets to Stafford. We can get off at anyone of them, take a car, drive in. You’ve waited 5 years, all I’m asking is 24 more hours.

Gerard: We ought to get into South Bend about 8:30.¹⁰⁾

引用冒頭のナレーションからわかるように、逃亡犯人を追う Gerard 警部のみならず、逃亡者である Kimble はハンター、探求者でもある。Kimble は、司法そしてその配下である Gerard 警部から逃げる一方で、真犯人である片腕の男を捜し求めるハンターでもあった。Gerard 警部は Kimble が主張する真犯人は妄想であると一蹴し、病的なまでに Kimble の逮捕に取りつかれたようになっていた。その鬼のような警部が初めて僅かに心を開く、重要なシーンである。実は Gerard 警部も、5 年前に護送犯を取り逃がしたという大失態の苦い経験から逃げていたのである¹¹⁾。

On the Road の Cadillac を運転しながら、South Bend での “ballgame” 観戦の話に続いて Dean は、1944 年に Arizona で逮捕され、収監先から脱走して LA へ行った体験を Sal に話す (p. 233)。また、2 回目の横断旅行中に、New Orleans で Dean や Sal らが貨物列車に飛び乗るシーンは (p. 154)、逃亡者 Kimble が貨車に飛び乗るシーンを思わせるし、Texas 州西部 El Paso の Greyhound bus station のシーンも (p. 162)、Kimble がよく利用するバスのシーンと重なり、テレビドラマ *The Fugitive* には、

On the Road のアダプテーション (翻案) の影響の可能性があることも否定できないと思われる。

4. San Francisco、Mexico への旅

4.1 San Francisco への 1 回目の旅

列車で South Bend に近づく中で、州を跨いで移動してきた Kimble が、司法から逃げる逃亡者であると同時に、真犯人を捜し求めるハンターであることが確かめられた。一方、*On the Road* の Sal も州を跨いでアメリカ横断の旅を繰り返すが、彼の場合の旅の目的は何なのであろうか。旅に伴う彼の心理的な変化から、Sal にとっての旅の意義を少しく探してみたい。

Sal 一行の旅は、2 節で見たように、4 度の旅行中 3 回が東部の New York を起点とし、西海岸の San Francisco を帰着点としている。これらの Sal 一行の移動の動線は、アメリカ合衆国で東海岸から大陸西部へと白人が進出していった 19 世紀の西部開拓、いわゆる西漸運動のそれと重なる。

1 回目のアメリカ横断旅行の途中、米中部 Iowa 州 Des Moines 近郊の安ホテルで、Sal は自分の青春時代の東部と自分の未来の西部の境界線にいることを意識する (p. 15)。実際に San Francisco へ行った Sal は、San Francisco の暗部、都会の寂しさを知ることになる。公園でのガールハントは失敗に終わり、queers (ホモ) が多く、バーのトイレで近づいてきた a queer を銃で脅すこともあったりして、程なく San Francisco を去るときが近づいてきたように思う (p. 73)。現地の知人たちとの飲み会で失態を犯した Sal はいよいよ San Francisco に居られなくなり、LA の Hollywood に行き、Texas 経由で引き返すことにする (p. 78)。Sal は、San Francisco を立つ前に山の上から California の風景を俯瞰し、霧に包まれる the Golden Gate を目にして、Coit Tower、the Embarcadero、Market Street、the eleven teeming hills に思いを馳せる (p. 78)。これらの観光名所は、San Francisco の華やかな表の顔であろう¹²⁾。

LA 入りすると Sal は、New York と LA を比較し、LA はアメリカの都市の中で最も孤独で最も野蛮である一方、New York は冬のひどい寒さはあるが、通りには奇妙な友愛の感情があり、LA はジャングルであると感じる。Sal はさらに、LA に多く棲息している the beatest characters、long haired brokendown hipsters など、いわゆるビート族に会いたいとも思う (pp. 86-7)。

結局 Sal は、California grapes をむしゃむしゃ食べながら何百人もの San Francisco からやってきた浮浪者が、走り去る平台型貨車の上で横になっているのを偶然目にしたとき、改めて the promised land と思っていた San

Francisco の現実を知り、驚きと落胆の気持ちを抱く (p. 91)。

4.2 San Francisco への 2 回目の旅

1 回目のアメリカ大陸横断旅行から戻った Sal が、New Jersey 州 Paterson のお婆の家で 1 年間過ごした 1948 年のクリスマス、突然 Dean が泥だらけの '49 Hudson に乗って、San Francisco からやって来る (p. 109)。神の存在について、神と悩みの関係について話す、神秘主義的になった Dean に Sal は驚く (p. 121)。Sal は東部へ戻っても、もう一度 “magnificent trip to the West Coast” (p. 129) を望んでおり、お婆に 2 週間で帰ると別れを告げ、Dean が運転する車で再び California に行くことにする (p. 133)。このとき Sal は、旅先に待ち受ける価値あるもの——“the golden land”、“all kinds of unforeseen events” (p. 135) ——に期待する。

旅の途中、Louisiana 州 New Orleans で Mississippi 川のフェリーに乗船したとき、Sal は川の流れから哲学的思考へと移行し、「これまでに自分が知ってきたものや、これから知るであろうものすべては “One (超越的存在)” であることを猛烈に知っていた」 (p. 147) と考える。

一行は途中 2 人のヒッチハイカーを乗せ、California 州 the San Joaquin Valley をガソリンを使わずに 30 マイル進むなどし、Oakland から San Francisco に到着する (pp. 168-9)。San Francisco で Dean が突然 Sal や同乗してきた元妻 Marylou を置き去りにして妻 Camille の元へ行ってしまい、寒い中、一文無しで Sal はため息をつき、東部を振り返る。California に再び到着した時の Sal の心には映画やギャングのイメージが去来し、“how's a man going to make a living with a gang like that?” (p. 170) と西部への幻滅を感じつつ、東部を恋しく思う。

Sal は、Market Street の fish-'n-chips の安レストランの女店主を見たとき、200 年前の英国にいる自分の母親を想起してスピリチュアルな世界に入り込み、4 マイル歩いて 10 本のタバコの吸いさしを拾いながら現実に戻されたりする (pp. 178-9)。今回の旅での Sal の “ah-dream of San Francisco” は、“the soft-shell crab of Fisherman's Wharf -- nay, the ribs of Fillmore turning on spits!” (p. 174)¹³⁾ など、食のイメージが強いが、一種神秘性を帯びている。

やがて Sal はナイトクラブで出会った “crazy musicians” にあきれ、San Francisco の人間はすべて鼻持ちならないと感じるようになり、再び夜明けの New York 行きのバスに乗り、Dean とその元妻 Marylou に別れを告げる (p. 178)。

Sal は、憧れの San Francisco を目指すも、到着すると

すぐに幻滅し、再び New York へ戻るパターンを繰り返す。

4.3 San Francisco への 3 回目の旅

1949 年の春、New York から Denver に移って一人暮らしをしていた Sal は、資金援助が得られたので、a travel-bureau car を借りて San Francisco へ 3 度目の旅に (p. 181)。San Francisco では Dean の家に直行する。3 度目の訪問での Sal の San Francisco のイメージは、“Whoo, Frisco nights, the end of the continent and the end of doubt, all doubt and tomfoolery, good-by” (p. 202) と、大陸の果てであり、疑いと道化の終わりでもある。さらに、San Francisco は、“America's most excited city” (p. 206) であると思う。Dean は、Sal と再び New York へ出発する意向であり、Sal は離れたくない気持ちと戦いながら、ほんの 2、3 日の滞在の後、Dean とともに Sacramento から東方へと急ぐ (p. 206)。

Denver へ向かうヒッチハイクの車中で Dean が謎の “IT” (p. 207) について語りはじめ、8 歳の頃の父親の思い出を語る際に Dean は “Now, I have IT” (p. 208) と言ったり、自分は統合失調症だと言うなど、他の同乗者にあきれられる。Dean が担当する時のおんぼろ車の運転は荒っぽく、同乗者は皆おびえるが、Sal は Dean を信頼し、自分の家のある Denver へ何とか戻る。Sal は、Denver の夜空について、星が “roman candles” ぐらいに大きく、“the Prince of the Dharma” のように寂しく見えると思う (p. 223)¹⁴⁾。

その後、タクシーや、3 節で述べた '47 Cadillac limousine、レンタカーを乗り継いで Sal は Dean と New York へと帰り着き、Long Island にあるお婆の新しいアパートに到着する。

3 度目の旅では、San Francisco での滞在期間が短かったこともあるが、Sal は San Francisco を達観できるようになり、神秘主義的になってきた Dean とともに、精神的に成長してきたことが窺える。

4.4 Mexico への旅

New York へ戻った後、Sal は作家として成功し始める。Dean はおとなしくなり、New York の派手な生活になんとなくなじめなくて、San Francisco が自分の故郷だと言う。さらに Dean は、簡単にではあるが、儒教の道に到達しつつあった。Dean はぼろ自動車を購入し、Denver へ移った Sal の元へ行き、今度は Mexico へ誘う。Mexico への旅は、Sal が想定していなかったことで、“I couldn't imagine this trip. It was the most fabulous of all. It was no longer east-west, but magic south” (p. 265) と、東西の旅から南への旅になることに驚きを感じている。

Sal と Dean にとって、Mexico は “the magic land at the end of the road” (p. 276) であり、メキシコ人の生活を好意的に見ている。現地で知り合ったメキシコ人 Victor の家に滞在し、whorehouse を訪れたり、the great River Moctezuma 近くに居住する mountain Indians との出会いがあったりする。

Sal は赤痢にかかるが、Dean は病気の Sal を残して New York へ戻って行った。Sal は Dean を裏切り者と思うも、彼の立場 “the impossible complexity of his life” (p. 302) を理解しようとしている。

秋になり、Sal は Mexico City からアメリカに戻る。Texas に入って Sal は謎の白髪老人に出くわし、すれ違いざまに “Go moan for man” (p. 303) と言われる。それを聞いた Sal は、アメリカ中の暗い道を徒歩で巡礼しなければならぬということなのか、と自問する。

Mexico への南北の旅は、Sal にとって想定外であったにもかかわらず、新たな異世界での体験と病床での日々が、彼を精神的にもさらに成長させたように思われる。

5. Sal は逃亡者かハンターか

Sal は、西部、とりわけ西海岸の San Francisco に憧れてはるばる New York から旅して来ても到着すると程なく幻滅し、故郷の東部を恋しく思い、西部からの逃亡者となるが、東部に帰ると再び西海岸への旅を望むようになり、挑戦を続ける。逆に、故郷の東部からの逃亡の旅でもなく、親族もいる東部を故里として大切に思い、必ず東部に戻ってくる。

Sal 一行の旅は、アメリカ合衆国の西部開拓、西漸運動と同じ動線をたどってはいるが、1848 年に California で砂金が発見されたことによるゴールド・ラッシュに象徴されるような、経済的な向上を目的とするものではなく、ほとんど無一文のままの旅である。

2 回目の旅で Sal は、自分たちの旅を “our pilgrimage” (p. 139) と称していることを、2 節で見た。Sal や Dean は、西部への旅を繰り返すたびに、精神世界が広がっていく経験をする。Sal は、New Orleans のフェリーに乗船しているときに超越的存在の “One” を意識したり、Denver の夜空を見て “the Prince of the Dharma” の孤独に共感する。Dean は 1 回目の旅以降、神秘主義者の側面を見せ、謎の “IT” について語り、Mexico に行く頃には儒教の道に進みつつあった。4 回目の旅で、Mexico City からアメリカに戻り、Texas で白髪老人に声をかけられた際の Sal の自問 “Did this mean that I should at last go on my [Italics mine] pilgrimage on foot on the dark roads around America?” (p. 303) には、今後 Sal は彼自身の巡

礼の旅をさらに一人で続けていくであろうことが暗示されているようである。

Sal や Dean たちは、「個人の自由」のテーマを探究し、「アメリカン・ドリーム」の約束に挑戦¹⁵⁾する姿を代表しているのかもしれない。テレビドラマ *The Fugitive* の逃亡者 Richard Kimble が真犯人片腕の男 (真実) を捜し求め、Gerard 警部が Kimble (誤った真実) を追い求めるハンターであるのと同じように、Sal も現状から逃避する逃亡者ではなく、挫折を繰り返しながらも自分の憧れ・理想を追求するハンターであると言えるであろう。

6. 結び

On the Road の登場人物たちは、概してフレンドリーである。Sal 一行の車での旅の途中、様々な変わった正体不明の人たち——North Carolina でおばが食料雑貨店を営んでいるというユダヤ人の少年、Alabama から Oregon までヒッチハイクしようとしている 17 歳ぐらいの足の不自由な少年、Bakersfield から来たミュージシャン等々——がヒッチハイクで車に同乗してくる。彼らは Dean の無謀な運転におびえたり、逆に Dean たちを怪訝そうに見ることがあっても、争いは一切なく、一定の距離感を保ちながら、どこかお互いに不思議な親近感を持っている。また、Denver で一人暮らしをしていたとき、Sal は Dean が父親と住んでいた通りを歩きながら、白人世界が提供するものは物足りなく感じ、自分が a Negro であればと思ったり、a Denver Mexican や a poor overworked Jap でありたいと思う (pp. 179-80)。3 回目の旅で、移動を請け負った Cadillac を Chicago の持ち主に返した時は、Dean の無謀運転で車体がボロボロになっていたが、後日、持ち主の豪商から苦情は一切なかった。このように本作には、社会階層や人種を越えた仲間意識が感じられ、根底に博愛主義が浸透しているようにも思える¹⁶⁾。

もちろん、本作には社会の暗部となるものも多く描かれている。本論では取り上げなかったが、特にドラッグの問題はかなり深刻で、Dean の 4,000 マイルを 4 日間で移動するなど無謀な運転は、ドラッグの影響もかなりあるのではないかと思われる。また一方で、Dean の奔放さに象徴されるようなフリーセックス、promiscuity の問題も避けられない。Part Five で、結局 Dean は 3 度の結婚、2 度の離婚を繰り返し、3 人目の妻を New Yorkに残したまま、San Francisco にいる離婚した 2 人目の妻と同居していることが記されている。

2026 年 4 月現在、イスラエルとアメリカ合衆国によるイラン攻撃が続き、ヨーロッパ各国、日本においても、

移民問題が深刻な課題となっている。「Kerouac 自身は、[19] 60 年代にはあまり評価されなくなって」¹⁷⁾ しまったということだが、「自由」と「挑戦」の真意について、さらに人種や社会階層を越えた友好関係、博愛主義について考えるための大切なきっかけを与えてくれる小説として、*On the Road* は、今一度見直され、読み返されるべき作品と言えるのではないだろうか。

注

- 1) Peter Conn, *Literature in America: An Illustrated History* (Cambridge: Cambridge University Press, 1989), p. 455.
- 2) 大橋健三郎・斎藤 光編 『アメリカ文学史』 (東京: 明治書院、1973)、p. 253。
- 3) Jack Kerouac, *On the Road* (New York: Penguin Books, 2003), p. 139. 本小説からの引用はすべてこの版による。以後、頁数は丸括弧内に入れ、本文中に記入する。
- 4) *The Fugitive* は 1993 年に Harrison Ford 主演で映画化され、2000 年から 2001 年に Tim Daly 主演でテレビシリーズのリメイク版が制作されているが、どちらも David Janssen 主演のオリジナルシリーズを超える作品にはなっていないように思われる。
- 5) Mel Proctor, *The Official Fan's Guide to The Fugitive* (New York: Authors Choice Press, 2009), p. 127.
- 6) Proctor, pp. 105-6.
- 7) Proctor, pp. 107-8.
- 8) Proctor, p. 140.
- 9) Proctor, p. 144.
- 10) 台詞は DVD *The Fugitive: The Fourth and Final Season*・Volume Two (Hollywood, California: CBS Studios Inc., 2011) の字幕から引用した。
- 11) オリジナルテレビシリーズの *The Fugitive* では、天下の嫌われ役 Gerard 警部を Barry Morse が好演した。
- 12) 筆者は 2007 年 8 月から 9 月にかけて大同大学の英語短期留学の引率で University of Oregon へ行った帰りに San Francisco に立ち寄ったことがあり、Golden Gate Bridge や Fisherman's Wharf (Part Two-10, p. 174 で言及されている) など懐かしく思い出される。
- 13) Fillmore は、オシャレなカフェやレストラン、ショップが立ち並ぶ San Francisco を南北に走るストリートで、観光スポットになっている。
- 14) Kerouac は、1958 年に小説 *The Dharma Bums* を出版している。Dharma(達磨) は、宇宙・人間などの本性、自然の秩序を表すサンスクリット語。

15) Kerouac, p. xxix; Introduction by Ann Charters.

16) ただし Dean は兵舎の監督者や警察官など、管理的な立場の人間にはひどく嫌悪感を抱く。

17) 大橋健三郎・斎藤 光・大橋吉之輔編 『総説アメリカ文学史』 (東京: 研究社、1980)、p. 447。

参考文献

- 1) Conn, Peter. *Literature in America: An Illustrated History*. Cambridge: Cambridge University Press, 1989.
- 2) Kerouac, Jack. *On the Road*. New York: Penguin Books, 2003.
- 3) 日本アメリカ文学・文化研究所編 『論文・レポートを書くためのアメリカ文学ガイド』、東京: 荒地出版社、1997。
- 4) 大橋健三郎・斎藤 光編 『アメリカ文学史』、東京: 明治書院、1973。
- 5) 大橋健三郎・斎藤 光・大橋吉之輔編 『総説アメリカ文学史』、東京: 研究社、1980。
- 6) Pickering, James H. (ed.). *The City in American Literature*. New York: Harper & Row, Publishers, 1977.
- 7) Proctor, Mel. *The Official Fan's Guide to The Fugitive*. New York: Authors Choice Press, 2009.

研究成果報告書 (掲載期間 2024.11.1－2026.3.31)

学術書

- (1) 光田恵他:青果物のおいしさの科学,第1編 青果物のおいしさとその評価法 第5章 青果物の香り成分と感覚特性 第1節 香り成分のにおい感覚特性,株式会社エヌ・ティー・エス,2024.
- (2) 光田恵他:生き物と匂い・フェロモンの事典,第5章 ヒト 5-3 生活における匂いとの関わり 5-3-5 悪臭、臭気 5-3-6 臭気対策技術、室内の臭気対策,朝倉書店,2025.
- (3) 光田恵,岩橋尊嗣,棚村壽三:きちんと知りたい においと臭気対策の基礎知識 第2版,日刊工業新聞社,2026.
- (4) 磯部友彦,嶋田喜昭,川本義海:[新版]地域交通の計画・政策と工学,第10～14章および15.2・15.3担当,鹿島出版会,2025.
- (5) 宮寄靖大他/日本道路協会 編:道路橋示方書(II 鋼部材・鋼上部構造編)・同解説,耐荷性能に関する部材の設計,日本道路協会,2025.
- (6) 中村裕哲:サービス産業の国際戦略提携 1976～2022:テキストマイニングと事例で読み解くダイナミズム,文真堂,2025.
- (7) 伊藤僚:ランニング学会:ランニング学事典,真冬のレースと防寒対策,朝倉書店,2025.
- (8) 松井かおり/片平会(編):領域のかたに横断する言語表象と再生をめぐって,第II部 言語教育の現在と新たな地平 「外国につながる子どものアイデンティティ変容を促すドラマ・ワークショップにおける共同的会話」,pp.81-96,金星堂,2024.
- (9) 山内昇,大名力:コーパスと語用論研究,第1章「コーパスと語用論」(pp.1-27),第5章「語用論研究資料としての The Movie Corpus の可能性と注意点 (1):コーパスデータの性質」(pp.157-191),第6章「語用論研究資料としての The Movie Corpus の可能性と注意点 (2):検索インターフェイスの仕様と検索事例」(pp.193-232),第7章「コーパス研究失敗知識データベースの構築と公開に向けて」(pp.233-261),ひつじ書房,2025.
- (10) 鈴木繁聡他/牧野篤他 編:新たな社会教育像を描く,pp.67-85,博英社,2025.

教科書

- (1) 愛知県,橋口宏衛,㈱Prodrone:ドローンエンジニア養成用テキスト(学生編),執筆・監修,愛知県,2025.
- (2) 愛知県,橋口宏衛,㈱Prodrone:ドローンエンジニア養成用テキスト(社会人初級編),執筆・監修,愛知県,2025.
- (3) 愛知県,橋口宏衛,㈱Prodrone:ドローンエンジニア養成用テキスト(社会人中級編),執筆・監修,愛知県,2025.
- (4) 愛知県,橋口宏衛,㈱Prodrone:ドローンエンジニア養成用テキスト(社会人上級編),執筆・監修,愛知県,2026.
- (5) 愛知県,橋口宏衛,㈱Prodrone:別冊1 Mission Planner 初期設定ガイド,執筆・監修,愛知県,2025.
- (6) 愛知県,橋口宏衛,㈱Prodrone:別冊2 Mission Planner 操作ガイド,執筆・監修,愛知県,2025.
- (7) 谷川恭雄,伊藤洋介,黒川善幸,坂本英輔,鈴木清孝,瀬古繁喜,寺西浩司,野中英,濱崎仁,平岩陸,福山智子,藤森繁,丸山一平,山本貴正:建築材料の基礎知識 持続可能な建築を考える,2.2.1-2.2.3節,理工図書,2025.
- (8) 石川良文,川口暢子,小池則満,嶋田喜昭,鈴木温,野澤英希:基礎から学ぶ都市計画,6.3・6.4・6.5担当,理工図書,2025.

翻訳、評論等

- (1) 吹田和嗣:協調安全技術とロボティクスにおける社会実証事例の紹介,標準化と品質管理 2024年12月1日(冬号),日本規格協会,2024年12月.
- (2) 吹田和嗣:特集1 産業用ロボット/協働ロボットアプリケーションのリスク低減手法 解説協働アプリケーションにおける安全性の検証手法,機械設計,第69巻,第13号,2025年12月号,日刊工業新聞,2025年12月.
- (3) Nina FUNAHASHI/NI&Co.Architects 一級建築士事務所:WINDOW SCAPE-Practical use of windows'motion in historic architecture-,pp.360-361,ISBN 9789090399997,European Cultural Centre,2025.05.
- (4) 武藤隆:論考 10「久屋大通公園の持続性,久屋大通界隈の変遷」,日本建築学会 建築雑誌 2025年4月号 特集「REGionalism in 名古屋」,pp.38-39,日本建築学会,2025年4月.
- (5) 小島一宏:映画「ロボット・ドリームズ」パブロ・ベルヘル監督,毎日新聞(愛知・岐阜・三重版)「芸術食堂」欄,2024年.
- (6) 小島一宏:映画「海の沈黙」若松節朗監督,毎日新聞(愛知・岐阜・三重版)「芸術食堂」欄,2024年.
- (7) 小島一宏:映画「正体」藤井道人監督,毎日新聞(愛知・岐阜・三重版)「芸術食堂」欄,2024年.

- (8) 小島一宏:映画「366 日」新城毅彦監督,毎日新聞(愛知・岐阜・三重版)「芸術食堂」欄,2025 年.
- (9) 小島一宏:映画「敵」吉田大八監督,毎日新聞(愛知・岐阜・三重版)「芸術食堂」欄,2025 年.
- (10) 小島一宏:映画「野生の島のロズ」クリス・サンダース監督,毎日新聞(愛知・岐阜・三重版)「芸術食堂」欄,2025 年.
- (11) 小島一宏:映画「名もなき者 A COMPLETE UNKNOWN」ジェームズ・マンゴールド監督,毎日新聞(愛知・岐阜・三重版)「芸術食堂」欄,2025 年.
- (12) 小島一宏:映画「少年と犬」瀬々敬久監督,毎日新聞(愛知・岐阜・三重版)「芸術食堂」欄,2025 年.
- (13) 小島一宏:映画「エミリア・ペレス」ジャック・オーディアール監督,毎日新聞(愛知・岐阜・三重版)「芸術食堂」欄,2025 年.
- (14) 藤井浩明:書評 A・J・リード『イギリス労働組合史 団結する「働く人びと」とリベラリズム』,図書新聞,2026.

審査学術論文

- (1) 松村修一朗,白石裕之:単原子・二原子分子気体を伝播するレーザー照射の周期的強度変動による LSD-LSC 遷移機構の数値的検討,プラズマ応用科学,Vol.32,2024,No.2,pp.67-72.
- (2) 白石裕之:アルゴン気体レーザーデトネーション閾値の線図特性解析による検討,プラズマ応用科学,Vol.33,2025,No.1,pp.27-30.
- (3) Takao Okabe, Shinichi Tanabe, Naoki Umeshita, Toshikazu Akimoto, Junji Miyamoto and Kei Somaya:Non-Contact Power Transfer via Metal Nanoparticle-Dispersed Ionic Liquid,IEEE Transactions on Semiconductor Manufacturing,Vol.38,2025,No.4,pp.917-924.
- (4) Reo Hanaki, Takashi Inoue, Kei Somaya, Hiroshi Usuki, Yuya Aoki and Masahiro Hagino:Effect of Cutting Temperature on Material Deformation and Residual Stress after Face Milling,Defect and Diffusion Forum,Vol.441,2025,pp.83-89.
- (5) Takao Okabe and Kei Somaya:Development of a wafer cooling system using ionic liquid under high vacuum condition for semiconductor fabrication device,Vacuum,Vol.229,2024,113570.
- (6) Genki Saito, Yamato Sano, Kazuya Mizuno, Shoma Torigoe, Ken Takata, Toshihiro Okajima, Shunsuke Muto:Precipitation behavior during low-temperature aging in Al-Mg-Si alloy using STEM-EDS intensity correlograms, Materials Science & Engineering A,932,2025,147686.
- (7) 鳥越翔真,中嶋洋介,都築佑翔,高田健,池田賢一,井誠一郎:Al-Mn 合金熱間圧延材の等温熱処理による微細組織形成,軽金属,75,2025,3 月号,pp.137-143.
- (8) Kazushige Tokuno, Masahiro Hagino, Ken Takata, Hideo Tsutsumori:Fatigue fracture process of extruded and heat-treated Al-Zn-Mg alloys under uniaxial cyclic loading with positive stress ratio, Materials Transactions,66,2025,pp.712-723.
- (9) Takeshi Nishiwaki, Hideo Tsutsumori and Qi Hu:Parameter identification of yield functions using hourglass-shaped tensile specimens,Journal of Physics:Conference Series 3104 (2025) 012032.
- (10) 前田安郭,吉田信吾,伊藤由華:高温生型砂の水冷及び空冷による冷却挙動の調査,鑄造工学,98 巻,2026,pp.142-147.
- (11) 三輪建翔,滝康佑,前田安郭:オイラー系及びラグランジュ系鑄造 CAE ソフトによる鑄造フィルタをもつ鑄型の湯流れ解析,鑄造工学,97 巻,2025,pp.716-721.
- (12) 滝康佑,遠藤岳,前田安郭:湯口に設置された鑄造フィルタを通過する溶融アルミニウム合金の流れ,鑄造工学,97 巻,2025,pp.18-23.
- (13) 西原大貴,中村優斗,前田安郭:アルミニウム合金コニカルモールド鑄造品の収縮孔,鑄造工学,96 巻,2024,pp.573-578.
- (14) 船橋幹人,糸隆千穂,出口大輔,前田安郭:生型試験片の静的および動的特性に及ぼすスクイズ条件の影響,鑄造工学,96 巻,2024,pp.579-585.
- (15) T.Itakura, T.Yamada, Y.Maeda, A.Hasuno, Y.Mochida:Examination of Variable Tilting Speed on Flow Behavior during Ladle Pouring in Die Casting using SPH Simulation,International Journal of Metalcasting,19,2025,pp.1194-1201.
- (16) Kozo Osamura, Shutaro Machiya:Bending Strain Dependence of Critical Current in BSCCO and REBCO Tapes,IEEE Transactions on Applied Superconductivity,35,2025,6,0601311.
- (17) Masahiro Hagino:Development of Machining Device with Real-Time Visualization of Boundary Surface on Tool Rake Face and Cutting Chip,International Journal of Automation Technology,Vol.18,No.3,(2024),pp.352-357.
- (18) 宮本潤示,高橋尚幸,金成姫:完全開放空気環境型超高速大気圧プラズマジェット窒化処理法の開発,鉄と鋼,111

巻,2025,4号,pp.227-230.

- (19) Yoshinari Kobayashi, Toshiki Sekioda, Daijiro Koyama, Tadayoshi Ihara, Shuhei Takahashi:Reduction of pressure oscillations during high-load HCCI combustion by secondary air injection:Effects of multiple air injections,International Journal of Engine Research,Online First,2025,pp.1-14.
- (20) Kazuhiko OSHIMA, Ryoto ISHIGURO, Kazuya OGATA:Development of Static Load Sensor Utilizing both Direct and Inverse Piezoelectric Effect of Piezoelectric Element,Journal of the Japan Society of Applied Electromagnetics and Mechanics,Vol.33,2025,No.3,pp.237-242.
- (21) 林秀行,大嶋和彦,尾形和哉:エリアシング式減速機の開発,日本機械学会論文集,91巻,2025,951号,DOI:10.1299/transjsme.25-00113.
- (22) Keunseob Lee, Yasuaki Kozato, Satoshi Kikuchi:Flow control around an airfoil by dielectric barrier discharge plasma actuator with voltage modulation,Physics of Fluids,Vol.37,2025,Issue 5,057138.
- (23) 篠原主勲:長方形断面を有する円環の面内振動モードにおける固有振動数の予測,日本機械学会論文集,2025,91巻,942号,p.24-00219.
- (24) Shinohara, K.,Nishibori, K.: Modeling Methodology of Paper Craft Aerial Acrobatic Robot Using Multibody Dynamics.Appl.Sci.2026,16,921.
- (25) 吹田和嗣,中坊嘉宏,穴田啓樹:応用行動分析に基づいた安心停止スイッチの適用と評価 ロボットレストランでの社会実証と考察,情報処理学会論文誌デジタルプラクティス,日本ロボット学会誌,Vol.43,No.5,pp.523-528,2025.
- (26) K.Suita and Y.Okawa:Practical evaluation and consideration of Viscoelastic covering materials based on simple contact detection for human robot collaboration and harmonization,Advanced Robotics,Vol.39,Issue 19-20,pp.1201-1209,2025.
- (27) T.Shirayama, K.Hamamoto, K.Funahashi, and K.Suita:Psychological Considerations on Workers in Service Fields for Achieving Safety and Well-Being-A Case Study and Social Demonstration in a Practical Restaurant Employing both Industrial and Service Robots,Advanced Robotics,Vol.40,Issue 5,pp.248-258,2025.
- (28) T.Oiwa, M.Katsuki, J.Fujita, T.Tanaka, K.Furutani, W.Gao, T.Ohashi, K.Sato and K.Sato:Questionnaire Survey on Ultra-Precision Positioning Technology—10th Questionnaire Survey Report—,International Journal of Automation Technology,Vol.19,2025,No.4,pp.355-362.
- (29) A.Kotani and T.Tanaka:Application of Shock Wave to High-Speed Positioning,International Journal of Automation Technology,Vol.19,2025,No.4,pp.535-539.
- (30) T.Tanaka, K.Harada, A.Kotani and T.Shimizu:Experimental Investigation of Power Transmission Efficiency at Various Shaft Angles Using a Pair of Spherical Gears,Journal of Advanced Mechanical Design, Systems, and Manufacturing,Vol.19,2025,No.2,JAMDSM0023.
- (31) Kazutake Komori:Ductile Fracture Prediction During Metal Forming Using an Ellipsoidal Void Model and Some Other Models,ISIJ International,Volume 65,2025,Number 1,pp.1-19.
- (32) 加納善明,小坂卓,北条善久,大森洋一埋め込み:磁石同期モータの d-q 軸等価回路モデルにおける鉄損の新しいモデリング法,電気学会論文誌 D(産業応用部門誌),145巻,2025,9号,pp.663-676.
- (33) 日南田純平,杉山雄亮,加納善明,松井信行:自動車駆動用埋込磁石同期モータの熱減磁評価技術,電気学会論文誌 D(産業応用部門誌),145巻,2025,6号,pp.432-438.
- (34) 加納善明,佐藤浩介:航空機向け高推力円筒型リニアモータの設計と実験検証,電気学会論文誌 D(産業応用部門誌),145巻,2025,4号,pp.298-307.
- (35) 榊原英記,川福基裕:新規無線駆動車両を用いた振動抑制制御系の設計,計測自動制御学会中部支部教育工学論文集,48巻,2025,pp.1-3.
- (36) Yoshiyuki Hattori, Tetsu Kachi:Comparison of switching characteristics of 650 V power devices using a double pulse circuit,IEICE(電子情報通信学会) Electronics Express,Volume 22,2025,Issue 6,pp.1-6.
- (37) Katsuya Nomura, Takuma Yamaguchi, Yoshiyuki Hattori:Fast electric field simulation of junction termination extension structure in vertical GaN power devices,IEICE(電子情報通信学会) Electronics Express,Volume 22,2025,Issue 20,pp.1-6.
- (38) Katsuya Nomura, Takuma Yamaguchi, Yoshiyuki Hattori:Topology Optimization of JTE Structure in Vertical GaN Power Devices,IEICE(電子情報通信学会) Electronics Express,Volume 21,2026,No.1,pp.1-6.

- (39) 高柳伸一,松本卓哉(A15233,元高柳研ゼミ生): Breve historia de la fortaleza pentagonal japonesa de Goryokaku. Comparación con casos españoles y su influencia sobre la urbanización moderna en la ciudad de Hakodate(日本の函館五稜郭に関する研究:スペインの事例との比較と函館市の都市形成に及ぼした影響),Cuadernos de Arquitectura y Fortificación,8(2022-2023),2025.
- (40) 萩原伸幸,方カシン:擬似吊り下げ格子曲面による鉄骨ラチスシェルの形状解析,鋼構造論文集,32 卷,2025,127号,pp.41-55.
- (41) 宗宮伸弥,樋田昌良,森長誠:ポーラスアスファルト舗装が道路交通騒音レベルを変化させる要因に関する現場実測及び現場コア供試体への X 線 CT を用いた実態把握,日本音響学会誌,82 卷,2026,3 号,pp.132-138.
- (42) T.Morihara, K.Shimoyama, S.Yokoshima, M.Morinaga, S.Tsujimura, Y.Hiraguri, Y.Murakami, T.Yano:Socio-acoustic survey on railway noise before and after the step changes in noise exposure and earthquakes in Kumamoto,Japan,Applied Acoustics,Vol.243,2025,111157.
- (43) J.Mori, F.Kodomari, T.Tsuchiya, M.Morinaga, I.Yamamoto:Aircraft type identification using convolutional neural network applied with Swarm Learning,Acoustical Science and Technology,Vol.46,2025,No.6,pp.654-662.
- (44) 鮫内和真,横島潤紀,森長誠,牧野康一,土肥哲也,横山栄,小林知尋,山崎徹:低周波数成分を含む自動車単体騒音に対する主観評価,自動車技術会論文集,56 卷,2025,5 号,pp.940-946.
- (45) T.Nguyen, T.T.H.N.Nguyen, M.Morinaga, Y.Hiraguri, T.Morihara:Assessing Annoyance and Sleep Disturbance Related to Changing Aircraft Noise Context:Evidence from Tan Son Nhat Airport,International Journal of Environmental Research and Public Health,Vol.22,2025,No.8,1296.
- (46) M.Morinaga, S.Yokoshima, T.Morihara:Relationships Between Road and Railway Noise Exposure and Self-Reported Sleep Disturbance for Detached Houses in Japan,International Journal of Environmental Research and Public Health,Vol.22,2025,No.8,1263.
- (47) M.Morinaga, S.Yokoshima, T.Kobayashi, S.Yokoyama, K.Makino, T.Doi, T.Yamazaki:Experiments on the peculiar region and threshold of oppressive or vibratory sensation caused by low-frequency pure tones,Acoustical Science and Technology,Vol.46,2025,No.2,pp.136-145.
- (48) 光田恵,萬羽郁子,北川舞,棚村壽三:においの容認性に基づく基準値に関する研究,日本建築学会環境系論文集,第 89 卷,2024,第 825 号,pp.688-693.
- (49) Ayane Isozaki, Megumi Mitsuda, Toshimi Tanamura:A study about the evaluation of the quality of a high concentration odor under an adaptation state with a low concentration odor focusing on skatole,Journal of the Human-Environment System,Vol.27,2025,No.1,pp.23-31.
- (50) 林瞳子,光田恵,棚村壽三,押村和香:被験者室の湿度がにおい評価に及ぼす影響,人間と生活環境,32 卷,2025,1 号,pp.41-48.
- (51) 磯崎文音,光田恵,棚村壽三:スカトールのにおい質における変化点に関する考察,日本建築学会環境系論文集,第 90 卷,2025,第 838 号,pp.602-608.
- (52) 磯崎文音,光田恵:スカトールの濃度差によるにおいの質的变化に関する研究—T&T オルファクトメーター試薬を用いた検討—,人間と生活環境,32 卷,2025,2 号,pp.23-29.
- (53) 光田恵,萬羽郁子,棚村壽三:嗅覚測定法における異なる提示方法を用いたにおい評価に関する検討—生活環境中のたばこ臭を対象として—,人間と生活環境,32 卷,2025,2 号,pp.43-48.
- (54) 磯崎文音,光田恵:におい袋におけるにおい物質の吸着に関する検討,におい・かおり環境学会誌,57 卷,2026,1 号,pp.39-42.
- (55) 坪井志朗,三村泰広,嶋田喜昭:アソシエーション分析を用いた自転車関連事故の特性分析,交通工学論文集,第 11 卷,2025,第 2 号,pp.A_145-A_151.
- (56) 中野結香,中川晴賀,嶋田喜昭,樋口恵一,三村泰広,葉袋奈美子:路面装飾デザインの違いが自動車走行速度にもたらす影響—ドライビングシミュレータの走行データ分析から—,交通工学論文集,第 11 卷,2025,第 2 号,pp.A_188-A_196.
- (57) 小島颯太,棚橋秀行:地下埋設物を有する機械油汚染地盤の非掘削浄化技術の開発,Kansai Geo-Symposium 2024・地下水地盤環境・防災・計測技術に関するシンポジウム・論文集,2024,pp.28-33.
- (58) 小島颯太,棚橋秀行:液体状・泡状の界面活性剤を用いた油汚染地盤の非掘削浄化に関する室内土槽実験,第 16 回環境地盤工学シンポジウム論文集,2025,pp.445-450.
- (59) 宮寄靖大,田村洋,小室雅人,田中賢太:初期不整が鋼製矩形補剛断面橋脚の繰返し水平耐荷挙動に及ぼす影響に関する

解析的検,鋼構造論文集,33 巻,2026,129 号,pp.15-23.

- (60) 宮寄靖大:実験による腐食損傷に伴う溶接組立てされた炭素鋼板の初期不整の変化,鋼構造年次論文報告集,33 巻,2025,pp.834-844.
- (61) 平川巧都,杉本悠真,小野健太,宮寄靖大:FEM のモデル化手法が横荷重を受ける鋼桁端部傾構部の弾塑性挙動に与える影響,構造工学論文集,Vol.71A,2025,pp.107-119.
- (62) 渡邊俊輔,正延徹也,山崎諒介,五十嵐友旗,宮下剛,宮寄靖大,澤田守,小野潔:SUS323L の自由突出板としての耐荷力および弾塑性挙動に関する研究,土木学会論文集,81 巻,2025,13 号,24-13540.
- (63) 田村洋,本多正尚,小室雅人,宮寄靖大,田中賢太:SM570 または SBHS500 を用いた矩形断面鋼製橋脚の地震時非線形挙動に関する解析的検討,鋼構造年次論文報告集,32 巻,2024,pp.434-447.
- (64) 伊藤純,樋口恵一,三村泰広,山岸未沙子,伊藤僚,村上滉一:高齢運転者における無信号交差点走行時の脳活動に関する基礎的研究,交通工学論文集,11 巻,2025,2 号,pp.A_163-A_169.
- (65) Yasuhiro Mimura, Keiichi Higuchi, Misako Yamagishi, Ryo Ito:A study on spatial exploration of elderly drivers at unsignalized intersections considering road and traffic conditions and driver's physical function,IATSS Research,Vol.49,2025,No.3,pp.314-323.
- (66) 樋口恵一,村上滉一,長野博一:名古屋市中における木造住宅密集地域の買物実態と支援策に関する研究,都市計画論文集,60 巻,2025,3 号,pp.799-A_806.
- (67) Hiroshi Kanayama, Masao Ogino, Shin-ichiro Sugimoto, Kaworu Yodo:A condition for positive-definiteness of the Schur complement matrix of the magnetostatic problem,J. Adv. Simulat. Sci. Eng.,Vol.12,Issue 1,pp.14-28,2025.(<https://doi.org/10.15748/jasse.12.14>)
- (68) 杉本振一郎,曾我部知広,張紹良,荻野正雄,武居周:電磁界解析の複素対称行列向け積型反復法,電気学会論文誌 D,Vol.145,No.2,pp.87-97,2025.(<https://doi.org/10.1541/ieejias.145.87>)
- (69) Masao Ogino, Shin-ichiro Sugimoto:Physics-informed Neural Networks based on Non-overlapping Domain Decomposition Methods for Axisymmetric Magnetostatic Problems,審査国際会議 COMPUMAG2025,Naples, 2025.
- (70) 上山公輝,桑野茂:Raspberry Pi を用いた簡易温度制御システムに関する研究,教育工学論文集,Vol.48,2025,pp.13-15.
- (71) Shaoxiang Dang, Tetsuya Matsumoto, Yoshinori Takeuchi, Hiroaki Kudo:Time-domain Separation Priority Pipeline-based Cascaded Multi-task Learning for Monaural Noisy and Reverberant Speech Separation,APSIPA Transactions on Signal and Information Processing,14,2025,1,1-33.
- (72) Shaoxiang Dang, Tetsuya Matsumoto, Yoshinori Takeuchi, Hiroaki Kudo:A comprehensive study on supervised single-channel noisy speech separation with multi-task learning,Speech Communication,167,2025,103162.
- (73) L.P.Hoang, H.Takayama, M.Nishida, S.Tsuge, and S.Kuroiwa:Utterance-Style-Dependent Speaker Verification Using Emotional Embedding with Pretrained Models,Sensors,Vol.25,2025,No.17,pp.5284-5303.
- (74) W.Zaitsu, M.Jin, S.Ishihara, S.Tsuge, and M.Inaba:Can we spot fake public comments generated by ChatGPT(-3.5,-4)? :Japanese stylometric analysis expose emulation created by one-shot learning,PLoS ONE,Vol.19,2024.
- (75) 不破勝彦,沖村達也:2 次遅れ系における外乱モデルを陽に用いない外乱オブザーバ,電気学会論文誌 c,145 巻,2025,7 号,pp.639-640.
- (76) Ryo ITO, Naoyuki YAMASHITA:Moderately cool environment with rain and wind increases cold strain and energy expenditure via carbohydrate oxidation during running exercise,The journal of sports medicine and physical fitness,65,2025,2,pp.180-187.
- (77) 日高直保:死産を経た母親が里親となる経験:A さんの語りから,臨床実践の現象学,7 巻,2025,2 号,pp.16-33.
- (78) Kohei Ueno:Attraction rates for iterates of a superattracting skew product,Journal of Mathematical Analysis and Applications,Vol.539(November 2024),Issue 1,Part 1.
- (79) Kohei Ueno:Newton polygons and Bottcher coordinates near infinity for polynomial skew products,Dynamical Systems,Published online(February 2025),pp.346-374.
- (80) Kohei Ueno:Dynamics of superattracting skew products on the attracting basins:Bottcher coordinates and plurisubharmonic functions,Int.J.of Dynamical Systems and Differential Equations,Published online(June 2025),pp.143-198.
- (81) Hiroyuki Hirayama, Yasuyuki Oka:Existence and Uniqueness for the Cauchy Problem of Semilinear Heat

- Equations on Stratified Lie Groups in the Critical Sobolev Space, *Taiwanese J. Math.* 28(2024), No. 6, pp. 1183–1203.
- (82) Hiroyuki Hirayama, Yasuyuki Oka: Results of existence and uniqueness for the Cauchy problem of semilinear heat equations on stratified Lie groups, *Journal of Differential Equations*, 412, pp. 214–249.
- (83) Hiroyuki Hirayama, Yasuyuki Oka: Existence and uniqueness results for the Cauchy problem of generalized Burgers type equations on stratified Lie groups, *Journal of Elliptic and Parabolic Equations*, 11, 2025, No. 1, pp. 265–296.
- (84) Toshihide Futamura, Yoshihiro Sawano, Tetsu Shimomura: Weak-type estimates for variable Riesz potentials with respect to the Hausdorff content over metric measure spaces, *Georgian Math. J.*, Vol. 30, 2026, No. 1, pp. 89–97.
- (85) NISHIYAMA Shogo, SATO Wakana, HOTTA Moeka, IKARASHI Moeka, SAIDA Hiromi, TAKAMORI Yohsuke, NAGATA Tetsuya, IKEDA Hiroyuki, TAKAHASHI Masaaki: High-Resolution Infrared Spectroscopy of IRS 16CC and IRS 33N --Stellar Parameters and Implications for Star Formation Near Sgr A*--, *Universe*, 11, 2025, id332.
- (86) Taiji Nakamura, Yusuke Tsuruta, Akihito Egi, Hiromasa Tanaka, Yoshiaki Nishibayashi, Kazunari Yoshizawa: Theoretical study of imide formation in nitrogen fixation catalyzed by molybdenum complex bearing PCP-type pincer ligand with metallocenes, *Inorg. Chem.*, Vol. 64, 2025, No. 18, pp. 9124–9136.
- (87) Taichi Mitsumoto, Taiji Nakamura, Hiromasa Tanaka, Kazunari Yoshizawa, Yoshiaki Nishibayashi: Cooperative ammonia formation catalyzed by molybdenum and samarium complexes, *Angew. Chem. Int. Ed.*, 2025, e202507061 (9 pages).
- (88) Shun Sugimoto, Atsushi Okochi, Taiji Nakamura, Asuka Konomi, Hiromasa Tanaka, Kazunari Yoshizawa, Yoshiaki Nishibayashi: Catalytic reduction of dinitrogen via hydroboration, *J. Am. Chem. Soc.*, Vol. 147, 2025, No. 30, pp. 26684–26692.
- (89) Tomoyuki Miyazaki, Shun Sugimoto, Taiji Nakamura, Hiromasa Tanaka, Kazunari Yoshizawa, Yoshiaki Nishibayashi: Reactivity of a molybdenum-nitride complex bearing an NHC-based PCP-type pincer ligand toward unsaturated substrates, *Dalton Trans.*, Vol. 54, 2025, No. 42, pp. 15864–15872.
- (90) Yoshikatsu Kameda, Shun Sugimoto, Taiji Nakamura, Hiromasa Tanaka, Kazunari Yoshizawa, Yoshiaki Nishibayashi: Catalytic nitrogen fixation using molybdenum-oxo complexes bearing NHC-based PCP-type pincer ligands via oxo-to-nitride conversion, *J. Am. Chem. Soc.*, Vol. 148, 2026, No. 8, pp. 8884–8892.
- (91) 小西章典: 劇場巨大化時代の『マクベス』——J・P・ケンブルの記憶と忘却, *東北ロマン主義研究*, 2025, 12 号, pp. 35–47.
- (92) 平林健治: 日本人上級英語学習者の自由英作文における統語的複雑さを含んだ言語的特徴の分析, *言語文化学会論集*, 2024, 63, pp. 101–109.
- (93) 平林健治: アクション・リサーチによる小学生低学年を対象とした基礎英文ライティングの指導法の探求: パイロットスタディ 1, *言語文化学会論集*, 2025, 65, pp. 115–123.
- (94) 松井かおり: 「多文化・多言語ワークショップにおける子ども達の複言語使用とアイデンティティー「ブリコラージュ」されること」とメディアに着目して—, *言語表象*, 2024, 第 61 号, pp. 99–112.
- (95) 松井豊次: トマス・ハーディとエドモンド・ゴスの親交とその意義, *トマス・ハーディを読む: 文学の可能性を求めて*, 日本ハーディ協会編, 2026, pp. 34–36.
- (96) N. Koya, T. Kitamura: Physical strength factors affecting the competitive level of Japanese male tennis players, *International Journal of Racket Sports Science*, 7(2), 2025, pp. 1–7.

学術論文

- (1) Hiroyuki Shiraishi and Kazuki Matsuoka: Effect on Combustion Duration Time of Floating Flames Extended by Various Ultrasonic Vibration Sources, Plasma Application and Hybrid Functionally Materials, Vol. 34, 2025, pp. 17–18.
- (2) 渡邊静, 大矢拓海, 古御門詩月, 田中浩司: Ag-SnO₂ 接点材の合成および Cu 合金基板とのレーザー接合, *銅と銅合金*, 64 巻, 2025, 1 号, pp. 71–76.
- (3) 田中浩司, 福富友哉, 児玉勇毅, 森谷智一: 低 Cr-Si 型工具鋼の累積加熱における軟化抵抗とナノ析出組織の形成機構, *熱処理*, 66 巻, 2026, 2 号, pp. 89–95.
- (4) 蔦森秀夫: プレス成形シミュレーション用材料モデルの現在地, *プレス技術*, 64, 2026, 810, pp. 10–14.
- (5) 西脇武志: 部分軟化処理を施したアルミニウム合金板のプレス成形技術, *軽金属*, 74 巻, 2024, 11 号, pp. 500–505.

- (6) 西脇武志:アルミニウム合金板の部分軟化成形技術,ふらすとす, 8 巻,2025,94 号,pp.586-590.
- (7) Y.Seo, F.Itakura, Y.Maeda, A.Hasuno, Y.Mochida:Wave Behavior caused by Ladle Pouring and Plunger Advancing in Aluminum Alloy Die Casting using Particle-Based SPH Method,SCIPEDIA,International Conference on Particle-Based Methods,Fundamentals and applications PARTICLES 2025,Barcelona,2025.
- (8) 前田安郭:鋳造 CAE の技術動向と粒子法,(公社)日本鋳造工学会中国四国支部会報誌「こしき」,47 巻,2024,pp.13-17.
- (9) 板倉風雅,山田徹,前田安郭,蓮野昭人,持田泰:アルミニウム合金ダイカストのラドル注湯時およびプランジャ前進時における波動挙動の調査,日本ダイカスト会議論文集,2024,JD24-08,pp.45-50.
- (10) Masahiro Okumiya, Koichiro Nambu, Sou Mizutani, Kaname Ito, Makoto Fujita, Masashi Yoshida, Junji Miyamoto:Improvement of mechanical properties by austenitic nitriding and quenching,Proceedings of the 29th International Federation for Heat Treatment and Surface Engineering World Congress,2024,pp.84-88.
- (11) 内海能亜,吉田昌史:偏心・偏肉管および極薄肉管の曲げ加工技術,M&P Newsletter,2024,68 号,pp.2-3.
- (12) 内海能亜,吉田昌史,中島邦斗:衛星用極薄肉導波管をターゲットとした曲げ加工技術,ふらすとす,7 巻,2024,83 号,pp.709-713.
- (13) 内海能亜,中村格芳,吉田昌史:大学における材料加工の教育事例,ふらすとす,8 巻,2025,86 号,pp.59-62.
- (14) 間部直也,尾形和哉:力覚センサを用いたメカナムホイール台車の協調制御,計測自動制御学会中部支部教育工学研究委員会教育工学論文集,47 巻,2024,pp.50-52.
- (15) 高橋明大,尾形和哉:AR マーカーを用いた自己位置推定と車輪型倒立振子の移動制御,計測自動制御学会中部支部教育工学研究委員会教育工学論文集,47 巻,2024, pp.53-55.
- (16) 秋田典久,尾形和哉:商品運搬作業を想定した移動ロボットのための状態遷移を用いた統合システム(AR マーカーによる自己位置推定),計測自動制御学会中部支部教育工学研究委員会 教育工学論文集,48 巻,2025, pp.44-46.
- (17) 志波颯,尾形和哉:LiDAR の取り付け方法の違いによる 3 次元 SLAM の性能評価,計測自動制御学会中部支部教育工学研究委員会教育工学論文集,48 巻,2025, pp.47-49.
- (18) 加藤颯,田中淑晴,小谷明:歯車のかみ合い長さの測定手法の提案,教育工学論文集,48 巻,2025,pp.57-59.
- (19) 宇野享,良知康晴:邑南町立石見中学校,新建築,第 113 号,2025,11 月号,pp.126-133.
- (20) 近藤亜美(A22040,元高柳研ゼミ生),高柳伸一:パラーディオの『建築四書』に掲載されているヴィッラとパラッツォの平面図に関する研究:算出した壁厚から検証した建築図面としての妥当性,日本建築学会東海支部,日本建築学会東海支部研究報告集=Proceedings of Tokai Chapter Architectural Research Meeting(64),2026,pp.541-544.
- (21) 藤森繁:コンクリート表層部の深さ方向への連続的品質評価方法の確立,日比科学技術振興財団 生活環境向上のための研究報告書 令和 6 年度 第 27 回助成研究成果論文集,Vol.27,2025,pp.251-258.
- (22) 森長誠:交通騒音が睡眠に及ぼす影響についての科学的知見,睡眠と環境,18 巻,2024,2 号,pp.27-33.
- (23) 君山博之,尾関日南子,竹内彩花:VM 性能に対して他の VM が及ぼす影響の評価法に関する検討,第 32 回マルチメディア通信と分散処理ワークショップ(DPSWS2024)論文集,2024,pp.16-24.
- (24) 新祥大朗,瀬瀬友貴,増次慧,増田友陽,吉村英晃,栗本崇,君山博之:モバイルネットワーク性能データベースシステムの提案,第 33 回マルチメディア通信と分散処理ワークショップ(DPSWS2025)論文集,2025,pp.241-246.
- (25) 新祥大朗,櫻井瑠也,布村亮弥,栗本崇,君山博之:測定データの信頼性を考慮したモバイルネットワーク性能データベースシステムの提案,信学技報,Vol.125,2026,NS2025-312,pp.536-539.
- (26) 森本歩夢,笠原佑哉,西浦涼平,君山博之:インテリジェントゲートウェイによる車載ネットワークを介した不正始動防止対策の提案,信学技報,Vol.125,2026,ICSS2025-92,pp.48-53.
- (27) 不破勝彦,沖村達也:同一次元状態推定器による正弦波外乱抑制制御,計測自動制御学会中部支部教育工学論文集,47 巻,2024,pp.1-3.
- (28) 佐藤若菜,不破勝彦,グエン コン カン:断線状態を考慮した二輪型倒立ロボットの制御系設計,計測自動制御学会中部支部教育工学論文集,47 巻,2024,pp.4-6.
- (29) 不破勝彦,沖村達也:低次元外乱オブザーバを用いた準強安定化制御,計測自動制御学会中部支部教育工学論文集,48 巻,2025,pp.35-37.
- (30) 喜田健司:H ∞ 制御理論による逆フィルタを適用した肩掛け型ウェアラブルスピーカの音像定位実験,信学技法,124 巻,2025,389 号,pp.98-103.
- (31) 中村裕哲:コロナ禍におけるクロスボーダー戦略提携と M&A の変遷,大同大学紀要,2025,60,pp.1-9.
- (32) 中井三留,成田淳一郎,瀬川重男:調和優函数の存在の諸相,大同大学紀要,60 巻,2025,pp.11-88.

- (33) 北崎悦子,平田智秋,小屋菜穂子:大学の一般体育のテニス授業における教育効果に関する実態調査,学習院大学スポーツ・健康科学センター紀要,27号,2026,pp.3-14.
- (34) 鈴木繁聡:公教育における「情報通信技術の活用」への民間事業者の参入に関する考察ー「教育データの利活用」に関する政策過程に着目してー,大同大学教職教室研究紀要,2025,pp.20-43.
- (35) 鈴木繁聡,鈴木草苺駒,田中裕史:英国における Ofsted の新たな展開とその課題ー2025 年までの判定基準と主要評価項目に着目してー,大同大学教職教室研究紀要,2025,pp.44-68.
- (36) 金亨善,大磯恵子,岡田卓朗,鈴木繁聡,詹瞻,豊田明子,林知里:公民館をめぐる政策の動向と 2023 年度全国公民館実態調査の概要(第1回),月刊公民館,821号,2025,pp.41-46.
- (37) 林知里,鈴木繁聡,大磯恵子,岡田卓朗,詹瞻,豊田明子,金亨善:2023 年度全国公民館実態調査(第2回)社会教育専門職への期待の高まりと配置,養成,活躍機会の現状,月刊公民館,822号,2025,pp.41-48.
- (38) 岡田卓朗,大磯恵子,詹瞻,豊田明子,金亨善,林知里,鈴木繁聡:2023 年度全国公民館実態調査(第3回)公民館のデジタル化:コロナ禍を経て考察する現状と課題,月刊公民館,823号,2025,pp.41-46.
- (39) 金亨善,豊田明子,林知里,鈴木繁聡,詹瞻,大磯恵子,岡田卓朗:2023 年度全国公民館実態調査(第4回)公民館と学校の連携:地域学校協働活動の現状と課題,月刊公民館,824号,2026,pp.44-49.
- (40) 牧野篤,豊田明子,金亨善,鈴木繁聡,大磯恵子,詹瞻,岡田卓朗,林知里:2023 年度全国公民館実態調査(最終回)座談会 各設問テーマをつなぐ全体討議:拡大する期待と,現場のリアリティのあいだで,月刊公民館,826号,2026,pp.41-48.

学会発表

- (1) 作野飛斗,若森航大,神崎隆男:都市境界層の乱流構造に及ぼす上空速度変動の影響,日本機械学会東海支部第 74 期講演会,2025 年 3 月,名古屋.
- (2) 作野飛斗,若森航大,神崎隆男:都市境界層の乱流構造に及ぼす上空気流中の速度変動の影響,日本機械学会 2025 年度年次大会,2025 年 9 月,札幌.
- (3) 森下洗聖,神崎隆男:高活性炭素繊維を利用した大気浄化装置の NO2 除去率評価方法の検討,第 66 回大気環境学会年会,2025 年 9 月,名古屋.
- (4) 作野飛斗,若森航大,神崎隆男:異なる上空速度変動が大気境界層の乱流構造に及ぼす影響,日本機械学会東海支部第 75 期講演会,2026 年 3 月,名古屋.
- (5) 右田佳史武,伊東大輝,松森理矩,白石裕之:水蒸気超音速噴流騒音のプラズマ添加用電源による影響,日本航空宇宙学会,第 61 回中部・関西支部合同秋期大会,2024 年 11 月,愛知.
- (6) 神谷佳孝,松村修一郎,右田佳史武,白石裕之:二原子分子気体を伝播する LSD の周期的レーザー照射強度変化に対する数値流体解析,JAXA 宇宙科学研究所,宇宙輸送シンポジウム,2025 年 1 月,神奈川.
- (7) 右田佳史武,中島大揮,岩崎克哉,白石裕之:プラズマアクチュエータを用いた水蒸気超音速噴流の騒音低減効果,日本航空宇宙学会,第 62 回中部・関西支部合同秋期大会,2025 年 11 月,京都.
- (8) 柚谷啓,堀内泰志:真空用単極モータにおける磁束密度特性の数値的検討(磁石寸法の影響について),日本設計工学会東海支部令和 7 年度研究発表講演会,2026 年 2 月 28 日,名古屋.
- (9) 柚谷啓,渡邊友聖,内田孝紀,近藤文義:大気圧観測プローブにおける測定口内溝の影響,日本設計工学会東海支部令和 7 年度研究発表講演会,2026 年 2 月 28 日,名古屋.
- (10) 市原慶梧,宮本潤示,柚谷啓,岡部貴雄:低温環境下におけるポリピロール粒子を分散させたイオン液体の粘性評価,日本設計工学会 2025 年度秋季大会研究発表講演会,2025 年 11 月 7~8 日,長崎.
- (11) 神谷佳孝,萩野将広,柚谷啓,岡部貴雄:高真空対応循環システム用粘性ポンプの性能に関する数値的検討,日本設計工学会 2025 年度秋季大会研究発表講演会,2025 年 11 月 7~8 日,長崎.
- (12) 神崎岳斗,宮本潤示,柚谷啓,岡部貴雄:バイポーラパルススパッタリング法がイオン液体の金属粒子分散へ与える影響,表面技術協会第 152 回講演大会,2025 年 9 月 9~10 日,福岡.
- (13) 市原慶梧,岡渥大,柚谷啓,宮本潤示,岡部貴雄:ポリピロール粒子を分散させたイオン液体のトライボロジー評価,日本トライボロジー学会トライボロジー会議 2025 春,2025 年 5 月 26~28 日,東京.
- (14) Kego Ichihara, Kodai Oka, Junji Miyamoto, Kei Somaya and Takao Okabe:Electrical and Tribological Properties of Ionic Liquid with Polypyrrole Particles,The 10th International Conference on Manufacturing, Machine Design and Tribology(ICMDT 2025),23-25 April 2025,Himeji,JAPAN.
- (15) 平野太一,宮本潤示,奥宮正洋,柚谷啓:イオン液体を用いた鋼の焼入れに関する研究,日本機械学会東海支部第 74 期講演会,2025 年 3 月,名古屋.

演会,2025年3月13~14日,春日井.

- (16) 柚谷啓,岡部貴雄,宮本潤示,市原慶梧,岡滉大:ポリピロール粒子を分散させたイオン液体の導電性評価,日本設計工学会東海支部令和6年度研究発表講演会,2025年3月1日,名古屋.
- (17) 柚谷啓,久米颯汰:弾性梁を用いたフォイルジャーナル軸受構造の動特性評価,日本設計工学会東海支部令和6年度研究発表講演会,2025年3月1日,名古屋.
- (18) 柚谷啓,山崎僚太,山本湧希,近藤文義,内田孝紀:環境観測用気圧変動プローブに関する数値的検討(Vaisala社製SPH10の場合),日本設計工学会東海支部令和6年度研究発表講演会,2025年3月1日,名古屋.
- (19) Takao Okabe and Kei Somaya:Study on Bulk Polymerization Characteristics of Iodine-containing Polymers for Improved X-ray Contrast Effectiveness,37th International Microprocesses and Nanotechnology Conference(MNC 2024),12-15 November 2024,Kyoto,JAPAN.
- (20) 高田健,佐野大和,水野和也,鳥越翔真,齊藤元貴,大塚真弘,武藤俊介,神谷和孝,イエザーリ・ファビオ,岡島敏浩:Al-Mg-Si合金の等温時効での析出過程の調査,軽金属学会,147回秋期大会,2024年11月,群馬大学.
- (21) 鳥越翔真,都築佑翔,中嶋洋介,高田健,田所英二,池田賢一,井誠一郎:加工熱処理を施したAl-Mn合金の等温熱処理での組織変化,軽金属学会,147回秋期大会,2024年11月,群馬大学.
- (22) 小原拓夢,長谷川凱土,高田健,荒井重勇:画像処理によるAl-Mg-Si合金中析出物の定量値化,軽金属学会,147回秋期大会,2024年11月,群馬大学.
- (23) 池田賢一,谷藤品,三浦誠司,高田健:6000系アルミニウム合金の時効温度におけるクリープ変形挙動,軽金属学会,147回秋期大会,2024年11月,群馬大学.
- (24) 齊藤元貴,武藤俊介,水野和也,鳥越翔真,高田健,岡島敏浩:STEM-EDSの組織相関図を用いたAl-Mg-Si合金の析出過程の解析,日本顕微鏡学会,第67回シンポジウム,2024年11月,北海道大学.
- (25) 知野見仁紀,荻野大地,高田健:パラジウム中水素濃度が電気抵抗率・発熱へおよぼす影響,材料フォーラムTOKAO,2024年11月,豊橋市民センター.
- (26) 都築佑翔,高田健:Al-Mg-Si合金における予備時効の硬化挙動への影響,材料フォーラムTOKAO,2024年11月,豊橋市民センター.
- (27) 長谷川凱土,小原拓夢,高田健,荒井重勇:Al-Mg-Si合金中の過時効析出物の形態変化,材料フォーラムTOKAO,2024年11月,豊橋市民センター.
- (28) 高田健,齊藤元貴,武藤俊介,岡島敏浩:Al-Mg-Si合金における等温熱処理下でのクラスタから析出物への遷移,軽金属学会,148春期公演大会,2025年5月,北九州国際会議場.
- (29) 高田健,齊藤元貴,武藤俊介,岡島敏浩:等温析出現象の熱力学解析,日本金属学会,秋期177公演大会,2025年9月,北海道大学.
- (30) 齊藤元貴,武藤俊介,高田健,岡島敏浩:STEM-EDS強度の組成相関図を用いたAl-Mg-Si合金中の時効生成物の解析,日本金属学会,秋期177公演大会,2025年9月,北海道大学.
- (31) 加藤光希,高田健,田所英二:電気抵抗率測定を用いた引張変形中のボイド形成機構の調査,日本金属学会,秋期177公演大会,2025年9月,北海道大学.
- (32) 加藤涼介,高田健:Al-Mg-Si合金の等温時効生成物が強度・延性バランスに及ぼす影響,軽金属学会,第149回秋期公演大会,2025年11月,横浜国立大学.
- (33) 田中はるか,高田健:等温時効熱処理を施したAl-Mg-Si合金における析出挙動に及ぼすSi添加の影響,軽金属学会,第149回秋期公演大会,2025年11月,横浜国立大学.
- (34) 長谷川凱土,高田健,荒井重勇:Al-Mg-Si合金中の時効析出物の形態変化,軽金属学会,第149回秋期公演大会,2025年11月,横浜国立大学.
- (35) 加藤涼介,高田健:Al-Mg-Si合金の等温時効生成物が強度・延性バランスにおよぼす影響,材料フォーラムTOKAI,ポスター講演会,2025年11月,名古屋大学.
- (36) 荻野大地,鬼頭佳太,高田健:ガスチャージ法による金属中への水素導入手法の構築,金属学会,178回春期公演大会,2026年3月,千葉工業大学.
- (37) 福富友哉,田中浩司,竹内海璃,古橋凌:Cr-V鋼の $\gamma+\alpha$ 域加熱が炭化物析出と硬さに及ぼす影響,日本熱処理技術協会中部支部,第15回日本熱処理技術協会中部支部講演大会,2025年4月,愛知技術開発交流センター.
- (38) 福富友哉,田中浩司:Cr-V鋼の $\gamma+\alpha$ 域への急速加熱における炭化物析出とMs点への影響,日本鉄鋼協会第190回秋季講演大会,2025年9月,北海道大学.

- (39) 濱口航平,齊藤俊輝,天石敏郎,岩田徳利,西脇武志,葛森秀夫:除荷の過程まで含んだ YBT 試験によるしわと異方硬化モデルに関する研究,日本塑性加工学会,2026 年度塑性加工春季講演会,2026 年 3 月,浜松.
- (40) 竹田創,西脇武志,葛森秀夫:大ひずみで降伏関数を検証するための砂時計型試験片の改良,日本塑性加工学会,2026 年度塑性加工春季講演会,2026 年 3 月,浜松.
- (41) 大島諒真,葛森秀夫,西脇武志:円錐台成形時のしわに及ぼす部分軟化の影響,日本塑性加工学会,第 76 回塑性加工連合講演会,2025 年 9 月,水戸.
- (42) 本多結希,葛森秀夫,西脇武志:非線形経路に拡張可能な塑性ひずみ増分方向算出方向の検討-関連流動則の適用限界に関する研究-,日本塑性加工学会,第 76 回塑性加工連合講演会,2025 年 9 月,水戸.
- (43) 岡田果也,西脇武志,葛森秀夫:最適化手法を利用した異方性材料モデルの多パラメータ簡易取得,日本塑性加工学会,2025 年度塑性加工春季講演会,2025 年 5 月,姫路.
- (44) 齊藤俊輝,岩田徳利,天石敏郎,西脇武志,葛森秀夫:異方硬化モデルのしわ発生と成長の挙動,日本塑性加工学会,2025 年度塑性加工春季講演会,2025 年 5 月,姫路.
- (45) 平松智也,天石敏郎,西脇武志,葛森秀夫:異方硬化モデルによる二軸応力状態の変形挙動,日本塑性加工学会,第 75 回塑性加工連合講演会,2024 年 11 月,沖縄.
- (46) 本多結希,葛森秀夫,西脇武志:塑性変形中の応力増分がひずみ増分方向に及ぼす影響の観察,日本塑性加工学会,第 75 回塑性加工連合講演会,2024 年 11 月,沖縄.
- (47) 南茂駿平,阿部優輝,福留功二,坪井涼,水野拓哉,鈴木正也,山本誠:粒子法による単一液滴の壁面衝突によるスプラッシュ現象の数値シミュレーション,日本機械学会 第 74 回北陸流体工学研究会 流体工学シンポジウム,2024 年 12 月,福井.
- (48) 南茂駿平,阿部優輝,福留功二,坪井涼,水野拓哉,鈴木正也,山本誠:粒子法を用いた粗大液滴の湿り壁面への衝突スプラッシュ現象の数値シミュレーション,日本機械学会 北陸信越支部 2025 年合同講演会,2025 年 3 月,新潟.
- (49) 濱野翔太郎,坪井涼,鈴木正也,水野拓哉,福留功二,山本誠:航空機の着氷現象における冷却環境下での液滴衝突挙動に関する研究,日本機械学会 東海支部第 74 期総会・講演会,2025 年 3 月,愛知.
- (50) 福留功二,南茂駿平,阿部優輝,松谷成生,坪井涼,水野拓哉,鈴木正也,山本誠:粒子法を用いた湿り壁面へ衝突する単一液滴のスプラッシュ現象の数値解析,日本混相流学会,混相流シンポジウム 2025,2025 年 9 月,神戸.
- (51) 藤生新,藤村宗一郎,山本誠,福留功二,坪井涼,水野拓哉,鈴木正也:スweepファン動翼における着氷と氷離脱に関する数値的研究,日本機械学会 2025 年度年次大会,2025 年 9 月,札幌.
- (52) 浦口拓也,坪井涼,鈴木正也,水野拓哉,福留功二,山本誠:航空機着氷におけるスプラッシュモデル構築のための粗平板への単一液滴衝突挙動の疑似三次元計測,日本流体力学会 年会 2025,2025 年 9 月,大阪.
- (53) 藤生新,大橋祐哉,藤村宗一郎,山本誠,坪井涼,福留功二,水野拓哉,鈴木正也:着氷シミュレーションにおける数値解法と物理モデルの違いが着氷形状予測に与える影響,日本流体力学会 年会 2025,2025 年 9 月,大阪.
- (54) 松谷成生,福留功二,阿部優輝,山本誠,浦口拓也,坪井涼,鈴木正也,水野拓哉:単一液滴の斜め湿面衝突におけるスプラッシュ現象の数値解析とモデル化,日本ガスタービン学会 第 53 回日本ガスタービン学会定期講演会,2025 年 10 月,新潟.
- (55) 鈴木智也,坪井涼,坪田頼昌:気液二相流を用いたピストンパターンコーティングを施したピストンスカート表面における潤滑油の流動解析,日本トライボロジー学会 トライボロジー会議 2025 秋,2025 年 10 月,函館.
- (56) 岩田曹良,坪井涼:凸型テクスチャを付与したジャーナル軸受の流体潤滑性能向上におけるキャビテーションの影響,日本トライボロジー学会 トライボロジー会議 2025 秋,2025 年 10 月,函館.
- (57) Koji Fukudome, Joe Matsutani, Shunpei Nanmo, Yuki Abe, Ryo Tsuboi, Masaya Suzuki, Takuya Mizuno and Makoto Yamamoto:NUMERICAL INVESTIGATION ON SPLASHING CHARACTERISTICS OF SINGLE DROPLET IMPINGEMENT ON INCLINED WET SURFACE USING MOVING PARTICLE METHOD,The 11th JSME-KSME Thermal and Fluids Engineering Conference,Oct.2025,Okinawa.
- (58) 松谷成生,福留功二,阿部優輝,山本誠,浦口拓也,坪井涼,鈴木正也,水野拓哉:壁面上の液体および凝固した微小液滴が粗大液滴飛散に及ぼす影響,日本機械学会 北陸信越支部 2026 年合同講演会,2026 年 3 月,長野.
- (59) 林洸太,坪井涼:航空機着氷における冷却環境下での液滴スプレッド挙動に関する研究,日本機械学会 東海支部第 75 期総会・講演会,2026 年 3 月,愛知.
- (60) Takeshi Nishiwaki, Hideo Tsutamori and Qi Hu:Parameter identification of yield functions using hourglass-shaped tensile specimens,The 13th International Conference and Workshop on Numerical Simulation of 3D

Sheet Metal Forming Processes,2025 年 7 月,Munich.

- (61) 西脇武志, 葛森秀夫, 安部大翔: 砂時計型試験片による高張力鋼板の降伏関数パラメータの検証, 日本塑性加工学会, 2025 年度塑性加工春季講演会, 2025 年 5 月, 姫路.
- (62) R.Takayama, Y.Maeda, S.Iijima, T.Yamazaki: Process Modeling for Return Sand Cooling System of Green Molding Sand using Machine Learning, The 17Th Asian Foundry Congress, Xi'an, 2025 年 10 月, China.
- (63) Y.Seo, F.Itakura, Y.Maeda, A.Hasuno, Y.Mochida: Wave Behavior caused by Ladle Pouring and Plunger Advancing in Aluminum Alloy Die Casting using Particle-Based SPH Method, International Conference on Particle-Based Methods, Fundamentals and applications PARTICLES 2025, 2025 年 10 月, Barcelona.
- (64) T.Shimomae, F.Kondo, Y.Maeda: Taking into consideration of particle size distribution in compacting analysis of green sand using Discrete Element Method, International Conference on Particle-Based Methods, Fundamentals and applications PARTICLES 2025, 2025 年 10 月, Barcelona.
- (65) 三好尚輝, 加藤大翔, 前田安郭: 亜鉛合金重力鋳造における機械学習を用いた熱伝達係数の同定, 日本鋳造工学会東海支部, 2025 年度「鋳造技術対談と学生技術者フォーラム」, 2025 年 11 月, 名古屋.
- (66) 下前友雄紀, 前田安郭: 生型砂搗き固め解析における粒度分布の取り扱い方法, 日本鋳造工学会東海支部, 2025 年度「鋳造技術対談と学生技術者フォーラム」, 2025 年 11 月, 名古屋.
- (67) 高山亮成, 前田安郭, 飯島伸介, 山崎拓朗: 機械学習による回収生型砂冷却プロセスモデリングの試み, 日本鋳造工学会東海支部, 2025 年度「鋳造技術対談と学生技術者フォーラム」, 2025 年 11 月, 名古屋.
- (68) 瀬尾優揮, 前田安郭, 高山定和, 梶田慎道: アルミニウム合金ダイカストにおける断熱スリーブへのラドル注湯時の熱流動挙動, 日本鋳造工学会東海支部, 2025 年度「鋳造技術対談と学生技術者フォーラム」, 2025 年 11 月, 名古屋.
- (69) 三好尚輝, 加藤大翔, 前田安郭: 亜鉛合金の重力鋳造における熱伝達係数の同定, 日本鋳造工学会, 第 186 回全国講演大会概要集, p.80, 2025 年 10 月, 久留米.
- (70) 加藤大翔, 三好尚輝, 前田安郭: 熱物性値の違いが機械学習を利用して同定した熱伝達係数に及ぼす影響, 日本鋳造工学会, 第 186 回全国講演大会概要集, p.79, 2025 年 10 月, 久留米.
- (71) 瀬尾優揮, 前田安郭, 高山定和, 梶田慎道: 断熱性スリーブを用いたときのダイカストラドル注湯時の熱流動挙動, 日本鋳造工学会, 第 186 回全国講演大会概要集, p.78, 2025 年 10 月, 久留米.
- (72) 高山亮成, 前田安郭, 川島浩一: 混練後の生型砂特性値変化に対する機械学習の試み, 日本鋳造工学会, 第 186 回全国講演大会概要集, p.58, 2025 年 10 月, 久留米.
- (73) 長岡孝, 寺山朗, 府山伸行, 佐藤武志, 木島秀弥, 杉山明, 前田安郭: 引け巢に及ぼす増圧の影響調査のためのアルミニウム合金金型鋳造システムの構築, 日本鋳造工学会, 第 185 回全国講演大会概要集, p.86, 2025 年 5 月, 名古屋.
- (74) 砂原脩也・山口真弘, 金築俊介, 三輪建翔, 三好尚輝, 瀬尾優揮, 前田安郭: アルミ鋳造時の巻き込みガス分析手法の提案, 日本鋳造工学会, 第 185 回全国講演大会概要集, p.85, 2025 年 5 月, 名古屋.
- (75) 三好尚輝, 三輪建翔・瀬尾優揮, 前田安郭: アルミニウム合金の重力鋳造における離型剤が鋳型充填挙動へ及ぼす影響の実験的調査, 日本鋳造工学会, 第 185 回全国講演大会概要集, p.84, 2025 年 5 月, 名古屋.
- (76) 三輪建翔, 藤田凌輔, 前田安郭: オイラー系とラグランジュ系シミュレーションによるアルミニウム合金溶湯の鋳造フィルタを有する鋳型内流れ挙動, 日本鋳造工学会, 第 185 回全国講演大会概要集, p.83, 2025 年 5 月, 名古屋.
- (77) 加藤大翔・三好尚輝, 前田安郭: アルミニウム合金の重力鋳造における機械学習を利用した熱伝達係数の同定, 日本鋳造工学会, 第 185 回全国講演大会概要集, p.82, 2025 年 5 月, 名古屋.
- (78) 高山亮成, 前田安郭, 飯島伸介, 山崎拓朗: 機械学習を用いた生型砂循環システムにおける冷却プロセスのモデリング, 日本鋳造工学会, 第 185 回全国講演大会概要集, p.82, 2025 年 5 月, 名古屋.
- (79) 瀬尾優揮・板倉風雅, 前田安郭, 蓮野昭人, 持田泰: ダイカストプランジャ内におけるアルミニウム合金溶湯の波動解析, 日本鋳造工学会, 第 185 回全国講演大会概要集, p.31, 2025 年 5 月, 名古屋.
- (80) 下前友雄紀, 近藤史崇, 前田安郭: 生型砂搗き固め解析における粒度分布の評価方法検討, 日本鋳造工学会, 第 185 回全国講演大会概要集, p.9, 2025 年 5 月, 名古屋.
- (81) 加藤大翔, 前田安郭: 冷却曲線を用いた鋳造 CAE における伝熱係数同定の試み, 日本鋳造工学会東海支部, 2024 年度「鋳造技術対談と学生技術者フォーラム」, 2024 年 11 月, 名古屋.
- (82) 三輪建翔, 滝康佑, 前田安郭: SPH 粒子法における鋳造用フィルタの計算モデルの検討, 日本鋳造工学会東海支部, 2024 年度「鋳造技術対談と学生技術者フォーラム」, 2024 年 11 月, 名古屋.
- (83) 近藤史崇, 前田安郭: 生型砂スクイズ過程の DEM シミュレーションにおける近傍粒子探索, 日本鋳造工学会東海支

- 部,2024 年度「鋳造技術対談と学生技術者フォーラム」,2024 年 11 月,名古屋.
- (84) 町屋修太郎,長村光造,ZHANG Yifei:REBCO 切断面の断面観察,低温工学,2025 年度春季低温工学・超電導学会,2025 年 5 月,タワーホール船堀.
- (85) 町屋修太郎,長村光造:REBCO 線材の安定化銅の cosa 法を用いた X 線応力測定,低温工学,2025 年度秋季低温工学・超電導学会,2025 年 12 月,エブノ泉の森ホール.
- (86) 町屋修太郎,長村光造:BSCCO 線材のフィラメントの引張および圧縮破壊挙動,低温工学,2024 年度秋季低温工学・超電導学会,2024 年 11 月,いわて県民情報交流センター.
- (87) Masahiro Hagino, Ryoto Yamada, Kei Somaya and Yuya Aoki:Wear Mechanisms of Coated Cutting Tools in CFRP Machining,The 11th International Conference on Leading Edge Manufacturing Technology in 21st Century (LEM21),December 1-5,2025,paper ID,OPS-10,沖縄県.
- (88) Akito YORICHIKA, Junichi NAKAGAWA and Masahiro HAGINO:Effect of High-Pressure Coolant in turning of Ni-Based Superalloys,The 11th International Conference on Leading Edge Manufacturing Technology in 21st Century (LEM21),December 1-5,2025,paper ID,OS05-11,沖縄県.
- (89) 萩野将広,永田恵都,井上孝司:S55C の黒皮の被削性に関する基礎的研究-黒皮厚さと切込みの関係-,材料とプロセス Vol.38,No.2,(2025),p.601,北海道.
- (90) Junji Miyamoto, Ryo Tsuboi:Effect of Mask Pattern on the Tribological Properties of Pattern Plasma Nitrided AISI H13 Tool Steel,American Vacuum Society,AVS 70th International Symposium & Exhibition,November 2024,United States of America.
- (91) Naoyuki Takahashi, Junji Miyamoto:Effect of Methane Gas on Mechanical Properties of AISI H13 Tool Steel in Open-Air Type Super-Rapid Atmospheric-Pressure Plasma Jet Nitrocarburizing Process,American Vacuum Society,AVS 70th International Symposium & Exhibition,November 2024, United States of America.
- (92) 津田真吾,宮本潤示:鋼の窒化に及ぼすプラズマ中の中性窒素種による影響,(一社)日本熱処理技術協会中部支部,第 15 回中部支部講演大会,2025 年 4 月,愛知.
- (93) 加藤侑輝,宮本潤示,田中隆太郎,大久保大地,水流一平,高島成剛,後藤峰男:プラズマ窒化处理が SUS304 の耐キャビテーション・エロージョン特性に与える影響,(一社)日本熱処理技術協会中部支部,第 15 回中部支部講演大会,2025 年 4 月,愛知.
- (94) 大参真優,宮本潤示,坪井涼:SUS304 表面における高精細金属メッシュがトライボロジー特性に与える影響,(一社)表面技術協会,第 152 回講演大会,2025 年 9 月,福岡.
- (95) 加藤侑輝,宮本潤示,田中隆太郎,大久保大地,水流一平,高島成剛,後藤峰男:プラズマ窒化处理された SUS304 の耐キャビテーション・エロージョン特性に及ぼす窒化層の影響,(一社)表面技術協会,第 152 回講演大会,2025 年 9 月,福岡.
- (96) 宮本潤示:プラズマ,熱処理,トライボロジーに関する研究紹介-大気圧プラズマ窒化などを中心として-,(一社)表面技術協会中部支部,令和 7 年度見学会および講演会,2025 年 10 月,愛知.
- (97) 村上吏輝哉,宮本潤示:アルミニウム合金 A5052 における大気圧プラズマジェットを応用した被処理物表面への放電による窒化処理法の開発,(一社)日本熱処理技術協会,第 100 回記念講演大会,2025 年 11 月,北海道.
- (98) 清水音樹,宮本潤示:鋼の完全開放空気環境型大気圧プラズマジェット窒化処理法における被処理物の形状が窒化層の形成へ及ぼす影響,(一社)日本熱処理技術協会,第 100 回記念講演大会,2025 年 11 月,北海道.
- (99) 宮本潤示:工具鋼のプラズマ窒化处理,精密工学会切削加工専門委員会/日本鉄鋼協会切削工学フォーラム,合同討論会,2025 年 12 月,愛知.
- (100) Shinnosuke Nagase, Tadayoshi Ihara:Real-time treatment of emission in diesel exhaust gas using titanium dioxide thermal catalyst,The 11th International Conference on Modeling and Diagnostics for Advanced Engine Systems(COMODIA 2025),2025 年 12 月,千葉.
- (101) 内海能亜,中島邦斗,吉田昌史:アルミニウム合金偏心円管の回転引曲げ加工における変形挙動,第 75 回塑性加工連合講演会,2024 年 11 月,沖縄.
- (102) 内海能亜,中島邦斗,吉田昌史:アルミニウム合金偏肉方形管の曲げにおける加工特性,2025 年度塑性加工春季講演会,2025 年 5 月,姫路.
- (103) 内海能亜,吉田昌史:2 次成形としての曲げ加工における偏心管の変形挙動,日本鉄鋼協会,第 190 回秋季講演大会,2025 年 9 月,北海道.

- (104) 吉田昌史,山崎誠志,内海能亜:複合処理によるチタン表面への窒化アルミニウム皮膜の生成,第 177 回日本金属学会,秋季講演大会,2025 年 9 月,北海道.
- (105) N.Utsumi:Technical seminar on Industrial Tube Manufacturing and Forming,Techniques,Materials,and Solutions,Bending Technology for Tubes and Profiles,Tube Southeast Asia 2025 BITEC,September 2025,in Bangkok(Online).
- (106) 内海能亜,齋藤佳久,吉田昌史:素管を偏肉させた方形管の曲げ加工における変形挙動,2026 年度塑性加工春季講演会,2026 年 3 月,浜松.
- (107) 高橋明大,尾形和哉:AR マーカーを用いた自己位置推定と車輪型倒立振子の移動制御,日本機械学会東海支部,第 74 期総会・講演会,2025.3,中部大学.
- (108) 間部直也,尾形和哉:力覚センサを用いたメカナムホイール台車の協調制御,日本機械学会東海支部,第 74 期総会・講演会,2025.3,中部大学.
- (109) 秋田典久,尾形和哉:商品運搬作業を想定した移動ロボットのための状態遷移を用いた統合システム(AR マーカによる自己位置推定),計測自動制御学会中部支部,第 176 回教育工学研究会,2025.9,大同大学.
- (110) 志波颯,尾形和哉:LiDAR の取り付け方法の違いによる 3 次元 SLAM パッケージの性能評価,計測自動制御学会中部支部,第 176 回教育工学研究会,2025.9,大同大学.
- (111) 秋田典久,尾形和哉:商品運搬作業を想定した移動ロボットのための状態遷移を用いた統合システム,日本機械学会東海支部,第 75 期総会・講演会,2026.3,愛知工業大学.
- (112) 志波颯,尾形和哉:LiDAR の取り付け方法の違いによる 3 次元 SLAM の性能評価,日本機械学会東海支部,第 75 期総会・講演会,2026.3,愛知工業大学.
- (113) Akihiro Hada, Yasuaki Kozato:Study on flow control around a rectangular cylinder by adding periodic fluctuation,The 34th International Symposium on Transport Phenomena,November 2024,Taiwan.
- (114) 加納圭悟,浅井博斗,篠原主勲:電磁鋼板ステータ構造の円環振動評価,東海支部第 75 期総会・講演会 TOKAI ENGINEERING COMPLEX 2026(TEC26),2026 年 3 月 11 日,愛知工業大学 八草キャンパス.
- (115) 吹田和嗣:人・ロボット系のシステム開発現状と今後の展望,2025 年度第 3 回人間工学異分野連携交流サロン,日本人間工学会関西支部,2025 年 1 月,大阪.
- (116) 増元智己,齋藤巧,畑中健汰,白山太一,吹田和嗣,二渡寿樹,鍋島厚太:RFA 共有マーカの配色が検出率に及ぼす影響,日本機械学会,ロボティクス・メカトロニクス講演会 2025,1A1-C10,2025 年 6 月,山形.
- (117) 稲垣椋介,吹田和嗣:EV バッテリーの解体におけるボルト外し作業における合業,日本ロボット学会,第 43 回日本ロボット学会学術講演会,2G3-04,2025 年 9 月,東京.
- (118) 竹林弘翔,中本子龍,白山太一,増元智己,畑中健汰,齋藤巧,吹田和嗣,二渡寿樹,鍋島厚太:RFA 共有マーカの配色が検出率に及ぼす影響 フィールド評価に基づく支配的因子の解明,日本ロボット学会,第 43 回日本ロボット学会学術講演会,3P1-04,2025 年 9 月,東京.
- (119) 中本子龍,竹林弘翔,白山太一,増元智己,畑中健汰,齋藤巧,吹田和嗣,二渡寿樹,鍋島厚太:RFA 共有マーカの配色が検出率に及ぼす影響 露光時間とゲインの最適化と提案,日本ロボット学会,第 43 回日本ロボット学会学術講演会,3P1-05,2025 年 9 月,東京.
- (120) 宮崎晏灯,小谷明,田中淑晴,原野智哉,綿崎将大,山口康太:高粘度液体の磁気駆動非接触攪拌における PIV 解析と伝達トルクの測定,日本設計工学会東海支部,令和 7 年度研究発表講演会,2026 年 2 月,名古屋市.
- (121) 後藤竹慶,小谷明,田中淑晴:液体微粒子が浮遊した気体中における衝撃波の斜め反射,高専シンポジウム協議会,第 31 回高専シンポジウム in Amagasaki,2026 年 1 月,尼崎市.
- (122) 宮崎晏灯,小谷明,田中淑晴,原野智哉,綿崎将大,山口康太:浮力を利用した非接触磁気駆動攪拌における翼回転方向の検討,高専シンポジウム協議会,第 31 回高専シンポジウム in Amagasaki,2026 年 1 月,尼崎市.
- (123) 後藤大空,小林晟也,田中淑晴,小川隆弘,綿崎将大,山口康太,小谷明,原野智哉:磁気力による非接触回転動力伝達に関する研究,計測自動制御学会中部支部,研究発表&企業交流会 2025,2025 年 11 月,名古屋市.
- (124) 増元智己,田中淑晴:次世代電子サスペンション"ServoDrive"の提案,計測自動制御学会中部支部,研究発表&企業交流会 2025,2025 年 11 月,名古屋市.

- (125) 加藤颯,田中淑晴,小谷明:歯車における歯先丸め半径がかみ合い長さに及ぼす影響,計測自動制御学会中部支部,研究発表&企業交流会 2025,2025 年 11 月,名古屋市.
- (126) 加藤颯,田中淑晴,小谷明:歯車のかみ合い長さの測定手法の提案,計測自動制御学会中部支部,第 178 回教育工学研究会,2025 年 9 月,名古屋市.
- (127) 宮崎晏灯,小谷明,田中淑晴,原野智哉,綿崎将大,山口康太:PIV 解析による非接触型高粘度液体攪拌の評価,日本設計工学会東海支部,令和 6 年度研究発表講演会,2025 年 3 月,名古屋市.
- (128) 原田和真,田中淑晴,小谷明,清水利弘:歯数の異なる球体歯車対の動力伝達特性(第 2 報),日本設計工学会東海支部,令和 6 年度研究発表講演会,2025 年 3 月,名古屋市.
- (129) 伊藤弘樹,小谷明,田中淑晴,綿崎将太,原野智哉,山口康太:スペースデブリ除去システムにおける電磁誘導ブレーキ効果の検証,高専シンポジウム協議会,第 30 回高専シンポジウム in Okayama,2025 年 1 月,岡山市.
- (130) 原田和真,田中淑晴,小谷明:球体歯車対を用いた増速機と減速機における動力伝達特性,高専シンポジウム協議会,第 30 回高専シンポジウム in Okayama,2025 年 1 月,岡山市.
- (131) 原田和真,田中淑晴,小谷明:歯数の異なる球体歯車対を用いた増速機における動力伝達特性,計測自動制御学会中部支部,研究発表&企業交流会,2024 年 11 月,豊橋市.
- (132) 赤池宏之,梶田一真,野村伊吹:磁性ジョセフソン接合障壁層に向けた窒化ニッケル薄膜の低温特性,第 72 回応用物理学会春季学術講演会,2025 年 3 月,千葉.
- (133) 野村伊吹,赤池宏之:超伝導磁性混成デバイスのための窒化ニッケル薄膜の作製と評価,令和 7 年度電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会,2025 年 9 月,長野.
- (134) 植田俊明,丸山直人,東榎田航弥:風力発電機へのダイバーストリップ適用による雷保護性能向上の研究,電気学会,高電圧研究会,HV-25-047,2025 年 1 月,あわら.
- (135) 倉田向陽,大市直輝,植田俊明:縮小鉄塔モデル雷撃時に接地条件が変電所過電圧に与える影響についての研究,電気学会,全国大会,7-053,2025 年 3 月,東京.
- (136) 倉田向陽,植田俊明:鉄塔雷撃角度による変電所過電圧への影響,電気学会,東海支部連合大会,B5-4,2025 年 9 月,長野.
- (137) 村上彰,植田俊明:再エネ大量導入時にける電力系統故障時の周波数低下に関する慣性の影響の検討,電気学会,東海支部連合大会,B5-4,2025 年 9 月,長野.
- (138) 高橋主税,大澤文明,稲熊幸雄:界磁巻線を有する 2 次元リニアモータの回転と並進運動の検討,第 33 回 MAGDA コンファレンス in 東京～電磁現象及び電磁力に関するコンファレンス～,2024 年 11 月,東京科学大学.
- (139) 加納善明:電動航空機や電気自動車など各種移動体におけるモータ・発電機の研究開発動向,第 56 回電気電子絶縁材料システムシンポジウム講演資料,SP-1,pp.21-26,2025 年 9 月,兵庫.
- (140) 加納善明,高橋龍司,日南田純平:集中配向磁石を用いた表面磁石型同期モータの高トルク密度化の検討,2025 年電気学会産業応用部門大会講演論文集,III,pp.169-174,2025 年 8 月,徳島.
- (141) 加納善明,芝原大智,永溝喜也,佐藤浩介,袴田眞一郎:油圧機器と置き換え可能な高推力円筒型リニアモータの設計と実験検証,電気学会モータドライブ/回転機/自動車合同研究会資料,MD-25-058/RM-25-067/VT-25-004,pp.19-26,2025 年 7 月,東京.
- (142) 加納善明,袴田眞一郎,佐藤浩介,永溝喜也,芝原大智:円筒型リニアモータの製造誤差に起因するコギング推力低減の検討,電気学会マグネティックス/リニアドライブ合同研究会資料,MAG-25-023/LD-25-034,pp.15-22,2025 年 6 月,三重.
- (143) 榊原英記,川福基裕:新規無線駆動車両を用いた振動抑制制御系の設計,計測自動制御学会中部支部,第 177 回教育工学研究会,2025 年 3 月,大同大学.
- (144) 栗原拓斗,服部佳晋,小島崇:電動車の駆動系システムの EMI 解析ベンチの構築,電気学会,産業応用部門大会,2025 年 8 月,徳島大学常三島キャンパス.
- (145) 栗原拓斗,服部佳晋,小島崇:PHEV 電動駆動系システムの伝導ノイズ評価と伝搬経路の解析,電気・電子・情報関係学会東海支部,連合大会,2025 年 9 月,信州大学.
- (146) 栗原拓斗,野村昂生,服部佳晋,小島崇: PHEV 電動駆動系システムの伝導ノイズシミュレーションモデルの提案,電気学会,全国大会,2026 年 3 月,東北学院大学五橋キャンパス.

- (147) 林郡君,服部佳晋,野村勝也:縦型 GaN PN ダイオードのトポロジー最適化,電気学会産業応用部門大会,2025 年 8 月,徳島市.
- (148) 林郡君,服部佳晋,野村勝也:パワー半導体のトポロジー最適化,電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会,2025 年 9 月,長野市.
- (149) 林郡君,服部佳晋,野村勝也:パワー半導体用ダイオードのトポロジー最適化,応用物理学会先進パワー半導体分科会,2025 年 11 月,富山市.
- (150) 前川佐里,服部佳晋,新井宏章,菅原烈:電力変換装置に使用されるパワーデバイスと駆動回路による EMI 抑制技術,電気学会全国大会,2026 年 3 月,仙台市.
- (151) 林郡君,服部佳晋,野村勝也:縦型 GaN パワーデバイス終端構造 FLR のトポロジー最適化,電気学会全国大会,2026 年 3 月,仙台市.
- (152) 服部佳晋:ハイブリッド車の EMC 技術(招待講演),日本磁気学会 第 259 回研究会,2026 年 3 月,東京.
- (153) 小館直人,内田圭,永治仁,松本昌樹,山田靖,横井祐人,富田結翔,大竹ちひろ:高破壊靱性の AlN 基板を用いた温度サイクル高信頼性と高放熱性を両立した Cu 張基板,エレクトロニクス実装学会,第 39 回春期講演大会,2025 年 3 月,東京.
- (154) 服部巴南,岡本洋輔:家具の形状が居間空間の印象に及ぼす影響,2025 年度日本建築学会東海支部研究集会,2026 年 2 月,名古屋.
- (155) 岡本洋輔:屋内空間における可変するサインの誘目性,日本人間工学会第 66 回大会公募シンポジウム「ダイナミックサイン:動的情報提示技術の普及を目指して」,2025 年 5 月,北九州.
- (156) 谷彪吾,萩原伸幸:曲げモーメント比例形状修正による菱形網目の直交格子ドームの部分形状最適化,日本建築学会東海支部,2024 年度東海支部研究集会,2025 年 2 月,名古屋.
- (157) 谷彪吾,萩原伸幸:曲げモーメント比例形状修正による部材配置の異なる直交格子ドームの形状最適化,日本建築学会大会,学術講演会,2025 年 9 月,福岡.
- (158) 高木加那都,井向日向,犬飼利嗣,藤森繁:深さ方向の含水率を模した試験体表層のドリル削孔速度と空気流入量の関係に関する実験的検討,次世代プレキャスト施工技術研究会 2025 年度シンポジウム,2025.11,東京.
- (159) 簗内和真,横島潤紀,森長誠,牧野康一,土肥哲也,横山栄,小林知尋,山崎徹:自動車騒音に対する不快感の因果分析—低周波数成分の影響に着目して—,日本音響学会,騒音・振動研究会,2026 年 1 月,那覇.
- (160) 渡邊慎一,岡本洋輔,森長誠,石井直人:日傘等への応用を想定した透過性能を有した素材の熱特性比較,人間—生活環境系学会,第 49 回人間—生活環境系シンポジウム,2025 年 11 月,奈良.
- (161) 森長誠,矢野隆, Nguyen Thu Lan:Western Pacific Region における曝露反応関係,日本騒音制御工学会,秋季研究発表会,2025 年 11 月,水戸.
- (162) 横島潤紀,森長誠,辻村壮平,下山晃司,森原崇:我が国における交通騒音の曝露量とアノイアンスの関係,日本騒音制御工学会,秋季研究発表会,2025 年 11 月,水戸.
- (163) 森長誠,横島潤紀,横山栄:低周波音の評価実験における騒音感受性の効果,日本騒音制御工学会,秋季研究発表会,2025 年 11 月,水戸.
- (164) 矢野隆,グエン・ツ・ラン,森長誠:西太平洋地区諸国の騒音規制・指針,日本音響学会,騒音・振動研究会,2025 年 10 月,東大阪.
- (165) 米村美紀,荒木真帆,菅原彬子,森長誠,坂本慎一:広帯域ノイズおよびバンドノイズのラウドネス評価実験-Stevens の冪法則に基づく検討,日本音響学会,騒音・振動研究会,2025 年 10 月,東大阪.
- (166) 横島潤紀,森長誠,辻村壮平,須田直樹,梅崎良樹,山崎徹:自動車交通騒音の曝露-住民反応曲線の提示,日本音響学会,秋季研究発表会,2025 年 9 月,仙台.
- (167) 森長誠,笹澤吉明:ウェアラブルデバイスを用いた騒音による睡眠影響のフィールド実験—間欠騒音を対象としたブレテスト—,日本音響学会,秋季研究発表会,2025 年 9 月,仙台.
- (168) 米村美紀,菅原彬子,森長誠,坂本慎一:環境騒音を想定したノイズのラウドネス評価実験-Stevens の冪法則に基づく検討,日本音響学会,秋季研究発表会,2025 年 9 月,仙台.

- (169) 鯨内和真,横島潤紀,森長誠,牧野康一,土肥哲也,横山栄,小林知尋,山崎徹:自動車交通騒音に対する不快感の評価構造－低周波数成分の影響に着目して－,日本音響学会,秋季研究発表会,2025年9月,仙台.
- (170) 石井要次,東総介,高橋莉紗,渡部光,森長誠,風間亮介,山内勝也,森淳一:音響イベント認識と音源方向推定に基づく PTZ カメラ制御技術の開発－屋内外試験による音源方向推定と AI 識別精度の検証－,日本音響学会,秋季研究発表会,2025年9月,仙台.
- (171) 森淳一,石井要次,森長誠:音響イベント認識と音源方向推定に基づく PTZ カメラ制御技術の開発－研究概要と先行研究レビュー－,日本音響学会,秋季研究発表会,2025年9月,仙台.
- (172) 横島潤紀,森長誠,辻村壮平,下山晃司,森原崇:日本における交通騒音の曝露量とアノイアンス関係の再分析,日本音響学会,騒音・振動研究会,2025年6月,成田.
- (173) 森長誠,横島潤紀,梅崎良樹,山崎徹:道路交通騒音による中途覚醒の客観的評価－ウェアラブルデバイスを用いた試み－,自動車技術会,春季大会,2025年5月,横浜.
- (174) 鯨内和真,横島潤紀,横島潤紀,森長誠,牧野康一,土肥哲也,横山栄,小林知尋,山崎徹:低周波数成分を含む自動車単体騒音に対する主観評価,自動車技術会,春季大会,2025年5月,横浜.
- (175) ZHANG Xinyi, MORINAGA Makoto, SAKAMOTO Shinichi:Determination of sound power level of aircrafts based on on-site measurement,日本音響学会,春季研究発表会,2025年3月,埼玉.
- (176) 米村美紀,矢野拓実,菅原彬子,森長誠,坂本慎一:時間変動のある環境騒音のうるささとラウドネス評価指標の関係,日本音響学会,春季研究発表会,2025年3月,埼玉.
- (177) 小田切彩夏,米村美紀,森長誠,坂本慎一:騒音の空間性がうるささ評価に及ぼす影響に関する実験的検討,日本音響学会,春季研究発表会,2025年3月,埼玉.
- (178) 米村美紀,矢野拓実,菅原彬子,森長誠,坂本慎一:時間変動のある環境騒音のうるささに関する聴感評価実験,日本音響学会,騒音・振動研究会,2024年12月,名古屋.
- (179) 鯨内和真,横島潤紀,森長誠,牧野康一,土肥哲也,横山栄,小林知尋,山崎徹:低周波数成分を含む自動車交通騒音に対する不快感の因果分析,日本音響学会,騒音・振動研究会,2024年12月,名古屋.
- (180) 小田切彩夏,米村美紀,森長誠,坂本慎一:環境騒音の空間性とうるささ評価の関係に関する実験的検討,日本騒音制御工学会,秋季研究発表会,2024年11月,京都.
- (181) 鯨内和真,横島潤紀,森長誠,牧野康一,土肥哲也,横山栄,小林知尋,山崎徹:低周波数成分を含む騒音に対する不快感の因果分析,日本騒音制御工学会,秋季研究発表会,2024年11月,京都.
- (182) 西井朋也,森淳一,森長誠:CNN によるタイルの健全性診断に関する研究,日本騒音制御工学会,秋季研究発表会,2024年11月,京都.
- (183) 森長誠:騒音による睡眠妨害推定のための機械学習による睡眠評価,日本騒音制御工学会,秋季研究発表会,2024年11月,京都.
- (184) 林憧子,光田恵:嗅覚パネル選定試験に用いられる5基準臭の閾値における湿度影響,人間・生活環境系学会,第48回人間・生活環境系シンポジウム,2024年12月,茨城.
- (185) 近江陽向,光田恵,岩井幸一郎,早川和美,幸田勝典:香気成分が精油の香調と香りの印象評価に及ぼす影響,人間・生活環境系学会,第48回人間・生活環境系シンポジウム,2024年12月,茨城.
- (186) 磯崎文音,光田恵:低濃度臭気による順応状態における高濃度臭気のおい質評価に関する研究,日本家政学会中部支部,第25回家政学関連院生・学生研究発表会,2025年2月,愛知.
- (187) 近江陽向,光田恵,岩井幸一郎,早川和美,幸田勝典:精油のにおいに対する容認性評価に基づいたかおり空間デザインへの適用に関する検討,日本家政学会中部支部,第25回家政学関連院生・学生研究発表会,2025年2月,愛知.
- (188) 近江陽向,光田恵,岩井幸一郎,早川和美,幸田勝典:香り空間デザインに使用される精油の香りの容認性に関する研究,日本建築学会東海支部,2024年度日本建築学会東海支部研究集会,2025年2月,愛知.
- (189) 磯崎文音,光田恵:長期的なにおい嗅ぎ訓練に対するにおいの強度評価に関する研究－訓練にバラの香りとむれた靴下のにおいを用いて－,空気調和・衛生工学会中部支部,令和6年度第26回空気調和・衛生工学会中部支部学術研究発表会,2025年3月,愛知.

- (190) 桑原裕香理,石田賢哉,大橋貴志,高橋裕和,岩橋尊嗣,光田恵:アスファルト臭気の探索と香料を用いた消臭検討,公益社団法人におい・かおり環境協会,令和7年度第38回におい・かおり環境学会,2025年8月,福岡.
- (191) 近江陽向,光田恵,岩井幸一郎,早川和美,幸田勝典:室内空間での香りの活用に関する研究 第1報 多様なにおいに対する容認性に関する検討,人間・生活環境系学会,第49回人間・生活環境系シンポジウム,2025年11月,奈良.
- (192) 岩井幸一郎,近江陽向,早川和美,幸田勝典,光田恵:室内空間での香りの活用に関する研究 第2報 多様なにおいに対する感情評価,人間・生活環境系学会,第49回人間・生活環境系シンポジウム,2025年11月,奈良.
- (193) 林瞳子,光田恵,棚村壽三:パネル選定試験用基準臭に対するにおい評価への湿度影響に関する検討,人間・生活環境系学会,第49回人間・生活環境系シンポジウム,2025年11月,奈良.
- (194) 土井一輝,小山田好太,林瞳子,光田恵:におい評価への温度・湿度の影響ーにおい袋内の湿度の差の影響の検討ー,人間・生活環境系学会,第49回人間・生活環境系シンポジウム,2025年11月,奈良.
- (195) 磯崎文音,光田恵:嗅覚測定に用いるにおい袋に対するにおい物質の袋内吸着による閾値算出への影響,人間・生活環境系学会,第49回人間・生活環境系シンポジウム,2025年11月,奈良.
- (196) 萬羽郁子,光田恵:家族内のにおい評価特性に関する調査,人間・生活環境系学会,第49回人間・生活環境系シンポジウム,2025年11月,奈良.
- (197) 山本竜馬,井上優,棚村壽三,光田恵:悪臭物質としてのメチルメルカプタンに対する感覚的消臭の検討,人間・生活環境系学会,第49回人間・生活環境系シンポジウム,2025年11月,奈良.
- (198) 山本竜馬,井上優,棚村壽三,光田恵:生活環境の臭気に対する感覚的消臭の検討-メチルメルカプタンを対象として-,空気調和・衛生工学会中部支部,令和7年度第27回空気調和・衛生工学会中部支部学術研究発表会,2026年3月,愛知.
- (199) 樋口恵一,嶋田喜昭:地方都市のまちづくりにおけるドローン活用地域の抽出に関する研究,土木学会,第70回土木計画学研究発表会,2024年11月,岡山.
- (200) 宮部朔,三村泰広,坪井志朗,嶋田喜昭:特例特定小型原動機付自転車の歩道内混合交通の危険性に関する実証的分析,日本福祉のまちづくり学会東海北陸支部,2024年度第2回研究・活動報告会,2025年3月,愛知.
- (201) 名取滉平,樋口恵一,嶋田喜昭:サイクルアンドバスライドの導入評価法に関する研究,土木学会,第71回土木計画学研究発表会,2025年6月,香川.
- (202) 坪井志朗,宮部朔,三村泰広,嶋田喜昭:歩道を通行する電動モビリティの交錯時に感じる印象に関する研究,交通工学研究会,第45回交通工学研究発表会,2025年8月,東京.
- (203) Yasuhiro Mimura, Shiro Tsuboi, Yoshiaki Shimada:A Study on Changes in Bicycle Traffic Space Choice by Various Conformity,2025 International Conference of Asia-Pacific Planning Societies,2025年8月,Taiwan.
- (204) 宮部朔,三村泰広,坪井志朗,嶋田喜昭:歩道上におけるパーソナルモビリティとの混合交通に関する意識分析,土木学会,第72回土木計画学研究発表会,2025年11月,福井.
- (205) 三村泰広,宮部朔,坪井志朗,嶋田喜昭:シェアリング型マイクロ・モビリティと道路行政・政令指定都市を対象に,土木学会,第72回土木計画学研究発表会,2025年11月,福井.
- (206) 鷺見哲也,奥谷翔:矢作川 6.8k ワンド型ヨシ原造成区域の冠水頻度の変化と環境形成,土木学会中部支部研究発表会,2025年3月,富山.
- (207) 鷺見哲也,奥谷翔:矢作川 6.8k ワンド型ヨシ原造成区域の冠水頻度の変化と環境形成,土木学会年次学術講演会,11PM2-Ge-08,2025年9月,熊本.
- (208) 加々美薫,長坂有吾,鷺見哲也:松ヶ田和地区のホトケドジョウ保全における水温低下に資する研究,土木学会中部支部研究発表会,2026年3月,岐阜.
- (209) 小島颯太,棚橋秀行,古田淳士,嶋本直人,大島裕之: 気泡状界面活性剤を用いた機械油・燃料油汚染地盤の非掘削浄化技術の開発,地盤工学会,第30回地下水・土壌汚染とその防止対策に関する研究集会,2025年6月,京都.
- (210) 宮寄靖大,酒井聖矢,岸祐介:SBHS500 製 I 形断面柱の座屈挙動,土木学会,第80回土木学会全国大会年次学術講演会,2025年9月,熊本.
- (211) 岸祐介,宮寄靖大,片山智貴,東條はづき,梶原淳生:SBHS500 および SM400 を用いた H 形断面材の圧縮強度に関する実験的検討,土木学会,第80回土木学会全国大会年次学術講演会,2025年9月,熊本.

- (212) 長岡芽晟,小室雅人,田村洋,宮寄靖大,田中賢太:SBHS500 を用いた円形断面鋼製橋脚の耐震性能に関する地震応答解析,土木学会,第 81 回土木学会北海道支部論文報告集,2025 年 1 月,北海道.
- (213) 加藤翔,樋口恵一,荒谷太郎,河瀬理貴,間島隆博,畑山満則,山崎基浩,大窪和明,川本義海:能登半島地震における支援物資の実態からみる防災計画の評価,第 70 回土木計画学研究発表会・秋大会,2024 年 11 月,岡山大学.
- (214) 中村文香,樋口恵一:避難支援マッチングアプリを用いた共助の実践～名古屋市南区柴田小学校区を対象として～,第 70 回土木計画学研究発表会・秋大会,2024 年 11 月,岡山大学.
- (215) 保田羽玖,樋口恵一,山岸未沙子,村上滉一,加藤秀樹:ヒヤリハットを活用した無信号交差点の安全性評価,第 70 回土木計画学研究発表会・秋大会,2024 年 11 月,岡山大学.
- (216) 山岸未沙子,樋口恵一,伊藤僚,村上滉一,三村泰広:HMD(ヘッドマウントディスプレイ)を用いた高齢ドライバの交差点安全確認動作の予備的分析,日本人間学会第 66 回大会,2025 年 5 月,北九州国際会議場.
- (217) 村上滉一,樋口恵一:名古屋市における互助活動での買物支援の実施要因に関する研究,第 80 回年次学術講演会(令和 7 年度土木学会全国大会),2025 年 8 月,熊本大学.
- (218) 広瀬陽介,樋口恵一,田端宜昌:アイカメラを用いた日常点検における点検員の技能評価,第 80 回年次学術講演会(令和 7 年度土木学会全国大会),2025 年 8 月,熊本大学.
- (219) 樋口恵一,堀康次,加藤秀樹,山岸未沙子:常滑市におけるデジタルヒヤリハット地図を活用した交通安全教育プログラムの実践,第 45 回交通工学研究発表会,2025 年 8 月,日本大学.
- (220) 三村泰広,樋口恵一,山岸未沙子,村上滉一,伊藤僚:高齢運転者の無信号交差点での視線挙動と前頭前野反応の関係性,第 45 回交通工学研究発表会,2025 年 8 月,日本大学.
- (221) 宇都宮颯,樋口恵一,村上滉一:名古屋市内全駅を対象とした移動円滑化整備の優先度評価,第 72 回土木計画学研究発表会・秋大会,2025 年 11 月,福井工業大学.
- (222) 村上滉一,樋口恵一:携帯電話の位置情報データを活用した市町村別の徒歩実態分析～愛知県 54 市町村を対象に～,第 72 回土木計画学研究発表会・秋大会,2025 年 11 月,福井工業大学.
- (223) 荻野正雄:媒質間境界条件を考慮した導体・不導体領域分割 PINN,第 8 回大規模電磁界数値解析手法に関する研究シンポジウム,2025 年 2 月,石垣市.
- (224) 荻野正雄,杉本振一郎:反復型領域分割法に基づく PINN による媒質間境界条件の考慮,第 30 回計算工学講演会,2025 年 6 月,大宮市.
- (225) Masao Ogino, Shin-ichiro Sugimoto:DDM-PINN method for considering boundary conditions inside the analysis domain,COMPSAFE 2025,July 2025,Kobe,Japan.
- (226) Shin-ichiro Sugimoto, Amane Takei, Masao Ogino:FE Analysis of Numerical Human Body Model with 270 Million DOFs by Integrated System,JSST2025,September 2025,Aomori,Japan.
- (227) 荻野正雄:電磁界解析における実部虚部分離型反復解法の性能評価,第 38 回日本機械学会計算力学部門講演会,2025 年 9 月,長野市.
- (228) 村松稔基,荻野正雄:領域分割法に基づく並列 PINN の性能評価,第 38 回日本機械学会計算力学部門講演会,2025 年 9 月,長野市.
- (229) 杉本振一郎,武居周,荻野正雄:2.7 億自由度数値人体モデルの電磁界-熱伝導連成解析,第 38 回日本機械学会計算力学部門講演会,2025 年 9 月,長野市.
- (230) Kento Ohnaka, Sota Goto, Masao Ogino, Amane Takei:Improvement of convergence of electromagnetic analysis codes for higher frequencies and larger problems based on direct sparse solver,PIERS 2025, November 2025,Chiba,Japan.
- (231) 荻野正雄:高周波電磁界解析に対する実部虚部分離型反復法,第 9 回大規模電磁界数値解析手法に関する研究シンポジウム,2026 年 3 月,金沢市.
- (232) 君山博之,尾関日南子,竹内彩花:VM 性能に対して他の VM が及ぼす影響の評価法に関する検討,情報処理学会,第 32 回マルチメディア通信と分散処理ワークショップ(DPSWS2024),2024 年 11 月,広島県広島市.

- (233) 新祥大朗,間瀬友貴,増沢慧,増田友陽,吉村英晃,栗本崇,君山博之:モバイルネットワーク性能データベースシステムの提案,情報処理学会,第33回マルチメディア通信と分散処理ワークショップ(DPSWS2025),2025年11月,高知県高知市.
- (234) 新祥大朗,櫻井瑠也,布村亮弥,栗本崇,君山博之:測定データの信頼性を考慮したモバイルネットワーク性能データベースシステムの提案,電子情報通信学会,ネットワークシステム研究会,2026年3月,沖縄県那覇市.
- (235) 森本歩夢,笠原佑哉,西浦涼平,君山博之:インテリジェントゲートウェイによる車載ネットワークを介した不正始動防止対策の提案,電子情報通信学会,情報通信システムセキュリティ研究会,2026年3月,沖縄県那覇市.
- (236) 上山公輝,桑野茂:Raspberry Piを用いた簡易温度制御システムに関する研究,計測自動制御学会中部支部,第177回教育工学研究会,2025年3月,名古屋.
- (237) Shaoxiang Dang, Tetsuya Matsumoto, Yoshinori Takeuchi, Hiroaki Kudo: Mamba-Net: A highly efficient Mamba-based U-net style network for noisy and reverberant speech separation, 2024 Asia Pacific Signal and Information Processing Association Annual Summit and Conference (APSIPA ASC), 2024/12, Macau, China.
- (238) 小野一眞,松本哲也,竹内義則,工藤博章:効果的な時間特徴量と深層ガウス記述子を用いた異常音検知,電子情報通信学会,イメージメディア・クオリティ研究会,2024年12月,石川県.
- (239) 宮田倅綺,松本哲也,竹内義則,工藤博章:チェロ演奏のための音符情報による運指の自動推定,電子情報通信学会,イメージメディア・クオリティ研究会,2025年5月,東京都.
- (240) 宮原光彦,松本哲也,竹内義則,工藤博章:サロゲートモデルによるメインセールの立体形状の可視化,電子情報通信学会,イメージメディア・クオリティ研究会,2025年7月,北海道.
- (241) Kangzhi Yang, Yoshinori Takeuchi, Hiroaki Kudo: Trajectory-based bounce detection in table tennis using LSTM and self-attention, The Institute of Electronics, Information and Communication Engineers, The Thirteenth International Workshop on Image Media Quality and its Applications, 2026/3, Nagoya, Japan.
- (242) 本島明良,黒岩眞吾,西田昌史,柘植覚,堀内靖雄:発声テキストの違いに頑健な話者ベクトル抽出手法,情報処理学会第88回全国大会講演論文集,2026年3月,愛媛.
- (243) PHAM HOANG LONG,西田昌史,柘植覚,黒岩眞吾:Cross-Stream Attentionを用いた振幅・位相情報に基づくなりすまし音声検出,日本音響学会講演論文集,2026年3月,東京.
- (244) S.Tsuge, W.Uda, M.Nishida, and S.Kuroiwa: Robust speaker verification method for VoIP-transmitted utterances using HiFi-GAN, Sixth Joint Meeting Acoustical Society of America and Acoustical Society of Japan, Dec. 2025, Hawaii.
- (245) 久下忍,柘植覚,西田昌史,堀内靖雄,黒岩眞吾:HuBERTを用いた音声感情認識における Fine-tuning の効果,第24回情報科学技術フォーラム(FIT),2025年9月,北海道.
- (246) PHAM HOANG LONG,西田昌史,柘植覚,黒岩眞吾:複素 CQT を用いたなりすまし音声の識別と感情依存型話者照合の併用,日本音響学会講演論文集,2025年9月,宮城.
- (247) 沖村達也,不破勝彦,山崎一徳:DC モータ角度制御系におけるステップ外乱を推定する最小次元状態推定器の設計,電気学会,令和7年度 電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会,2025年9月,信州大学.
- (248) 原田悠馬,市川直弥,宮島千代美:車種情報を考慮した道路状況の可視化,情報処理学会第87回全国大会,2025年3月,大阪府.
- (249) 原田悠馬,市川直弥,宮島千代美:生成 AI による車種情報の生成と車種認識への応用,2025年電子情報通信学会総合大会,2025年3月,東京都.
- (250) Chiyomi Miyajima, Rin Ogawa, Fukino Kato: Investigating the impact of acoustic turn signal features on drivers' sense of caution, rushed feeling, and drowsiness, Sixth Joint Meeting of Acoustical Society of America and Acoustical Society of Japan, 4aPP4, Dec. 2025, Honolulu, USA.
- (251) 吉田光,喜田健司:塩味と甘味を用いたクロスモーダル効果による汎用 HRTF の音像定位精度向上効果の検証,日本音響学会,電気音響研究会,2025年3月,沖縄.
- (252) 伊藤康宏,吉田和枝,本田育美,問山裕二,榎本喜彦,山崎一徳:体表面電極を用いた非侵襲的小腸電位測定 of 検討,第103回日本生理学会大会,1P-067,2026年3月,東京.

- (253) 吉田和枝,伊藤康宏,榎本喜彦,吉川尚美,前川厚子,本田育美,中山晋介,山本隆行,山崎一徳,問山裕二:大腸全摘術後の患者の小腸蠕動運動の可視化,第 43 回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会,日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会誌 Vol.42,No.1,p.211,2026.2 月,大阪.
- (254) 山崎一徳,青木祐弥:Google AI Studio と NotebookLM を用いた旋盤実習の音声データ分析と学習教材作成,日本産業技術教育学会 2025 年度技術教育分科会,演題番号 B07,2025 年 12 月,兵庫.
- (255) 青木祐弥,山崎一徳:Google AI Studio と NotebookLM を用いた旋盤実習の音声データ分析と学習教材作成,日本産業技術教育学会 2025 年度技術教育分科会,演題番号 A10,2025 年 12 月,兵庫.
- (256) 打田正樹,一寸木佑,高戸了,戸嶋和也,野村正和,山崎一徳,森田良文:Smart iWakka の開発,マグネティックス/リニアドライブ合同研究会,MAG-25-027/LD-25-038,2025 年 6 月,三重.
- (257) 平山翔一,福原晟,森田良文,山崎一徳,伊藤忠,酒井義人:慣性センサを用いた重心動揺の推定法,マグネティックス/リニアドライブ合同研究会,MAG-25-025/LD-25-036,2025 年 6 月,三重.
- (258) 打田正樹,高戸了,山崎一徳,森田良文:子供用手指デバイス All-in-One Wakka の試作と基本性能評価,令和 7 年電気学会全国大会,3-093,2025 年 3 月,東京.
- (259) Misako Imono, Seiji Tsuchiya, Hirokazu Watabe:Construction of a Room Generation System in VR Spaces Based on Song Sensibilities,American Council on Science & Education,The 2025 International Conference on Computational Science and Computational Intelligence,2025 年 12 月,オンライン開催.
- (260) 阿部智大,水谷由宇,芋野美紗子:色とフォントによる発話感情の表現および視認性を考慮した動画に対するテロップ自動生成システムの構築,電気・電子・情報関係学会東海支部,令和 7 年電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会,2025 年 9 月,長野.
- (261) 中村裕哲:2000 年代のクロスボーダーM&A と戦略提携:日立の事例,国際ビジネス研究学会,第 31 回年次大会,2024 年 11 月,大阪.
- (262) 中村裕哲:2000 年代のクロスボーダーM&A と戦略提携:ソフトバンクの事例,日本貿易学会,第 63 回全国大会,2025 年 5 月,東京.
- (263) 中村裕哲:法律情報産業の国際競争と日本のオープンデータ化:日米企業の戦略に注目して,国際ビジネス研究学会,第 32 回年次大会,2025 年 10 月,京都.
- (264) 伊藤僚,山下直之,刑部純平:運動前の皮膚冷却が低酸素吸入下で運動中のヒトのエネルギー代謝及び筋活動に及ぼす影響,第 79 回日本体力医学会大会,2025 年 9 月,草津.
- (265) 刑部純平,山根基,伊藤僚,松岡大介,松本孝朗:夏季屋外テニス授業時におけるベスト型ファン付き作業服着用が主観的温度感覚に及ぼす影響,第 63 回日本生気象学会大会,2024 年 11 月,東京.
- (266) 刑部純平,山根基,伊藤僚:静的ストレッチングおよび振動フォームローリングの長期介入効果とディトレニングの影響,東海体育学会第 71 回大会,2024 年 11 月,東京.
- (267) Kohei Ueno:Newton polygons and Bottcher coordinates for skew products:superattracting case and polynomial case,2024 年度多変数関数論冬セミナー,2024 年 12 月 14 日,大阪大学.
- (268) Kohei Ueno:Maps with submanifolds of fixed points attracting in the transversal direction,RIMS 共同研究 複素力学系とその周辺,2025 年 12 月 10 日,京都大学.
- (269) 岡康之:Existence and uniqueness for the Cauchy problem of semilinear heat equations on stratified Lie groups,第 6 回高専間ネットワークによる微分方程式研究会,2026 年 3 月 28 日,奈良コンベンションセンター.
- (270) 岡康之:On the Cauchy problem for semilinear heat equations on the stratified Lie groups,MZ セミナー,2025 年 3 月 24 日,宮崎大学.
- (271) 長谷川翔一:球面上での Lane-Emden 方程式の動径対称解について,東北大学応用数理解析セミナー,2025 年 7 月 17 日,宮城.
- (272) 林実樹廣,成田淳一郎,瀬川重男:Hardy 族による平面領域の分類に関する Hasumi の定理について,日本数学会秋季総合分科会,2025 年 9 月,名古屋大学.
- (273) SAIDA Hiromi:Current Status of PPN Test of Black Hole Spacetime by Observing the star S0-2 Orbiting around the Galactic Central Massive BH Sgr A*,Testing Gravity 2025,2025 年 1 月,Vancouver(Canada).

- (274) 齊田浩見:Black Hole 探査の新たな観測量の考察—BH に落ちる光源放射のパワースペクトル—,日本天文学会,2025 年春季年会,2025 年 3 月,茨城市民会館.
- (275) 齋田浩見:BH に落ちる光源放射のパワースペクトルの理論解析,ブラックホール磁気圏研究会 2025,2025 年 3 月,和歌山工業高等専門学校.
- (276) SAIDA Hiromi:Thermal Power Region around BH,probing BH's strong gravity,International Society on General Relativity,24th International Conference on General Relativity and Gravitation,2025 年 7 月,Glasgow(United Kingdom).
- (277) 齊田浩見:Kerr BH 近傍の強重力をプローブする観測量—パワースペクトル—,銀河系中心研究会 2025,2025 年 9 月,国立天文台水沢 VLBI 観測所(岩手県).
- (278) 齊田浩見:KerrBH 近傍の強重力をプローブ留守観測量—ホーキング温度のパワースペクトル—,第 26 回特異点研究会,2025 年 9 月,学習院大学(東京).
- (279) 齊田浩見:Thermal Power Region of Kerr BH,probing BH's strong gravity and the mode function of quantum field of Hawking radiation,日本物理学会,第 80 回年次大会,2025 年 9 月,広島大学.
- (280) SAIDA Hiromi, NISHIYAMA Shogo, MATUI Sena, TAKEUCHI Tsutomu, TAKAMORI Yohsuke, TAKAHASHI Masaaki:Current Status of Testing General Relativity with the Star Orbiting Galactic Central BH Sgr A*,国立天文台ハワイ観測所,Subaru Telescope Users Meeting,2025 年 10 月,国立天文台三鷹キャンパス(東京).
- (281) 齊田浩見:Sgr A* and S-stars —Current Status of General Relativity,Infrared Observations,and Radio Observations—,Geodesics Orbits and Rays(測地線研究会),2025 年 12 月,立教大学(東京).
- (282) 齊田浩見:Parametrized M/r 展開した自転 BH 時空のヌル測地線の一次摂動解について,時空をつなぐ重力と量子の物理,2026 年 3 月,都城高等工業専門学校(宮崎県).
- (283) K.Ninomiya, M.Kajino, A.Nambu, M.Inagaki, T.Kudo, A.Sato, K.Terada, D.Tomono, Y.Kawashima, Y.Sakai, T.Takayama, A.Shinohara:Investigation of chemical environmental effect on muon capture process and its application for identification of chemical state of muon capturing atom,International Conference on Photonic,Electronic and Atomic Collisions 2025,2025 年 7 月,札幌.
- (284) 小西章典:クロコダイルと妖精——『ピーター・パン』と<ノン=ヒューマン・コンパニオンズ>のポリティクス,日本比較文学会中部支部,日本比較文学会第 58 回中部大会シンポジウム「動物・吸血鬼・妖精——<ノン=ヒューマン・コンパニオンズ>と世紀転換期のイギリス文化」,2025 年 12 月,名古屋大学.
- (285) 松井かおり:教員の言語習得観の変容を促す外国につながる子ども達のワークショップ活動—授業実践記録と日本語教育担当者の振り返りから—,言語文化教育研究学会,第 11 回大会,2025 年 3 月,山口市 KDDI 維新ホール.
- (286) 松井かおり:外国につながる子ども達はワークショップ活動から何を学ぶのか?—特別の教育課程における日本語指導—,日本教科教育学会,第 51 回全国大会(愛知大会),2025 年 11 月,日本福祉大学.
- (287) 松井かおり:「自分のことば」をつくる多言語多文化ワークショップ,日本語教育学会秋季大会,2025 年 11 月,富山国際会議場.
- (288) 山内昇:話題転換標識における which の指示機能に関する考察:聞き手の反応からわかること,日本語用論学会,日本語用論学会第 28 回大会,2025 年 11 月,慶應義塾大学.
- (289) N.Koya, T.Kitamura:Analysis of physical strength factors that can predict the competitive performance of Japanese female tennis players,30th Annual Congress of the European College of Sports Science,July 2025,Rimini.
- (290) 田中裕史,鈴木繁聡:イギリスの学校評価をめぐる現代的動向:Ofsted の監査官に着目して,九州教育社会学会第 101 回九州教育社会学研究交流セミナー,2025 年 3 月,福岡.
- (291) Yasuhito TAMMA, Shigesato SUZUKI:Innovation and Evaluation of Community Social Education Facilities:A Comparative Study of Public-Private Partnerships and Citizen Participation in the UK and Japan,Wera Focal Meeting 2025,2025 年 10 月,João Pessoa(Brasil).

作品

- (1) 大嶋和彦:異径大曲バックロード,オメガの会第4回スピーカーコンテスト,2025年11月,広島.
- (2) 宇野享,良知康晴:徳雲寺本堂,衆寮位牌堂,竣工,2025年7月,広島.
- (3) 宇野享,良知康晴:誠心園デイサービス,竣工,2025年7月,広島.
- (4) 宇野享,良知康晴:徳雲寺庫裡,竣工,2025年10月,広島.
- (5) 中島貴光:照明装置「あかりアート 2025」,第32回美濃和紙あかりアート展,2025年10月.
- (6) 船橋仁奈,市田彰秀/NI&Co.Architects 一級建築士事務所:窓の可動域が生み出す風景ー歴史的建造物の窓を活用した展示空間の実践ー,ヴェネチア国際建築展「TIME SPACE EXISTENCE 2025」,2025.05.10~2025.11.23,イタリア ヴェネチア.
- (7) 武藤隆:APK PUBLIC Vol.1「螺旋の可能性ー無限のチャンスへ」(アーキテクトとして参加・展覧会会場構成),APK PUBLIC Vol.1 リーフレット,2024年11月1日~2026年3月,TODA BUILDING.
- (8) 武藤隆: Barrack(古畑大気+近藤佳那子)によるカフェ・ギャラリー「Who are you たそかれ」(武藤隆・会場デザイナーアーキテクトとして参画),国際芸術祭あいち 2025・同展カタログ,2025年9月13日~11月30日,愛知県陶磁美術館 レストラン.
- (9) 上岡和弘:AQPR2025(株)おとうふ工房いしかわ「おとうふショッピングいしかわチャンネル」企業 PR 動画(4編),2026年2月,愛知県 Web 掲載.
- (10) 上岡和弘:AQPR2025 アジアクリエイティブ(株)「ACSEL 号紹介」事業 PR ムービー・ツール,2026年2月,愛知県 Web 掲載.
- (11) 上岡和弘:AQPR2025 三洲電線(株)「スチームパンク」リクルート用パンフレット、展示会ツール,2026年2月,愛知県 Web 掲載.
- (12) 上岡和弘:AQPR2025 中本アドバンスフィルム(株)「リクルート用ポスター/パンフレット」,2026年2月,愛知県 Web 掲載.
- (13) 上岡和弘:AQPR2024 本多電子(株)「教えてください、樫山さん!」リクルート用動画(4編),2025年4月,愛知県 Web 掲載.
- (14) 上岡和弘:AQPR2024 小林クリエイティブ(株)「オガキエタイムス」企業 PR 動画(3編),2025年4月,愛知県 Web 掲載.
- (15) 上岡和弘:AQPR2024(株)Askal カバン工房「企業 PR ツール」企業 PR 動画(1編)、パンフレット、ショップカード,2025年4月,愛知県 Web 掲載.
- (16) 上岡和弘:AQPR2024(株)アンスコ「リクルート用ツール」パンフレット、説明会ブース装飾ツール,2025年4月,愛知県 Web 掲載.
- (17) 上岡和弘:AQPR2024(株)昭和電機製作所「推し活と企業」リクルート用パンフレット、推し活グッズ,2025年4月,愛知県 Web 掲載.
- (18) 上岡和弘:AQPR2023 アサヒ繊維工業(株)「アサヒゼミ」企業 PR 動画(3編),2024年4月~ ,愛知県 Web 掲載.
- (19) 上岡和弘:AQPR2023 K T X(株)「KTX 株式会社 謝罪会見」事業部 PR 動画,2024年4月~ ,愛知県 Web 掲載.
- (20) 上岡和弘:AQPR2023(株)大洋電機製作所「アート QR コードからのバーチャルツアー」リクルートツール、3D コンテンツ,2024年4月~ ,愛知県 Web 掲載.
- (21) 上岡和弘:AQPR2023(株)大洋電機製作所「就活制御盤」リクルートツール,2024年4月~ ,愛知県 Web 掲載.
- (22) 上岡和弘:AQPR2023 名古屋電機工業(株)「COLLECTION」リクルート用パンフレット、コレクションカード,2024年4月~ ,愛知県 Web 掲載.
- (23) 小島一宏:「C.A.M.P. BASKET」,東海ラジオ放送,日曜 17:00~20:00 生放送,計 72 本.
- (24) 小島一宏:「世間遺産」美浜町・知多奥田駅周辺の旅(前編),知多半島ケーブルネットワーク,2024年11月放送.
- (25) 小島一宏:「世間遺産」美浜町・知多奥田駅周辺の旅(後編),知多半島ケーブルネットワーク,2024年11月放送.
- (26) 小島一宏:「世間遺産」南知多町・内海海岸周辺の旅(前編),知多半島ケーブルネットワーク,2024年12月放送.
- (27) 小島一宏:「世間遺産」南知多町・内海海岸周辺の旅(後編),知多半島ケーブルネットワーク,2024年12月放送.
- (28) 小島一宏:「世間遺産」東海市・名鉄太田川駅周辺の旅(前編),知多半島ケーブルネットワーク,2025年1月放送.
- (29) 小島一宏:「世間遺産」東海市・名鉄太田川駅周辺の旅(後編),知多半島ケーブルネットワーク,2025年1月放送.
- (30) 小島一宏:「世間遺産」常滑市・やきもの散歩道の旅②(前編),知多半島ケーブルネットワーク,2025年2月放送.
- (31) 小島一宏:「世間遺産」常滑市・やきもの散歩道の旅②(後編),知多半島ケーブルネットワーク,2025年2月放送.
- (32) 小島一宏:「世間遺産」美浜町・北方の旅③(前編),知多半島ケーブルネットワーク,2025年3月放送.

- (33) 小島一宏:「世間遺産」美浜町・北方の旅③(後編),知多半島ケーブルネットワーク,2025年3月放送.
- (34) 小島一宏:「世間遺産」武豊町・タイムカプセル35の旅(前編),知多半島ケーブルネットワーク,2025年4月放送.
- (35) 小島一宏:「世間遺産」武豊町・タイムカプセル35の旅(後編),知多半島ケーブルネットワーク,2025年4月放送.
- (36) 小島一宏:「世間遺産」常滑市・久米の旅②(前編),知多半島ケーブルネットワーク,2025年5月放送.
- (37) 小島一宏:「世間遺産」常滑市・久米の旅②(後編),知多半島ケーブルネットワーク,2025年5月放送.
- (38) 小島一宏:「世間遺産」南知多町・山海の旅③(前編),知多半島ケーブルネットワーク,2025年6月放送.
- (39) 小島一宏:「世間遺産」南知多町・山海の旅③(後編),知多半島ケーブルネットワーク,2025年6月放送.
- (40) 小島一宏:「世間遺産」美浜町・上野間の旅③(前編),知多半島ケーブルネットワーク,2025年7月放送.
- (41) 小島一宏:「世間遺産」美浜町・上野間の旅③(後編),知多半島ケーブルネットワーク,2025年7月放送.
- (42) 小島一宏:「世間遺産」常滑市・ボートレースとこなめの旅(前編),知多半島ケーブルネットワーク,2025年8月放送.
- (43) 小島一宏:「世間遺産」常滑市・ボートレースとこなめの旅(後編),知多半島ケーブルネットワーク,2025年8月放送.
- (44) 小島一宏:「世間遺産」南知多町・大井の旅④(前編),知多半島ケーブルネットワーク,2025年9月放送.
- (45) 小島一宏:「世間遺産」南知多町・大井の旅④(後編),知多半島ケーブルネットワーク,2025年9月放送.
- (46) 小島一宏:「世間遺産」大府市・大府駅周辺の旅(前編),知多半島ケーブルネットワーク,2025年10月放送.
- (47) 小島一宏:「世間遺産」大府市・大府駅周辺の旅(後編),知多半島ケーブルネットワーク,2025年10月放送.
- (48) 小島一宏:「世間遺産」武豊町桜ヶ丘・北中根の旅(前編),知多半島ケーブルネットワーク,2025年11月放送.
- (49) 小島一宏:「世間遺産」武豊町桜ヶ丘・北中根の旅(後編),知多半島ケーブルネットワーク,2025年11月放送.
- (50) 小島一宏:「世間遺産」美浜町・南知多ビーチランドの旅(前編),知多半島ケーブルネットワーク,2025年12月放送.
- (51) 小島一宏:「世間遺産」美浜町・南知多ビーチランドの旅(後編),知多半島ケーブルネットワーク,2025年12月放送.
- (52) 小島一宏:「世間遺産」常滑市新浜町・末広町の旅(前編),知多半島ケーブルネットワーク,2026年1月放送.
- (53) 小島一宏:「世間遺産」常滑市新浜町・末広町の旅(後編),知多半島ケーブルネットワーク,2026年1月放送.
- (54) 小島一宏:「世間遺産」南知多町・豊浜の旅③(前編),知多半島ケーブルネットワーク,2026年2月放送.
- (55) 小島一宏:「世間遺産」南知多町・豊浜の旅③(後編),知多半島ケーブルネットワーク,2026年2月放送.
- (56) 小島一宏:「世間遺産」知多市・佐布里池周辺の旅(前編),知多半島ケーブルネットワーク,2026年3月放送.
- (57) 小島一宏:「世間遺産」知多市・佐布里池周辺の旅(後編),知多半島ケーブルネットワーク,2026年3月放送.
- (58) 小島一宏:「こころ潤すキネマの杜」,メディアスエフエム,日曜9:00~10:00ほか(収録),計22本.
- (59) 小島一宏:「第46回ヨコハマ映画祭」授賞式 構成およびMC ゲストトーク,2025年2月2日.
- (60) 小島一宏:「第47回ヨコハマ映画祭」授賞式 構成およびMC ゲストトーク,2026年2月1日.
- (61) 小島一宏:「三鷹の森アニメフェスタ 2025」第二部 構成および対談 MC,「風が吹くとき」上映とノンフィクション作家・川内有緒さんトークショー,2025年3月1日.
- (62) 小島一宏:「三鷹の森アニメフェスタ 2026」第二部 構成および対談 MC,「Flow」上映と作家/イラストレーター・ぬまがさワタリさんトークショー,2026年3月7日.
- (63) 富永慎一,富永研究室:ねらいの的確な映像化～卒業研究制作作品上映～,上映およびオンライン掲載,2025年2月,名古屋シネマスコレ・YouTube.
- (64) 富永慎一,富永研究室:日東学術振興財団助成舞台公演「鶴・舞」の記録映像撮影,公演・助成成果結果報告,2025年3月,市民ギャラリー矢田.
- (65) 富永慎一,富永研究室:南区民まつり 2024 アフタービデオレポート,オンライン掲載,2025年3月,南区ホームページ.
- (66) 富永慎一,富永研究室:2024年度大同大学学位記授与式収録,オンライン掲載,2025年3月,大同大学ホームページ・YouTube.
- (67) 富永慎一,富永研究室:2025年度大同大学入学式収録,オンライン掲載,2025年4月,大同大学ホームページ・YouTube.
- (68) 富永慎一,富永研究室:2025年度大同大学大学プロモーションビデオ制作,オンライン掲載,2025年7月,大同大学ホームページ・YouTube.
- (69) 富永慎一,富永研究室:愛知県警南警察署の特殊詐欺被害防止動画制作,サイネージ上映およびオンライン掲載,2025年12月,警察署サイネージ上映,南警察署ホームページ.
- (70) 富永慎一,富永研究室:ねらいの的確な映像化～卒業研究制作作品上映～,上映およびオンライン掲載,2026年2月,名古屋シネマスコレ・YouTube.
- (71) 富永慎一,富永研究室:2025年度大同大学学位記授与式収録,オンライン掲載,2026年3月,大同大学ホームページ・YouTube.

- (72) 押山晶子:作編曲,演劇「秋の空音(そらね)」,大アマチン祭企画・西文化小劇場会館 30 周年事業,2024 年 11 月,西文化小劇場.
- (73) 押山晶子:オーケストラ編曲「ネバネバ」森崎ウィン,メーテレ「Premium Concert 2025」フルオーケストラと共に贈る一夜限りのプレミアムコンサート,三ツ橋敬子(指揮)セントラル愛知交響楽団,2025 年 2 月,愛知県芸術劇場 コンサートホール.
- (74) 押山晶子:委嘱作品「反射する光は」山内敦子ピアノリサイタル,2025 年 2 月,電気文化会館ザ・コンサートホール.
- (75) 押山晶子:ミュージカル作曲,第 11 回公演「ハッピーキッチン」(再演),Theater BamBoo Original Musical,2025 年 3 月,名古屋市青少年文化センター(アートピア).
- (76) 押山晶子:マルチメディア作品「揺れて、なお澄むーピアノと映像と光のために」,ミッドジャパン音の芸術祭 Interlude2025『音・光・音響の戯れと創作 2025』,2025 年 9 月,名古屋市立大学芸術工学研究科 北千種キャンパス音響デザイン室.
- (77) 押山晶子:作編曲,こどもオペラ「川の星、キラリ!」地域連携パフォーミングアーツ なないろ歌劇団,2026 年 3 月,おおぶ文化交流の杜こもれびホール.
- (78) 原田昌明:地域連携パフォーミングアーツ実行委員会主催第 20 回公演こどもオペラ「ソラソラミソラ」舞台映像,上演,2025 年 3 月,おおぶ文化交流の杜 allobu こもれびホール.
- (79) 原田昌明:地域連携パフォーミングアーツ実行委員会主催第 21 回公演借り物オペラッタ「若きウェルメイドの悩み」,オペラ「子供と魔法」舞台映像,上演,2025 年 8 月,知多市勤労文化会館つつじホール.
- (80) 原田昌明:地域連携パフォーミングアーツ実行委員会主催第 22 回公演こどもオペラ「川の星、キラリ!」舞台映像,上演,2026 年 3 月,おおぶ文化交流の杜 allobu こもれびホール.
- (81) 吉田雅彦:インスタレーション「また今日も己を探す」,新美南吉の言葉と風景展,2025 年 7 月~11 月,愛知県.
- (82) 横山弥生:Société du Salon d'Automne2024,「Amapola」,展覧会,La Grande Halle de La Villette Paris,2024 年 11 月.
- (83) 横山弥生:PRINTS ON B'DWAY,「Grace#1」「Grace#3」,展覧会,Gallery Max New York,2024 年 12 月.
- (84) 横山弥生:Le Salon des Artistes France 2025,「EGOIST#1」,展覧会,Grand Palais Ephemere Paris,2025 年 2 月.
- (85) 横山弥生:「SJAC 2025」,「Jealousy#1」,展覧会,Gallery Max New York,2025 年 6 月.
- (86) 横山弥生:個展「Pray and Hope-祈りそして希望-」,展覧会,ナガサキピースミュージアム,長崎,2025 年 8 月.
- (87) 横山弥生:PEACE2025,「Requiem#1」,展覧会,Gallery Max New York,2025 年 8 月.
- (88) 横山弥生:Société du Salon d'Automne2025,「Bloom#1」,展覧会,La Grande Halle de La Villette Paris,2025 年 11 月.
- (89) 横山弥生:PRINTS ON B'DWAY,「Recollection#1」,展覧会,Gallery Max New York,2025 年 12 月.
- (90) 横山弥生:Le Salon des Artistes France 2026,「Grace#3」,展覧会,Grand Palais Ephemere Paris,2026 年 2 月.
- (91) 松井かおり:多文化共生クロスロード製作委員会『クロスロード:外国につながる子どもの学習支援員編』※「チームクロスロード」(代表 吉川肇子氏)から登録商標「クロスロード」(商願番号 2004-083439 第 28 類)および「CROSSROAD」(商願番号 2004-083440 第 28 類)の名称使用認可取得済.
- (92) 松井かおり:『遊びながら学ぶ日本語コミュニケーションー外国につながる子どもが学級で楽しむ即興活動ー』全 38 頁.

学位

- (1) 谷村弘貴:未来の移動をデザインする,創造技術修士(専門職),東京都立産業技術大学院大学,2026 年 3 月.
- (2) 山内昇:A Study of the Development of the Speaking-of Construction in Present-Day English(現代英語における speaking of 構文の発達に関する研究),博士(文学),名古屋大学,2026 年 3 月.

受賞

- (1) 柚谷啓:日本設計工学会 特集企画賞,特集企画「積層造形により実現する高機能構造体」,2025 年 5 月 4 日.
- (2) 鈴木健児,都築謙,三宅宏尚,西脇武志,村田真伸,田中智也:第 10 回日本ものづくり大賞優秀賞,「部分軟化によるアルミニウム合金の深絞り性能の向上と量産化技術の開発」,2026 年 3 月.
- (3) R.Takayama, Y.Maeda, S.Iijima, T.Yamazaki:THE 17th ASIAN FOUNDRY CONGRESS 2025,Best Paper Award,Process Modeling for Return Sand Cooling System of Green Molding Sand using Machine Learning,2025

年 10 月.

- (4) 不破勝彦,沖村達也:第 81 回電気学術振興賞 論文賞,論文「バイアスを伴う正弦波外乱を推定する外乱オブザーバの新設計法」,2025 年 6 月.
- (5) 沖村達也,不破勝彦,山崎一徳:電気学会論文発表賞 B 賞,予稿「DC モータ角度制御系におけるステップ外乱を推定する最小次元状態推定器の設計」,2026 年 1 月.
- (6) 松久隆太,不破勝彦,橋本康平,内容瑞貴,沖村達也:第 179 回計測自動制御学会中部支部教育工学研究会学生優秀発表賞,発表「最小次元状態推定器による外乱推定と安定化」,2026 年 3 月.

特許

- (1) 加納善明,佐藤浩介,袴田眞一郎,芝原大智:筒型リニアモータ,特許第 7584767 号,2021 年 3 月 5 日出願.
- (2) 加納善明,永溝喜也,佐藤浩介,袴田眞一郎,芝原大智:筒型リニアモータ,特許第 7716713 号,2022 年 1 月 17 日出願.
- (3) 加納善明,佐藤浩介:筒型リニアモータ,特許第 7762910 号,2022 年 2 月 17 日出願.
- (4) 加納善明,佐藤浩介:筒型リニアモータ,特許第 7833141 号,2022 年 3 月 23 日出願.
- (5) 加納善明,佐藤浩介,芝原大智:筒型リニアモータ,特許第 7784664 号,2022 年 5 月 27 日出願.
- (6) 松沢晋一郎,小島崇,水野健太郎,香川賢一:モータ装置,特許第 7677840 号,2021 年 6 月 25 日.
- (7) 井上大介:光非相反デバイス,特許第 7677360 号,2023 年 2 月 3 日.

国際大会、国際競技会

- (1) K.Suita and R.Ellegast:New Era of Safety:Collaborative Safety,International Symposium on Safety,Health and Well-being for All in Expo2025,2025 年 7 月,大阪.
- (2) 橋口宏衛,チーム「オールあいち」:World Robot Summit 2025 過酷環境 F-REI チャレンジ,災害対応ドローン競技,雨天により棄権,総監督,福島県ロボットテストフィールド,2025 年 10 月.

科研費採択

- (1) 柚谷啓,宮本潤示,岡部貴雄:25K07558,基盤研究(C),半導体露光用高真空対応イオン液体軸受の低温特性の解明,2025 年～2027 年.
- (2) 高田健,小川登志男,池田賢一:22K04676,基盤研究(C),電気抵抗率測定を用いた微細組織の動的挙動観察手法の構築,2022 年～2025 年.
- (3) 齊藤元貴,高田健:25K08254,基盤研究(C),組織相関図の統計的解析に基づくナノ組織形成機構の解明,2025 年～.
- (4) 坪井涼:23K03680,基盤研究(C),SLD 着氷における液滴の衝突・飛散メカニズムの解明およびモデル開発,2023～.
- (5) 宮本潤示,坪井涼:23K03650,基盤研究(C),鋼のプラズマ窒化を用いたヘテロ構造表面の創出によるトライボロジー特性の向上,2023～.
- (6) 西脇武志:24K07242,基盤研究(C),金属板材の降伏関数の妥当性を評価する試験法の開発,2024～.
- (7) 前田安郭:24K08129,基盤研究(C),鋳型砂特性の離散要素モデリングと粒度分布を考慮した圧密化解析,2024 年～2026 年.
- (8) 野田哲男,藤原清司,中坊嘉宏,吹田和嗣,齋藤剛,池田博康:25JA1005,厚生労働省,厚生労働科学研究費,協働ロボットの活用実態と規格・指針の整合性に関する調査研究,2025 年 5 月～.
- (9) 田中淑晴,綿崎将大,山口康太,原野智哉:24K07281,基盤研究(C),超電導磁石による非接触動力伝達での高加減速と高精度を両立させた位置決め装置の開発,2024～2027.
- (10) 大澤文明:23K03736,基盤研究(C),可動子界磁巻線を有する平面アクチュエータの 6 自由度電流制御技術,2023～.
- (11) 服部佳晋,野村勝也,加地徹:24K07597,基板研究(C),トポロジー最適化を用いた縦型 GaN パワーデバイスの構造設計技術, 2024 年～.
- (12) 坂本慎一,米村美紀,森長誠,辻村壮平:25K01374,基盤研究(B),環境騒音のうるささに対する空間性の影響評価と計測方法の開発,2025 年～.
- (13) 森長誠,横島潤紀:25K08032,基盤研究(C),低周波数成分による圧迫感・振動感を考慮した移動性騒音源の影響評価方法の提案,2025 年～.
- (14) 棚橋秀行: 24K00982,基盤研究(B),地盤内連続再発泡法を用いた新しい環境修復技術の開発,2024～.

- (15) 岸祐介,宮寄靖大:24K07643,基盤研究(C),鋼橋上部工に用いられる H 形断面部材における圧縮強度評価法の高精度化,2024～.
- (16) 荻野正雄:23K24861,基盤研究(B),電磁場・固体連成解析のハイケーパビリティ計算を実現する数値計算法,2022 年～.
- (17) 君山博之:26K14815,基盤研究(C),クロック差推定によるモバイル通信リソースの利用効率化手法の研究,2026.
- (18) 柘植寛:25K15125,基盤研究(C),遠隔地からの人工音声による話者認識機器詐称の防止に関する研究,2025～2028.
- (19) 宮島千代美:25K08207,基盤研究(C),車載センサ信号を用いたドライバ操舵行動の危険性評価手法の開発,2025 年.
- (20) 喜田健司:21K17793,若手研究,ロバスト制御理論を用いたウェアラブルスピーカのクロストークキャンセラの設計,2021～2025.
- (21) 喜田健司:25K15411,基盤研究(C),特徴的な耳介形状を持つキャラクタの頭部伝達関数を用いた音響解析と実装,2025～.
- (22) 岡康之:21K03333,基盤研究(C),Lie 群構造をもつ非線形発展方程式の可解性の解明,2021～2025.
- (23) 斉田浩見:25K07328,基盤研究(C),ブラックホールに特徴的な観測量の理論整備とその近い将来の観測可能性の追求,2025.
- (24) 西山正吾,斉田浩見,孝森洋介,高橋真聡:25K01034,基盤研究(B),銀河系中心核におけるブラックホール連星系の起源の解明—新技術による初の定量的検証—,2025.
- (25) 山内昇:JP24K03953,基盤研究(C),談話文法理論に基づく speaking of 構文の成立過程に関する研究,2024～2027.
- (26) 鈴木繁聡:23K18938,研究活動スタート支援,学校と学習塾の連携の日本の特質の検討:イングランドのアカデミーとの比較を通して,2023 年 8 月～2025 年 3 月.

学外競争的研究資金獲得

- (1) 柚谷啓:公益財団法人財団イハラサイエンス中野記念財団,配管システム等研究助成,真空対応型イオン液体液送システムにおける配管材の腐食性評価,2025 年.
- (2) 葛森秀夫:天田財団,一般研究開発助成,塑性変形の応力増分を考慮したシミュレーションソフトウェアの開発,2025～.
- (3) 葛森秀夫:ヒロテック財団,学術研究助成,異方硬化モデルによるシワ予測の高精度化,2024～.
- (4) 西脇武志:公益財団法人 天田財団,塑性加工 一般研究開発助成,砂時計型試験片を用いたアルミニウム合金板の降伏関数のパラメータの同定,2023～.
- (5) 西脇武志:公益財団法人軽金属奨学会,教育研究資金,せん断試験によるアルミニウム合金板の降伏関数の検証,2025.
- (6) 前田安郭(研究分担者):全方位の車種展開と多様なデザインの車両生産効率化に貢献し低環境負荷の亜鉛系高強度・高耐久金型の開発,令和 6 年度中小企業政策推進事業費補助金(成長型中小企業等研究開発支援事業),2024 年採択.
- (7) 宮本潤示:一般社団法人東海産業技術振興財団,第 38 回研究助成,アクティブスクリーンプラズマ窒化された鋼の耐キャビテーション・エロージョン特性解明,2026 年.
- (8) 内海能亜:公益財団法人三五モノづくり財団,研究開発助成,アルミニウム合金押出し偏肉方形管の曲げにおける加工および変形特性,2024.
- (9) 田中淑晴:公益財団法人日比科学技術振興財団,磁気力伝達での非接触液体攪拌のためのフロート位置推定による回転制御,2024～2025.
- (10) 大澤文明:公益財団法人日比科学技術振興財団,一般研究課題,2 組の三相巻線モータを用いた昇圧・任意出力可能な多機能インバータの検討,2025.
- (11) 内田圭,山田靖:中小企業経営支援等対策費補助金,成長型中小企業等研究開発支援事業,パワー半導体の高密度実装に対応した高放熱セラミックス基板の開発,2023～2025.
- (12) 宮下剛,小野潔,宮寄靖大:一般社団法人日本鉄鋼連盟,2023,2024 年度鋼構造研究・教育助成事業,鋼桁ガセット部の耐荷力評価法とステンレス鋼の適用による腐食耐久性向上に関する研究,2023～2025.
- (13) 宮寄靖大,岸祐介:一般社団法人日本鉄鋼連盟,2023,2024 年度鋼構造研究・教育助成事業,SBHS 製 I 形断面部材に関する初期不整の変動が終局強度に及ぼす影響,2023～2025.
- (14) 樋口恵一:日比科学技術振興財団,日比科学技術振興財団研究助成(一般課題),名古屋市における新たな避難支援活動の提案,2025 年.
- (15) 三村泰広,樋口恵一,伊藤僚,山岸未沙子,村上滉一:三井住友海上福祉財団,研究助成(交通事故・各種災害の防止等分野),高齢運転者の補償運転行動発現のメカニズムに関する基礎的研究,2025 年.

- (16) 武居周,荻野正雄:JST,研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP),GHz 帯の EMC 対策設計に向けた、大規模電磁界シミュレーション・フレームワークの創出,2024 年～.
- (17) 君山博之,荻野正雄:NII,2025 年度公募型共同研究(第 2 回),低遅延映像配信のためのトラヒック統計データを元にした自律的なネットワークシステム制御法に関する研究,2025 年.
- (18) 山崎一徳:日比科学技術振興財団,令和 7 年度研究助成(一般課題),OK・NG 報告システムとローカル LLM による教員負担の軽減と学習効果の向上,2025.
- (19) 酒井義人,渡邊剛,松井寛樹,若尾典充,森田良文,山崎一徳,今釜史郎,山本美知郎,伊藤定之,関泰輔:国立長寿医療研究センター,長寿医療研究開発費,運動器の老化に関する機序解明と予防に資する縦断研究,2024～.

その他

- (1) 柚谷啓:日刊工業新聞記事,超小型・超高速ターボ機械用空気動圧軸受,2025 年 9 月 17 日.
- (2) 高田健:一般社団法人軽金属学会九州支部例会講演会,アルミニウム合金におけるクラスタリングと析出物形成,2026 年 3 月.
- (3) 前田安郭,近藤史崇,船橋幹人,条隆千穂:Cooper・Eaton 式を用いたスクイズ加圧による生砂試験片作成過程の動的解析,(公社)日本鑄造工学会,研究報告,134,(2025),pp.75-77.
- (4) 高山亮成,前田安郭:機械学習による混練後の生型砂特性値変化推定の試み,(公社)日本鑄造工学会,研究報告,134,(2025),pp.30-40.
- (5) 宮本潤示:読売新聞,プラズマ窒化とファインバブルが拓く長寿命化技術,2026 年 1 月.
- (6) 桑原利彦,内海能亜,白寄篤,古島剛,森昭寿,吉田佳典,吉村英徳:部材の極限軽量化に資する偏肉鋼管加工技術研究会成果報告書,偏肉管の曲げ加工技術,日本鉄鋼協会,2025,pp.36-47.
- (7) 篠原主勲:有松鳴海絞と技術伝承,まなびの広場,2025 年 10 月,大同大学研究・社会連携推進センター.
- (8) 吹田和嗣:一般財団法人日本規格協会,ISO/TC299/WG3(産業用ロボット)Expert,2021 年～.
- (9) 吹田和嗣:一般財団法人製造科学技術センター,メガ労働生産性システム研究会,2021 年～.
- (10) 吹田和嗣:東京大学大学院(非常勤講師):社会連携講座:人工物を創出するための理解 I,2022 年～.
- (11) 吹田和嗣:一般財団法人日本規格協会,ISO/TC299/WG7(サービスロボット運用)Expert,2024 年～.
- (12) 吹田和嗣:一般財団法人日本ロボット工業会,サービスロボット安全性ワーキンググループ,委員,2024 年～.
- (13) 吹田和嗣:一般財団法人日本ロボット工業会,サービスロボット安全運用マネジメントワーキンググループ,委員,2024 年～.
- (14) 吹田和嗣:一般財団法人日本ロボット工業会,産業用ロボット安全性ワーキンググループ,委員,2024 年～.
- (15) 吹田和嗣:ロボット革命・産業 IoT イニシアティブ協議会,ロボットイノベーション WG,委員,2024 年～.
- (16) 吹田和嗣:ロボット革命・産業 IoT イニシアティブ協議会,有識者,2024 年～.
- (17) 吹田和嗣:一般財団法人製造科学技術センター,賛助会員(学術),2024 年～.
- (18) 吹田和嗣:一般財団法人セーフティグローバル推進機構,理事,2024 年～.
- (19) 田中淑晴:精密位置決めに関する技術動向,月刊トライボロジー,第 40 巻,2 号,2026 年 2 月,pp.12-15.
- (20) 田中淑晴:生活環境向上のための研究報告書 2024,令和 6 年度第 27 回助成研究成果論文集,Vol.27,2025,pp.245-250.
- (21) 田中淑晴:中部電力基礎技術研究所,出版助成,2025 年 9 月.
- (22) 服部佳晋:車載システム EMC コンソーシアム(名古屋工業大学産学官金連携コンソーシアム),パワーエレクトロニクスワーキング リーダー,2024 年～.
- (23) 宇野享,良知康晴:WEB マガジン architecturephoto6/11,三國(店舗新築),2025 年 6 月.
- (24) 宇野享,良知康晴:WEB マガジン architecturephoto8/22,KUBO ビル改修,2025 年 8 月.
- (25) 宇野享,良知康晴:WEB マガジン日経クロステック,邑南町立石見中学校,2025 年 11 月.
- (26) 船橋仁奈:令和 7 年度 長久手市景観審議会委員,愛知県長久手市,2025.
- (27) 船橋仁奈:令和 7 年度 第 31 回愛知まちなみ建築賞選考委員,愛知県,2025.
- (28) 船橋仁奈:令和 7 年度 愛知県建築士審査会委員,愛知県,2025.
- (29) 船橋仁奈:令和 7 年度 愛知県屋外広告物審議会委員,愛知県,2025.
- (30) 船橋仁奈:東山動植物園 90 周年記念会場装飾業務事業者評価委員,名古屋市,2025.
- (31) 船橋仁奈:専門性の深化と広がるキャリアのかたち-建築系分野の専門職で活躍する社会人との交流会-,講演「経験と学びが織りなす仕事の未来」,日本建築学会東海支部男女共同参画推進委員会,2025.

- (32) 武藤隆:第5回『中部商空間賞』学生部門審査員,2025年.
- (33) 武藤隆:シンポジウム,国際芸術祭「あいち 2025」ラーニングプログラム へたちトーク vol.01「見えないアーキテクトの仕事」,愛知芸術文化センター,2025年10月17日.
- (34) 武藤隆:シンポジウム,国際芸術祭「あいち 2025」「Who are you たそかれ」presents アーキテクトトーク『土との対話、地との対話』,愛知県陶磁美術館,2025年11月8日.
- (35) 森長誠:東京都公害審査会,専門委員,2025年～
- (36) 森長誠:ISO/TC 43/SC 1/WG 68,Committee member,2025年～
- (37) 森長誠:総務省,公害等調整委員会,委員,2023年～
- (38) 森長誠:ISO/TC 43/SC 1/WG 45,Committee member,2022年～
- (39) 森長誠:ISO/TC 43/SC 1/WG 54,Committee member,2017年～
- (40) 光田恵:芳香浴の魅力とその可能性,AEAJ,第112号,pp.8-13,2024年.
- (41) 光田恵:におい特性と対策の考え方,空気清浄,62巻,4号,pp.31-36,2024年11月.
- (42) 光田恵:生活環境のにおいの容認性と消臭対策,日本口臭学会第16回学術大会,2025年6月28日.
- (43) 嶋田喜昭 他:雑誌,北陸新幹線・敦賀乗換問題における改善提案,NPO REF 第12号,pp.56-65,2025年7月.
- (44) 嶋田喜昭:学会誌,特集1第28回全国大会報告:開催報告,福祉のまちづくり研究 第27巻 第2号,pp.3-5,2025年12月.
- (45) 嶋田喜昭:講師,分科会:名古屋における自転車利用環境(パネラー),第12回自転車利用環境向上会議 in 名古屋,2025年10月31日.
- (46) 嶋田喜昭:講師,パネルディスカッション:名古屋のまちとシェアサイクル(司会),第12回自転車利用環境向上会議 in 名古屋,2025年11月1日.
- (47) 嶋田喜昭:雑誌,道路の着せ替え-既存道路ストックの活用,日本都市計画学会中部支部35周年記念誌,p.13,2026年3月.
- (48) 鷺見哲也:「湧水河川の水文学的挙動と湧水魚ハリヨの生活史」,森誠一編「河川ダイナミクスの生態学-動く川が育む生物多様性の保全-」第3章1節,朝倉書店,pp.102-112,2025年7月.
- (49) 樋口恵一:地域公共交通コーディネーター・プロデューサー養成プロジェクト講師,国土交通省地域公共交通共創モデル実証プロジェクト(代表:加藤博和),2025年.
- (50) 井上大介:東京大学 ADVANTEST SEMINAR,“距離センサーの小型化・高感度化・全固体化“(レーザレーダーを光集積回路を用いて小型高感度化する研究成果を紹介した),東京大学武田先端知ビル(2025.5.27).
- (51) 荻野正雄:日本計算工学会,理事,2022年～.
- (52) 荻野正雄:日本計算工学会・第30回計算工学講演会,副実行委員長,2024年～2025年.
- (53) 荻野正雄:日本計算工学会・第31回計算工学講演会,副実行委員長,2025年～.
- (54) 荻野正雄:日本機械学会,学術誌編修委員(CM カテゴリー・アソシエイトエディタ),2020年～2025年3月.
- (55) 荻野正雄:日本機械学会,計算力学部門・幹事,2024年～2025年3月.
- (56) 荻野正雄:日本機械学会,会員部会・委員,2024年～2025年3月.
- (57) 荻野正雄:日本機械学会,計算力学部門・表彰委員会・委員,2025年4月～2026年3月.
- (58) 荻野正雄:日本機械学会,技術ロードマップ委員会・委員,2025年4月～2026年3月.
- (59) 荻野正雄:日本機械学会,学術誌編修委員(CM カテゴリー・カテゴリーエディタ),2025年4月～.
- (60) 荻野正雄:大規模電磁界数値解析手法に関する研究シンポジウム,実行委員,2018年～.
- (61) 荻野正雄:国際会議 DTE2027,Local Organizing Committee,2025年～.
- (62) 荻野正雄:国際会議 ICCM,International Scientific Advisory Committee.
- (63) 不破勝彦:バイアスを伴う正弦波外乱を推定する外乱オブザーバの新設計法,電気学会産業応用部門(D部門)ニューズレター,技術開発レポート,146巻,2号,2026年,p.9.
- (64) 宮島千代美:自動車技術会アクティブセーフティ部門委員会,幹事,2019年4月～2026年3月.
- (65) 宮島千代美:IEEE ITS Society Nagoya Chapter,Technical Committee member,2021年1月～現在.
- (66) 宮島千代美:FAST-zero'25,International Scientific Committee member,2024年7月～2025年9月.
- (67) 山崎一徳:名古屋市教育委員会,名古屋市立工業高等学校コミュニティ・スクール会議構成員 ※学校評議員(2017～)より名称変更(2025～).
- (68) 山崎一徳:岐阜県立岐阜各務野高等学校,令和7年度 DX ハイスクール事業「生成 AI・IoT 活用講座①」講師,2026年1

- 月.
- (69) 山崎一徳:岐阜県立岐阜各務野高等学校,令和 7 年度 DX ハイスクール事業「生成 AI・IoT 活用講座②」講師,2026 年 2 月.
- (70) 山崎一徳:岐阜県高等学校教育研究会情報部会,「生成 AI で変わる生徒の学び 〜"教える"と"学ぶ"の新しいかたち〜」講師,2025 年 10 月.
- (71) 山崎一徳:名古屋市立工業高等学校,「教員対象 DX-AI 基礎研修」講師,2025 年 10 月.
- (72) 山崎一徳:東洋食品工業短期大学,「データサイエンス・AI」講師,2025 年,4 月.
- (73) 山崎一徳:金城学院大学,マルチメディアセンター主催 2024 年度 第 2 回マルチメディア研究会「生成 AI の現在と未来(実践編)」講師,2025 年 2 月.
- (74) 岡田心:公益財団法人名古屋産業振興公社,名古屋市工業研究所主催ものづくりデザインプラットフォーム講演会「産業とデザインの新たな結合から新しい価値を創造する」にて講演,2025 年 2 月.
- (75) 岡田心:公益財団法人名古屋産業振興公社,デザイン活用によるサステナブルビジネス展開支援事業「サスティーンナゴヤ」にて発表,2025 年 2 月.
- (76) 岡田心:NIPPON MONODZUKURI DESIGN AWARD 2025 主催 実行委員長,審査員,2025 年 5 月.
- (77) 岡田心:公益財団法人名古屋産業振興公社,デザイン活用によるサステナブルビジネス展開支援事業「サスティーンナゴヤ ネットワーキングセミナー」にて講演,2025 年 6 月.
- (78) 岡田心:公益財団法人名古屋産業振興公社 国際デザインセンター主催,なごやデザインスクール「デザインにできることってなんだろう?・デザイン思考を体験する」にて講演,2025 年 7 月.
- (79) 岡田心:公益財団法人名古屋産業振興公社 国際デザインセンター主催,なごやデザインスクール「ブランディングとは?」にて講演,2025 年 8 月.
- (80) 岡田心:公益財団法人名古屋産業振興公社 国際デザインセンター主催,なごやデザインスクール「ミッション・ビジョンをデザインする」にて講演,2025 年 9 月.
- (81) 岡田心:公益財団法人名古屋産業振興公社 国際デザインセンター主催,なごやデザインスクール「新規事業のつくりかた」にて講演,2025 年 10 月.
- (82) 岡田心:NAGOYA DESIGN WEEK 2025 実行委員会主催 名古屋市後援,「NAGOYA DESIGN WEEK 2025」にて発表、展示販売,2025 年 10 月.
- (83) 岡田心:公益財団法人名古屋産業振興公社 国際デザインセンター主催,なごやデザインスクール「デザイナーの生態学」にて講演,2025 年 11 月.
- (84) 岡田心:公益財団法人名古屋産業振興公社,デザイン活用によるサステナブルビジネス展開支援事業「サスティーンナゴヤ ネットワーキングセミナー」にて講演,2025 年 11 月.
- (85) 岡田心:公益財団法人名古屋産業振興公社,名古屋市工業研究所主催ものづくりデザインプラットフォーム講演会「新規事業との向き合い方-既存事業からの脱却、令和で生き残るには?-」にて講演,2025 年 12 月.
- (86) 岡田心:公益財団法人名古屋産業振興公社 国際デザインセンター主催,なごやデザインスクール「ヒアリングの極意」にて講演,2026 年 1 月.
- (87) 岡田心:公益財団法人名古屋産業振興公社,デザイン活用によるサステナブルビジネス展開支援事業「サスティーンナゴヤ ネットワーキングセミナー」にて講演,2026 年 1 月.
- (88) 岡田心:公益財団法人名古屋産業振興公社 国際デザインセンター主催,なごやデザインスクール「デザイナーを事業に伴走させる価値を考える」にて講演,2026 年 2 月.
- (89) 谷村弘貴:一般社団法人 日本デザインマネジメント協会主催 「2025 年度 JDMA 創造性コンテスト」,審査員,2025 年 10 月.
- (90) 吉田雅彦:展示企画・キュレーション,受託事業「新美南吉の言葉と風景展」,半田赤レンガ建物,2025 年 7 月〜11 月.
- (91) 藤井浩明他,法政大学大原社会問題研究所:2025 年版日本労働年鑑第 95 集,pp.212-217,旬報社,2025.
- (92) 岡康之:第 6 回大同若手微分方程式セミナー in 宮崎,世話人,2025 年 8 月 20 日〜2025 年 8 月 21 日.
- (93) NISHIYAMA Shogo, SAIDA Hiromi, TAKAMORI Yohsuke, TAKAHAAHI Masaaki, NAGATA Tetsuya, IKEDA Hiroyuki, THORSBRO Brian, LOZI Julien, GUYON Olivier, MINOWA Yosuke:すばる望遠鏡 2025 年 A 期,観測計画 Invisible Mass Distribution around the Galactic Supermassive Black Hole の採択,2025 年 5 月と 6 月.
- (94) NISHIYAMA Shogo, SAIDA Hiromi, TAKAMORI Yohsuke, TAKAHAAHI Masaaki, NAGATA Tetsuya, IKEDA Hiroyuki, THORSBRO Brian, LOZI Julien, GUYON Olivier, MINOWA Yosuke:すばる望遠鏡 2025 年 B 期,観測

計画 The Origin of Late-Type Stars Orbiting Galactic Supermassive BH Sgr A*の採択,2025 年 8 月.

- (95) 松井かおり:外国にルーツを持つ子どもたちのワークショップ活動—体験を通じた私のことば、私たちのことばの獲得—(話題提供者),第 2 回横田科学研究会(「ウエルビーイングの向上を促す社会情動的学習プログラム開発:身体性を媒介として」横田和子代表),2025 年 8 月,オンライン.
- (96) 多文化共生クロスロード製作委員会(松井かおり,石田喜美):ABR ギャラリー「ゲームを通じて語りあい、対話し、探究する:シュミレーションゲーム型研修教材『クロスロード:外国につながる子どもの学習支援員編』プレイ体験」ABR 研究会,2025 年 12 月,明治大学.
- (97) 松井かおり:令和 6,7 年度瑞穂市立穂積小学校日本語初期指導教室・日本語指導教室指導助言者.
- (98) 松井かおり:令和 6,7 年度瑞穂市教育委員会外国人児童生徒教育担当者研修講師.
- (99) 松井かおり:令和 6,7 年度瑞穂市日曜教室(外国につながる子ども達の補習教室)実施,実施団体代表者.
- (100) 松井かおり:令和 6 年度瑞穂市教育委員会後援事業「外国につながる子どもと日本人児童生徒のための映像制作ワークショップ」実施団体代表者,瑞穂市民センター,11 月 17 日.
- (101) 松井かおり:令和 7 年度海津市保育協会異文化理解研修講師,海津総合福祉会館ひまわり,4 月 19 日.
- (102) 松井かおり:令和 7 年度「しばはちっ子プロジェクト」ボランティア説明会ファシリテーター,大同大学 G 棟,7 月 9 日,26 日.
- (103) 松井かおり:令和 7 年度教育フォーラム講演者,熱田区役所,7 月 13 日.
- (104) 松井かおり:令和 7 年度「クロスロード:外国につながる子ども学習支援員編」プレイ体験会講師,横浜国立大 Base Hazawa,8 月 3 日.
- (105) 松井かおり:令和 7 年度岐阜県外国にルーツをもつ子どもの学習支援の担い手研修講師 各務原市産業文化センター,8 月 24 日.
- (106) 松井かおり:令和 7 年度瑞穂市立穂積小学校教職員人権研修講師,瑞穂市立穂積小学校,8 月 27 日.
- (107) 松井かおり:令和 7 年度瑞穂市国人児童生徒教育担当者研究授業授業実施者,瑞穂市立穂積小学校,10 月 2 日.
- (108) 松井かおり:令和 7 年度瑞穂市教育委員会後援事業「外国につながる子どもと日本人児童・生徒のための名前ワークショップ」実施団体代表者,瑞穂市民センター,12 月 7 日.
- (109) 松井かおり:令和 7 年度名古屋市多文化子ども支援者のネットワーキング研修講師,名古屋国際センター,1 月 31 日.
- (110) 松井豊次:特別企画:内田能嗣先生との思い出—偶然の一致,Brontë Newsletter of Japan,2025,110 号,p.5.

複写される方へ

本誌に掲載された著作物を複写したい方は、公益社団法人 日本複製権センターと包括複写許諾契約を締結されている企業の従業員以外は、図書館も著作権者から複写権等の行使の委託を受けている次の団体から許諾を受けて下さい。著作物の転載・翻訳のような複写以外の許諾は、直接本会へご連絡下さい。

〒107-0052 東京都港区赤坂9-6-41 乃木坂ビル2階 一般社団法人 学術著作権協会
TEL : 03-3475-5618 E-mail: info@jaacc.jp

アメリカ合衆国における複写については、次に連絡して下さい。

Copyright Clearance Center, Inc.

222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923 USA

Phone: (978) 750-8400 E-mail: info@copyright.com

Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission from the following organization which has been delegated for copyright for clearance by the copyright owner of this publication.

Except in the USA

Japan Academic Association For Copyright Clearance (JAC)

6-41 Akasaka 9-chome, Minato-ku, Tokyo 107-0052 Japan

TEL: 81-3-3475-5618 E-mail: info@jaacc.jp

In the USA

Copyright Clearance Center, Inc.

222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923 USA

Phone: (978) 750-8400 E-mail: info@copyright.com

大 同 大 学 紀 要 第61巻

2026年 9 月 印刷

2026年 9 月 発行

編集兼発行者 大 同 大 学
研究・社会連携推進センター

〒457-8530 名古屋市南区滝春町10-3

代 表 者 渡 邊 慎 一

印刷所 (株)コームラ

代表者 鴻 村 健 司